

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 17 号



全日本大学ソフトボール連盟



明日は、きっと、できる。

新しい一撃は、 ワイドに効く。

ボール2個分のスイートエリアで、
弾くチカラがもっとワイドに。

壁面の多層化・薄肉化が生み出す高反発力。あのバットテクノロジーが
スイートエリアの拡大で、さらなる飛びの性能を身につけた。ソフトボールの
すべての飛びは、もはや過去のものになる。ニューAX4、誕生。

〈ミズノプロ〉AX4(エーエックスフォー)

[3号/革・ゴムボール用] ¥39,900(本体¥38,000) ●カーボン+グラス ●φ57mm ●中国製



2TP-52640 (84cm・平均740g) ●トップバランス ●ネイビー×ブラック



2TP-52740 (84cm・平均690g) ●トップバランス ●ブルー×ピンク



2TP-52650 (85cm・平均750g) ●ミドルバランス ●レッド×ブラック



2TP-52740 (84cm・平均700g) ●ミドルバランス ●レッド×オレンジ



2TP-52660 (86cm・平均760g) ●ミドルバランス ●ブラック×シルバー

ミズノは、全日本女子ソフトボールチームのオフィシャルサプライヤーです。

mizuno.jp ☎0120-320-799



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長

一 谷 宣 宏

学連機関誌「ウインドミル」第17号の発刊にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

平成25年度の諸行事も滞りなく終了し、その成果をここに機関誌としてまとめ上げ、皆様にお届けできる運びとなりましたこと大変うれしく思っております。25年度も大学選手権大会を核にし、各ブロックの活性化、ソフトボール競技の充実を目指す研究等多くの有意義な活動が展開されました。各地区のソフトボールにかける情熱がひしひしと感じられる思いで一杯です。本機関誌は、唯単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し皆様のお役に立てばの願いから創刊されたものであることを再確認して頂き、学生ソフトボールの在り方、将来性を確認していこうではありませんか。そのような意味で、機関誌「ウインドミル」から得られる情報や研究の成果を大切にしたいと存じます。

さて、何はさておいても、学生諸君・諸姉のソフトボール国際大会への参加と日本での大会開催こそが全日本大学ソフトボール連盟の大きな役割であると認識致しております。また、2020年に開催される東京オリンピック大会において、ソフトボールが正式種目に復活することも、大学ソフトボールの発展の大きな推進力になります。皆さんとともに、必ずの復活を願うばかりでなく行動を続けましょう。

最後になりましたが、学連機関誌「ウインドミル」第17号の発刊にあたりご尽力いただきました広報記録部会をはじめとする関係各位の皆様にご敬意を表しご挨拶と致します。

ウインドミル

第17号

目 次

ごあいさつ ●会長 一谷 宣宏	1
〔巻 頭 言〕 ●スポーツ政策と学生スポーツの連携や如何に	4
副会長 中野 元	
〔事業報告〕 ●平成25年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 高橋 伸次	
ニュージーランド遠征選手団	6
〔特 集〕 ●東アジアカップ大学日本代表全チームに輝く善戦	7
〔実践研究〕 ●学校体育におけるソフトボールについて	11
ー楽しいソフトボールの指導事例ー	
岩間 英明 二瓶 雄樹	
〔卒業論文〕 ●ソフトボールの体育教材としての課題と可能性	18
高野 響	
主催大会の記録 ●文部大臣杯第48回全日本大学男子選手権大会	22
全日本大学選手権大会入賞校一覧	33
●文部大臣杯第48回全日本大学女子選手権大会	34
インカレPR（広報活動）について	44
共催大会の結果 ●第28回東日本大学選手権大会	46
●第45回西日本大学選手権大会	48
後援大会の結果 ●第12回大学ソフトボール東海オープン	50
●第14回「峠のまち」Matsuida Cup	52
●2013 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	52
●藤原初男杯第5回	
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	53
●第44回関東大学男女ソフトボール選手権大会	54
全国大会の結果 ●第59回全日本総合男子選手権大会	56
●第65回全日本総合女子選手権大会	57

各地区の大会結果●北海道・東北地区	春季大会	-----	58
	選手権大会	-----	59
	秋季大会	-----	59
●関東地区	春季リーグ戦	-----	60
	選手権大会	-----	62
	秋季リーグ戦	-----	63
●北信越地区	選手権大会	-----	65
	新人選手権大会	-----	66
●東京地区	春季リーグ戦	-----	67
	インカレ2次予選	-----	69
	秋季リーグ戦	-----	69
●東海地区	春季リーグ戦	-----	72
	選手権大会	-----	76
	秋季リーグ戦	-----	77
●近畿地区	春季リーグ戦	-----	81
	秋季リーグ戦	-----	86
●中国地区	インカレ予選会	-----	91
	選手権大会	-----	92
●四国地区	男子春季大会	-----	93
	インカレ予選会	-----	93
	秋季大会	-----	94
●九州地区	春季大会	-----	95
	秋季大会	-----	96
調査研究部会●加盟チームによるソフトボール普及活動の実績報告	-----		97
	原稿等の募集	-----	98
	投稿規定・執筆要項	-----	98
広報記録部会●連盟表彰	-----		99
	早稲田大学吉村監督N A F A殿堂入り	-----	99
	第13回東海オープン出場チーム募集	-----	100
	第11回全国国公立大学大会出場チーム募集	-----	102
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----		103
	平成25年度加盟大学一覧	-----	105
編集後記	-----		107

【巻頭言】 スポーツ政策と学生スポーツの連携や如何に

副会長 中 野 元（熊本学園大学）

最近、1・2年生の授業で、日本のスポーツ政策について語ることが多くなった。折しも、世界のスポーツの祭典であるオリンピック、2020年の開催地は東京に決まった。「トウキョウ」の声は感動的でさえあった。前回の東京オリンピック、私は小学生だった。みんなで視聴覚教室のテレビにかじりついて観た。思い返すたびに、まざまざと多くの場面が甦ってくる。わくわくしながら日本選手団の入場行進に見入った。陸上競技場に入ってきた男子マラソン円谷選手を必死に応援した。ヘーシング選手の体は大きかった。言い出したらきりが無い。今から思えば、東京オリンピック自体に意味があった。日本は敗戦からしっかり復興した。総じて、日本は先進国としての地位を確立した。

あれから50年。現在、わが国は1961年制定の「スポーツ振興法」以来はじめて全面改正された「スポーツ基本法」を新たに制定した。その基本理念では、人々はスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利があると謳っている。これから日本人の生活の中に多様なさまざまな自主的なスポーツ活動が根付く。相互の信頼と研鑽を通じて、健康で活力ある地域づくりが展望される。地域のスポーツ活動は、住民による自主的取り組みを基本に地域の実情に合わせて独自に推進できる。地域主権に基づく地域スポーツづくりが謳われている。ヨーロッパにおける健康都市づくりが新たに日本で展開される時代になったのか。いや、良いことばかりではない。実際には解決すべき課題は多いし、深い。

私は社会福祉学部ライフ・ウェルネス学科に所属している。この学科は2009年4月に創設された。社会福祉教育の中であって、スポーツと健康づくりをテーマにしている。当然、総合型地域スポーツクラブとの関わりでも授

業が組まれている。やまが総合スポーツクラブをはじめいくつかのクラブと連携したフィールド学習も実施している。ところが、学生たちのなかには、高齢者を中心とした地域のレクリエーションクラブと勘違いしていることがある。最近、よく気になる。これまでの行政主導によるスポーツ振興は、これからは住民主体の自立的運営を基礎としたスポーツ推進へと転換した。このことが、実感できていないようにも思う。

ヨーロッパの「クラブ」では、スポーツに参加する住民はただ競技をするというのではなく、クラブ運営から会員の相互交流などまで多様なスポーツライフを楽しむ。専用の競技場だけでなく、クラブハウスあり交流ピクニック、パーティありと企画満載だ。多くの企業がクラブを支援し、当たり前のように積極的に地域貢献を行っている。会員による合議・運営方針の決定など、組織運営システムも機能している。それに対して、日本の学生たちは競技に優れていればいる程、指導体制や学校のバックアップなどを自明の前提にしがちだ。本音は、自分の競技だけに集中したいのだろう。これでは、より良い条件を与えられることでしかスポーツライフを実感できない。

新たなスポーツクラブは、3つの多様性を前提に運営されるという。「種目」の多様性、「世代」の多様性、「スキル」の多様性だ。大学の学生スポーツは、21世紀の国民スポーツ推進政策「スポーツ推進2013」に立脚し、社会的使命を有する「スポーツ立国」を実現するために、どのようなスタンスで進むべきなのか。各クラブとの連携の仕方から新たな地域づくり、人づくりまで検討が必要になるのかもしれない。

【事業報告】 平成25年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 高 橋 伸 次（高崎経済大学）

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第48回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、大阪府協会のご協力のもと、男子は舞洲運動公園、女子は交野市総合体育施設を主会場に開催されました。男女併せて64チームが参加する大会となって2年目、男女各4会場の確保とその設営には大変なご苦勞をおかけすることとなりました。

大会二日目は前夜からの雨に見舞われました。女子会場はいち早く中止を決断し順延としましたが、男子会場では、空模様をにらみながらのグラウンドの水抜き・土入れ・ならし、再び降雨による試合中断と整備、また会場変更などを繰り返しながら試合を強行し、予定通りに日程を終えることができました。これもひとえに大阪府協会の適切な判断と連携のとれた組織力のおかげと言えるでしょう。しかし一方で忘れてならないのは、試合待機やグラウンド整備、そして急な会場変更の要請に快く応えてくれた各チームの協力的な態度でした。試合を控えて、その準備の難しさや有利不利を超えて、運営側の苦勞を理解し対応してくれたことに深く感謝いたします。

また、今大会では関西学連の学生が各会場の設営・撤収のみならず、会期中も会場係として放送や整備等の運営に携わってくれました。のべ人数100人超の協力体制でインカレを支えてくれた関西学連の皆さんにも心よりお礼申し上げます。

男子は早稲田大学がみごと連覇を果たしました。投・攻・守・走における水準の高さは今回も突出していました。準優勝には同志社大学、第三位は日本体育大学と高知工科大学でした。特に高知工科大学は四国地区代表による初の入賞であり、インカレ史上初の快挙でした。

女子は中京大学が悲願の初優勝を飾りました。

三連覇をねらう園田学園女子大学との決勝戦では、息詰まる投手戦が繰り広げられ無得点のままタイブレーカーに突入。8回表に園田が1点先行したその裏に逆転サヨナラの2点適時打が飛び出し劇的な幕切れとなりました。まさに球史に残る決勝戦であったと思います。第三位にはIPU環太平洋大学と地元の声援を力に躍進した大阪国際大学が入りました。

なお、今大会においても首藤学生委員長を中心とする「インカレPRチーム」を各会場に配置し、結果速報などの広報活動を展開しました。引き続きPRチームの位置づけを高めていきたいと思います。また、学生スポーツ専門動画配信サイトの「ジェイネットTV」と契約を交わり、今大会の男女決勝戦の動画配信およびDVD&ブルーレイの販売を新たな試みとして導入しました。女子の決勝戦については(公財)日本ソフトボール協会による動画配信も行われ、こうしたコンテンツによって、インカレの面白さがますます広がっていくことを期待しているところです。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、それぞれ岩手県花巻市と鹿児島県南九州市で開催されました。震災復興支援大会として、花巻市では昨年に続いて開催していただきましたが、来年はインカレの開催を予定しています。

また後援大会については、今年から長野県白馬村で行われていた「白馬カップ大学女子大会」を加え、5つの地区で11大会が開催されました。こうしたオープン大会を支援する意図は、もとより大学ソフトボール界全体の底辺の拡大とレベルアップにあります。近年、大会運営において強化のみに重きを置いた傾向が見られます。登録チーム数や選手数が減少しつつある中、改めて、さまざまなチームが参加しやすい大会運営を求めているかなければと思っています。

国際関係では、大学女子代表チームが、岐阜

県揖斐川町で開催された「第2回東アジアカップ」に日本代表チームとともに出場しました。初日が雨天中止になったことから、予選リーグのみの日程となり、また日本からは2チームの参加だったため、予選リーグの上位チームに順位がつけられることになりました。

大学チームは韓国、中国を撃破し、無敗同士の日本代表との試合は事実上の決勝戦でした。日本代表の強力打線に対して、その後インカレ決勝で投げ合うことになる泉（園田学園女子）と長谷川（中京）の継投で1失点しか許しませんでした。世界の上野投手から得点することはできませんでした。しかし、上野投手が完投せざるを得ないほどのポテンシャルが、大学チームにはあったということではないでしょうか。大学チームは次の台湾戦にも勝利し、十分にその力を見せることができた大会となりました。次回は中国での開催が予定されています。

また男子については、今年度の事業として平

成26年2月9日～21日までの間、ニュージーランド（NZ）に選抜チームを派遣する予定になっています。前回同様、NZ国内でも権威のある「National Fastpitch Championship」への参加をはじめ、ホームステイや文化施設見学などの国際交流プログラムが企画されています。NZでの経験を、あらゆる形で大学ソフトボール界のために還元してくれることを願っております。

最後となりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたりご尽力賜りました(公財)日本ソフトボール協会、各地区の主管協会をはじめ多くの関係者に厚くお礼申し上げます。来る平成26年度の事業においても、今年度の反省を踏まえて、大学連盟のより一層の発展のため全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成25年度全日本大学男子選抜チームニュージーランド遠征

1. ニュージーランド遠征の目的

ニュージーランド遠征は、全日本大学ソフトボール連盟加盟男子大学から選手を選抜し、世界のソフトボール界において高いレベルのニュージーランドに訪問して、大会（NFC TOURNAMENT）参加並びに交流試合を経験することで、ソフトボール技術の向上を目指すものである。また、ホームステイを通じて現地での人的交流・親善を深める。これらにより、大学の枠を越えた学生交流の充実とともに、国際交流及び相互理解を深めることを目的とする。

2. 期 間 2014年2月9日(日)から2月21日(金)までの13日間

3. 訪問国 ニュージーランド（クライストチャーチ、オークランド他）

4. スタッフ

団 長 中野 元 熊本学園大学
 コーチ 吉田 智行 神戸学院大学

監 督 高橋 流星 日本体育大学
 総 務 吉末 和也（関西大学）

5. 派遣選手（守備位置別50音順）

投 手 大嶋 翼 早稲田大学2年
 投 手 尾矢 祥嗣 中京学院大学3年
 投 手 楠岡 侑也 神戸学院大学2年
 投 手 佐野 浩平 同志社大学2年
 投 手 永野 塁 神戸学院大学2年
 捕 手 西里 博樹 中京学院大学2年
 捕 手 森 大祐 神戸学院大学1年
 内野手 杉山 貴久 立命館大学3年
 内野手 中原 滉生 同志社大学3年

内野手 二宮 正地 福岡大学3年
 内野手 溝口 聖 早稲田大学2年
 内野手 横山 嵩洋 日本体育大学3年
 内野手 吉田 亨平 早稲田大学3年
 外野手 大柿 廣明 関西大学2年
 外野手 谷本 卓哉 日本体育大学2年
 外野手 西森 圭祐 国士舘大学3年
 外野手 平岩 裕基 中京大学3年
 外野手 湯浅 拓人 日本体育大学2年

【特集】 東アジアカップ 大学日本代表 全チームに輝く 善戦

■派遣選手

No.	守 備 氏 名	所 属	UN	年 齢
1	投 手 泉 礼花	園田学園女子大学	11	4
2	〃 井本 妃里	東京国際大学	16	4
3	〃 長谷川 朋子	中京大学	17	4
4	〃 平原 かすみ	東京女子体育大学	18	4
5	捕 手 清原 奈侑	園田学園女子大学	23	4
6	〃 澤井 美佑	日本体育大学	25	3
7	内野手 岩 寄 楓	山梨学院大学	14	4
8	〃 岩 見 香枝	日本体育大学	3	3
9	〃 中川 なおみ	園田学園女子大学	12	3
10	〃 二階堂 夏帆	日本体育大学	5	4
11	〃 古 澤 春菜	園田学園女子大学	6	3
12	〃 松 畑 美希	日本体育大学	4	3
13	〃 山本 絵梨奈	東京女子体育大学	13	3
14	外野手 川村 可奈子	園田学園女子大学	7	4
15	〃 塚 本 智名	中京大学	8	3
16	〃 土 肥 里奈	山梨学院大学	9	4
17	〃 長谷川 千尋	鈴鹿国際大学	19	4

■スタッフ

ヘッドコーチ：木田 京子（園田学園女子大学）
 コー チ：佐藤 理恵（東京女子体育大学）
 コーチ兼総務：二瓶 雄樹（中京大学）
 トレーナー：大石 益代（(公財)日本協会）

●大会概要

◆7／5（第2試合）予選リーグ第1試合

韓 国 0 0 0 0 0 : 0
 大学日本 2 0 3 1 1 x : 7

[大]○泉・井本ー清原（本）中川・二階堂
 （三）川村・古澤（二）塚本・山本

【評】雨で順延した開幕第2試合に大学日本代表が登場。昨年、韓国・大邱で開催された「第1回東アジアカップ」を制した「ディフェンディングチャンピオン」が韓国と対戦した。

大学日本代表の先発は泉礼花。インカレ2連覇を成し遂げた「エース」に大事な初戦の先発が託された。その立ち上がり、先頭打者に安打を許し、送りバントで得点圏に走者を送られたものの、いつもながらの冷静でクレバーなピッチングで後続

をセンターフライ、空振りの三振に斬って取り、このピンチを無失点で切り抜けた。

大学日本代表はその裏、先頭の塚本智名がライト前にフラフラッと上がるフライを打ち上げたが、ライトが目測を誤り、幸運な二塁打。さらにイリーガルピッチで労せずして三塁へ進み、2番・川村可奈子がライトオーバーのタイムリースリーベースを放ち、あっさり1点を先制。一死後、4番・山本絵梨奈にもライトオーバーのタイムリーツーベースが飛び出し、この回2点を先制した。

勢いに乗る大学日本代表は、3回裏には、一死一・二塁から5番・中川なおみが豪快なスリーランを放ち、3点を追加。4回裏にも代打・二階堂夏帆がレフトスタンドにソロホームランを叩き込み、着々とリードを広げた。

守っては、先発・泉礼花が4回まで被安打3、奪三振4の力投で4回を無失点に封じれば、5回から登板した井本妃里も四球を一つ与えたものの、無失点に抑え、韓国打線につけ入る隙を与えず、凡打の山を築かせた。

大学日本代表は5回裏、一死から代打・土肥里奈がサード前に絶妙なバントヒットを決め、チャンスを作ると、すかさず盗塁で揺さぶり、捕手の悪送球を誘って一死三塁とチャンスを広げた。二死後、8番・岩見香枝が粘って四球で歩き、9番・長谷川千尋が左中間を痛烈に破る安打を放ち、5回コールド勝ちに必要な7点目を奪い、7－0で韓国に圧勝。5回コールド勝ちでまず1勝を挙げた。

◆7／6（第2試合）予選リーグ第3試合

中 国 0 0 0 0 0 0 0 : 0
 大学日本 0 0 0 3 1 3 x : 5

[大]○長谷川・泉・井本ー清原

（二）岩寄・塚本

【評】前日、韓国にコールド勝ちした大学日本代表は、「日本代表」が苦しめられた中国・ワンランを攻略。5－0で快勝し、2勝目を挙げた。

大学日本代表の先発は左腕・長谷川朋子。その

立ち上がり、二死から四球を与えたものの、落ちて後続を空振り三振に仕留め、無難な立ち上がりを見せた。

中国の先発はワン ラン。前日、「日本代表」を相手に被安打4・失点2（自責点1）と好投した大型右腕が、大学日本代表の前に立ちはだかった。大学日本代表は初回、一死から2番・長谷川千尋がバント安打で出塁したものの、後続がファーストゴロ、ショートフライに倒れ、無得点に終わった。その後は大学日本代表・長谷川朋子、中国・ワン ランが力投。両チーム無得点のまま、3回を終了した。

中国は3回表、一死二塁から2番・ジェ シェホウが三遊間を破り、「先取点か・・・」と思われたが、7-2-4とわたる見事な連係プレーの前に、二塁と欲張った打者走者がタッチアウトとなり得点ならず、続く4回表にも二死一・二塁のチャンスをつかみながら、「あと一本」が出ず、押し気味に試合を進めながら、得点を奪うことができなかった。

一方、大学日本代表は、3回までわずか1安打に抑えられていたが、4回裏、相手守備の乱れから一死一・三塁の好機をつかみ、5番・中川なおみが初球を積極的に狙い、レフトへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者を迎え入れ、試合の均衡を破る先取点を挙げた。

勢いづいた大学日本代表は5回裏にも、この試合を含め3連投と疲れの見えるワン ランを攻め、4安打を集中し、決定的な3点を追加。中国のエース・ワン ランをKOし、勝負を決めた。

大学女子日本代表は、6回裏にも、代打・岩寄楓、1番・塚本智名の2本の二塁打でダメ押しの1点を加え、中国にトドメを刺した。

守っては、先発・長谷川朋子が5回を投げ、被安打2・無失点の力投で試合を作れば、6回表は「インカレ2年連続優勝投手」泉礼花が失策の走者を1人出したものの、ノーヒットピッチングでセットアッパーを務めれば、最終回は井本妃里が先頭打者に安打を許したものの、味方守備陣の好守にも助けられ、次打者をセカンドゴロ・ダブルプレー。最後の打者をファーストゴロに打ち取り、

中国打線に最後まで得点を許さず、5-0で快勝した。

今大会2勝目を挙げた大学日本代表。昨年、各国の代表チームを相手に、記念すべき第1回東アジアカップの「初代チャンピオン」に輝いた「実績」は決してブロックではなく、しっかりとした「実力」に裏打ちされたもので、その戦いぶりは、今大会に関して言えば、どちらが「日本代表」か、わからないほど堂々とした戦いを見せている。この試合の先制点の場面でも、普通なら自重するレフト定位置より浅めの打球を、レフトのスローイング、肩の強さに難があることを読み切り、積極果敢に本塁を狙わせ、先取点を奪う等、若さだけではない「したたかさ」も持ち合わせている。

また、「日本代表」が苦戦を強いられた中国のエース・ワン ランに4安打を浴びせ、KOした5回裏の集中打も圧巻だった。明日に予定されている「日本代表」との一戦が、いろんな意味で楽しみになる、そんな試合内容での快勝だった。

◆7/7第1試合（予選リーグ第3試合）

日本代表 0100000 : 1
大学日本 0000000 : 0

[日]○上野一峰

[大]●泉・長谷川一清原

【評】大会最終日、日本は大学日本代表と対戦。昨年の「世界チャンピオン」が、同じく「東アジアカップ」の記念すべき第1回大会の覇者と「激突」とあって、注目が集まった。

大学日本代表の先発は、「2年連続インカレ優勝投手」泉礼花。いつも通りの冷静で落ち着いた立ち上がりを見せ、日本の初回の攻撃を三者凡退に抑え、上々の滑り出しを見せた。

日本の先発は、もちろん「世界のエース」上野由岐子。先頭打者の塚本智名にいきなりレフト前へ運ばれたものの、2番・川村可奈子には送りバントすら許さず、バント失敗のピッチャーへの小フライで一死。3番・古澤春菜のところでヒットエンドランを敢行するが、これがセカンドフライとなり、スタートを切っていた一塁走者が戻れず、ダブルプレー。こちら「貫禄」のピッチングで

順調な立ち上がりを見せた。

日本は2回表、4番・峰幸代の強烈なサードへの当たりがエラーを誘い、ノーアウトのランナーを出すと、続く5番・大久保美紗の送りバントがフィルダースチョイスとなり、無死一・二塁。6番・永吉理恵のピッチャーゴロで二・三塁へ進塁し、7番・島崎望が初球を狙い、一・二塁間を鋭く破るタイムリー。1点を先制し、なお一死一・三塁と追加点のチャンスが続いたが、8番・小野奈津子はスクイズ失敗の後、浅いライトファウルフライ。三塁走者は動けず、9番・市口侑果もショートフライに倒れ、1点止まり。一気に大学日本代表の息の根を止めることはできなかった。

日本の先発・上野由岐子は、4回裏に自らの失策で一人走者を出した他は、すべて凡打で退け、走者が出れば二度の併殺で切り抜ける等、ほぼ完璧なピッチング。わずか1安打、他にエラーで出塁した走者が一人だけでは、どうすることもできなかった。

一方、追加点のほしい日本は、4回表に先頭打者が安打を放ちながら、それを進めることすらできず、6回表の一死満塁の絶好機でも「あと一本」が出ず、無得点。1点差のまま、試合は最終回を迎えた。

大学日本代表は最終回、この回先頭の1番・塚本智名が三遊間深く転がし、内野安打。この試合2本目の安打で気を吐いたが、次打者の送りバントはフィールディングの上手い上野由岐子の正面を突き、セカンドフォースアウト。3番・古澤春菜がサードの頭上をワンバウンドで越える安打を放ち、一死一・二塁の一打同点、あるいは長打が出れば逆転という場面を作り、詰めかけた満員の観衆を沸かせたが、ここからが「世界のエース」上野由岐子の真骨頂。後続を連続三振に斬って取り、全勝を守った。

◆7/7第3試合（予選リーグ第4試合）

大学代表 0310404 : 12
台 湾 0000231 : 6

[大] 泉・○平原・井本・長谷川・泉一澤井・清原
(本) 中川・川村 (二) 長谷川・岩見

【評】大会最終日、本大会の最終戦、締めくくの一戦は、大学日本代表とチャイニーズタイペイの対戦となった。

大学日本代表は2回表、相手守備陣の3連続失策で無死満塁とし、一死後、9番・土肥里奈がストレーターのフォアボールで押し出し。労せずして1点を先制すると、1番・塚本智名への死球で再び押し出し。2点目を挙げ、2番・長谷川千尋がセンターへ犠牲フライを放ち、三塁走者を迎え入れ、この回ノーヒットで3点を先制した。

さらに、大学日本代表は、3回表に4番・中川なおみのソロ本塁打で1点を追加。5回表には、2番・長谷川千尋のレフトオーバーのツーベースを口火に、5本の長短打を集中。4点を追加し、このまま5回コールドで試合終了と思われた。

しかし、チャイニーズタイペイがここから猛反撃。5回裏、代わった井本妃里を攻め、2点を返してコールド勝ちを免れると、2回裏にも、4番・リスのソロ本塁打を含む4長短打を集中して3点を返し、3点差まで追いつけた。

大学日本代表は7回表、一死から途中出場の6番・清原奈侑、7番・二階堂夏帆、8番・岩見香枝の3連続長短打で2点を追加。二死後、これも途中出場の1番・川村可奈子がレフトスタンドにトドメのツーランを叩き込み、この回大量4点を挙げ、粘るチャイニーズタイペイを振り切った。

●総評

大学日本代表は、昨年の「第1回東アジアカップ」に引き続き、各国の代表チームを相手に堂々たる戦いを見せ、韓国に7-0の5回コールド勝ちを収めたのを皮切りに、中国に5-0、日本には0-1で敗れたものの、最終戦のチャイニーズタイペイ戦も12-6で大勝し、「初代チャンピオン」の名に恥じない戦いを見せた。また、その試合内容を振り返ると、大会規定（ホスト国での2チーム出場は特例。予選リーグで順位が上のチームが最終順位決定戦に進むことになっており、悪天候で予選リーグのみの実施となり、それを最終順位とすることになった）により、日本との「全勝対決」に敗れた大学日本代表に順位はつかなか

ったが、今大会で一番輝いたチームであり、優勝した日本代表とともに、日本のソフトボールのレ

ベルの高さ、クオリティの高さを証明した「ベストチーム」であった。

■最終成績

予選	日本代表	大学日本代表	中 国	台 湾	韓 国	勝	敗	得点	失点	順 位
日本		○ 1 - 0	○ 2 - 1	○ 3 - 2	○ 7 - 0	4	0	13	3	1 位
大学	● 0 - 1		○ 5 - 0	○ 12 - 6	○ 7 - 0	3	1	24	7	—
中国	● 1 - 2	● 0 - 5		○ 12 - 5	○ 5 - 0	2	2	18	12	2 位
台湾	● 2 - 3	● 6 - 12	● 5 - 12		○ 9 - 0	1	3	22	27	3 位
韓国	● 0 - 7	● 0 - 7	● 0 - 5	● 0 - 9		0	4	0	28	4 位

※悪天候のため、決勝トーナメントが行えず、予選リーグの結果が最終結果となった。
※最終順位の決定については、日本の2チームのうち、上位チームのみを日本の順位とした。

※※(公財)日本ソフトボール協会HP <http://www.softball.or.jp/eac2013/>から転載させていただきました。

第2回東アジアカップ報告 大舞台で成長する学生たちの頼もしさ

アシスタントコーチ兼総務 二瓶 雄樹（中京大学）

私自身、選手としても指導者としても初めて、国際大会に参加させていただきました。今回は自国での開催ということもあり、通常国際大会で苦難する他文化でのチーム運営の難しさを感じることはありませんでした。買い物や洗濯は用意していただいたレンタカーを使用し、20分圏内で用が足りまし、何よりも他のスタッフ3名の豊富な経験に支えられて、スムーズに選手サポートを行えたと感じています。また雨天順延による練習会場の確保には、近隣大学（岐阜経済大）の施設をお借りでき、大変に助かりました。

試合では、「あまり情報の無い相手とどう戦うか」という難しさを強く感じました。もちろん動画やスコアをとり、ミーティングで対応方法が話し合われ、準備は怠りませんでしたが、それ以上に試合の中での選手個々の適応力とそのスピード感の必要性を感じました。このような難しい状況の中でも、昨年同代表を経験している選手10名の存在は大変頼もしく、またそれに引っ張られる形で、初代表の選手たちも自信を持ってプレーしていたように思います。選手は日々、試合を追うごとに成長し、この大舞台が大変有意義なものであ

ることに疑いは無く、また成長していく選手たちを頼もしく思いました。その成長は結果にも繋がり、他国代表には負けず、日本代表とも互角の試合ができました。この経験は、彼女たちのソフトボール人生に大きな影響を与えただけではなく、人生そのものに大きな影響を与えることと思います。彼女たちにはこの経験を自信に、ソフトボールの発展に寄与することはもとより、多分野での活躍を期待したいと思います。

一方この成功の陰には、代表スタッフとして経験豊富な木田ヘッドコーチ、自身が選手として数々の国際大会を経験している佐藤コーチ、そしてベテラントレーナーの大石さんの存在が大きく、それをサポートできた小生は大変幸せに感じました。このような機会を与えていただいた日本ソフトボール協会、全日本大学ソフトボール連盟の関係者の方々とご尽力くださった皆様に深く感謝いたします。私自身、この経験を今後、ソフトボールの発展に繋げていかなければいけないと改めて責任の重さを感じた次第であります。たくさんの素晴らしい思い出と貴重な経験をさせていただいたこと、本当にありがとうございました。

【実践研究】 学校体育におけるソフトボールについて ー楽しいソフトボール授業の指導事例ー

研究調査部 岩 間 英 明（松本大学） 二 瓶 雄 樹（中京大学）

I. 体育授業におけるソフトボールの現状

学習指導要領の改訂により、中学校の球技は種目の特性により「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の3つに分類される。さらに中学校1～2年生のうちに、全ての型のスポーツ種目を経験させなければならないこととなった。それぞれの型で採り上げられたスポーツ種目は、ゴール型はバスケットボール・サッカー・ハンドボール、ネット型はバレーボール・テニス・バドミントン・卓球などで、それぞれ複数種目が示されているが、ベースボール型だけはソフトボール1種目だけが採り上げられている。

これはソフトボールが全国の中学校で必修化されたことを意味し、全国民が学校体育で必ずソフトボールを経験するということである。すなわち、ソフトボール界からみれば、ソフトボールの普及・発展という意味で大変な好機が到来したことになる。

そのため、日本ソフトボール協会ではいち早く「学校体育ソフトボール」を提示し、生徒が安全で楽しくソフトボールに親しめるように、体育授業に合ったルールや用具の開発を行った。また、それだけではなく、地方協会が主体となって、実業団や大学の指導者などを学校や教員の研修会等に派遣したり、講習会を開催したりして、ソフトボールを学校体育に取り入れるための支援を積極的に行ってきた。その結果、これまでに比べ、生徒が体育授業でソフトボールに興じる姿が数多く散見されるようになった。

しかし、その一方で、実際に学校現場で授業をしている教員の一部からは「学校体育ソフトボール」はおろか「ソフトボール」そのものについても、体育授業の教材としての適性について否定的な意見も耳にする。2012年度に実施した動向調査(n=47)では、

◇他のスポーツ種目比べて個人差が大きい

◇技能レベル、ルール理解が低い上、習得に時間がかかる

◇運動量の確保ができない

◇用具を揃えるのが予算的に難しい

◇安全に配慮したグラウンドの広さを確保できない
などの意見があげられた。

そのため、ソフトボールを教材として採り上げはするものの、単元展開ではゲームをせずに練習だけに留めたり、ハンドベースボールやキックベースなどソフトボールとは違うベースボール型の種目に変更したりしている。さらには今回の調査対象となった学校の中で、ベースボール型の種目そのものを授業で実施していないという学校も4校(8.5%)あったというのが現実の姿である。

II. 「学校体育ソフトボール」の普及状況

一方、日本ソフトボール協会が体育授業を念頭に示した「学校体育ソフトボール」も、期待されたほど普及が進んでいないというのが実情である。

「学校体育ソフトボールを知っている」という教員は21校(44.7%)で全体の半数にも満たない。さらに、実際に「学校体育ソフトボール」のルールを利用して授業をしているのは、これを認知している教員のうちの9校(42.9%)で、全体から見ればわずか19.1%と、8割の学校では「学校体育ソフトボール」は実施されていない。

このように、ソフトボールを体育で授業展開するために考案された「学校体育ソフトボール」が、学校現場で浸透していかない理由は、

◇用具を一式揃えるための予算が確保できない。

◇オフィシャルルールに近過ぎて、生徒の実態に合った学習にならない。

といった点が挙げられており、「予算」と「学習内容」といった2つの点で、日本協会の構想と学校現場との乖離があったとも言える。

Ⅲ. 学校体育におけるソフトボールの普及戦略

「予算」については、今回の改訂でソフトボールが必修化された中学校の多くは、自治体が設置した公立学校であり、ソフトボールを実施するための体育予算が、特別に準備されている所はほとんどない。そのため、ボールやバットといった既存のソフトボール用品を、学校体育ソフトボール用の新しい規格のものに変更するのは、協会サイドが考えるよりも実際にはかなり大変なことである。

そのため、安全を配慮して開発した用具のコンセプトは、適切で非常に理想的であり、指導にあたる教員もその必要性は十分感じているものの、購入する学校は少ないという現実が生じている。そうした背景を踏まえ、ソフトボールの発展を長期的に捉えるのであれば、協会が各学校へ用具の無償配布なども考慮していくべきであろう。

しかし、そこには財源という大きな問題もある。そこで『ベースボール型スポーツの普及発展に寄与』という視座に立ち、日本野球連盟やNPB（日本野球機構）との連携を図ることを提案したい。若年層でのソフトボールの普及や女子のベースボール型スポーツへの関与は、プロを含めた野球ファンの長期獲得および層の拡大にもつながると考えられることから、将来的にも高野連、社会人野球、プロ野球球団やNPBから協力を得られる可能性は十分にあると思われる。

実際、NFL（National Football League 全米プロアメリカンフットボールリーグ）は、すでに日本での活動の主体となるNFL JAPANを設立し、同様の内容を戦略的に実施している。その中でNFLはアメリカンフットボールの簡易版として“フラッグフットボール”を導入段階として位置づけ、様々な試みを実施して学習指導要領への導入を目指している。その戦略は

アメリカンフットボールはルールがわかり難い



フットボールの基本構造を理解することが大事



基本構造がわかれば、フットボールの見方がわかる



アメフトファン予備軍、プレイヤー予備軍となる



NFLファン予備軍となる

というものである。さらにその環境づくりとして、全日本フラッグフットボール協会が毎年全国13～14会場で指導者講習会を開催し、約400校の教師に指導方法を指導している。そして、受講後、フラッグの取り入れを希望する学校へ用具の無償提供をする。莫大な負担ではあると思われるが、結局それが全国各地の小中学校の体育などでフラッグが行われることになり、フラッグを通してフットボールの基本構造を知る子ども達を増やすことにつながるというのである。

ソフトボールがNFLという世界規模のスポーツ団体と同じことはできないかもしれない。しかし、将来的にはNPBを含めた野球界を巻き込んで、ベースボール型スポーツの発展に寄与できるような形を模索していかなければならない。そして何よりも、ソフトボールはすでに学習指導要領に示されているスポーツであるということだけに安閑とせず、より一層学校現場の実態を踏まえた新しい指導方法を常に提示し続けていくべきであろう。また、そのような取り組みをしていくことは、文部科学省が示した「スポーツ立国戦略」の中の

○ライフステージに応じたスポーツ機会の創造

○世界で競い合うトップアスリートの育成・強化

とも完全に合致するものである。

Ⅳ. これからの学校体育におけるソフトボール

現在“ソフトボールは学習指導要領に示されているから実施されているだけで、教員からは必ずしも歓迎されている種目ではない”という現実を私たちは直視すべきである。こうした状況が続けば次回、あるいは次々回の指導要領の改訂で、ソフトボールは再び選択、または実施種目から除外される可能性がある。体育授業というある種特殊な状況でのスポ

ーツ活動であることを踏まえ、それに相応しい「体育学習ソフトボール」を提示することが必要である。そのためには、教育研究機関としての大学が組織する全日本大学ソフトボール連盟の責務は重大である。

そこで、今後、数回に分けて子どもたちが、楽しく学習できるソフトボールの展開例を、学生のアイディアも取り入れながら提示していくこととする。

【練習方法例】

《1》シュルシュルゲーム

[低い姿勢でゴロを捕球するための基礎的な練習]

地面にボールを置き、ゴールまでずっとボールを転がしていく。最初は直線を転がして進み、慣れてきたらいろいろとコースを変えてみたり、障害物を置いてみたりして、練習に変化を持たせるようにする。

片手や両手で転がしたり、素手やグローブを付けて転がしたりすることで、捕球姿勢の習得や多様な動きづくりにつなげることができる。

また、ある程度慣れてきたら、個人やチームで競争するとおもしろいであろう。その時、速さだけでなく捕球の姿勢なども得点化すると楽しみながら、正しい技術の習得にも結びつけられる。

(富士大学 大山颯希)



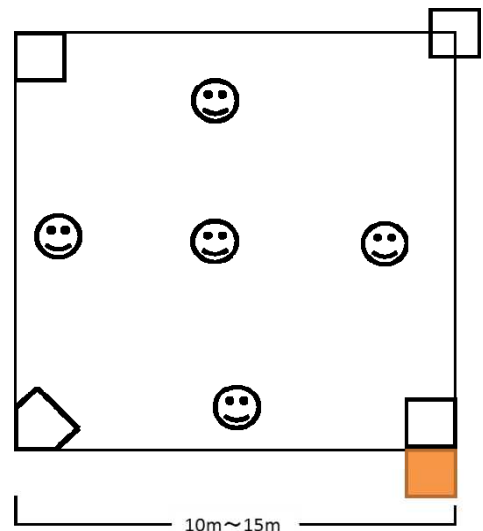
《2》バンドゲーム

[ボール打つための初歩的な段階での練習]

ソフトボール経験のあまりない子どもにとって「動いているボール」を「バット」で「打つ」というのはかなり難しい技術であり、習得までに時間がかかる。そこで、初歩的な段階の練習として、投げられたボールをバットに当てるだけの練習を行う。その際、子どもたちの興味関心を引くために右図のようなゲーム形式を採用してみる。

〈ルール〉

- ① 塁間の距離はオフィシャルルールよりも短くする。走力、守備力、バットコントロール能力、打球コントロール能力などを考慮して距離を決める。およそ10～15m程度が目安となる。
- ② 打者はバントのみ可とする。バントには様々な種類があるが、安全面を考え基本的にプッシュ系のバントは行わないものとする。
- ③ 1チーム5人とし、5イニング制のゲームを実施する。



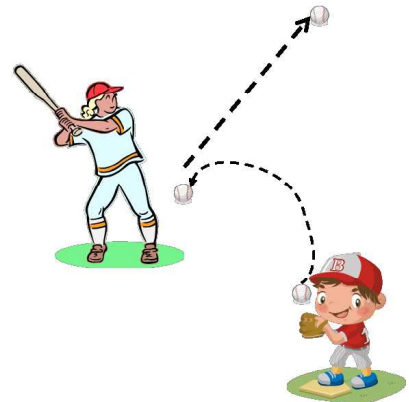
(富士大学 中田 楓)

《3》早打ちゲーム

[バットにボールに当てるというバッティングの基本の練習]

バッティングはボールにバットを当てる力であり、バットを思ったところに動かす、いわゆるバットコントロールやバットとボールが当たるタイミングをとる力が大切である。そのため、特にバットを振るという運動経験が少ない子どもたちには、「バットを振る」「ボールに当てる」という運動を数多く体験させる必要がある。

そこで、2人1組になってできるだけたくさんの紙を丸めたボールを打つ練習を行う。この練習ではバットを振る、バットをボールに当てるというバッティングの経験値を増やすことに主眼を置くものであるが、制限時間内に何回ボールを打てたかなどのゲーム化することも可能である。また、ボールを紙ボールからスポンジボール、ソフトボールへ変更したり、トスをあげる距離を伸ばしたりすることで、バッティングの習熟度を高めていくことができる。なお、安全上トスする者の前に、防球ネットを置くことが望ましい。



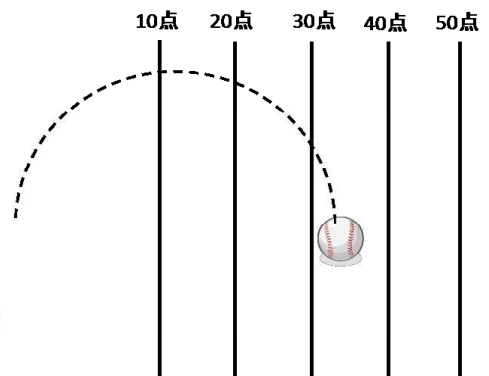
(富士大学 榎林茉実)

《5》バッティングゲーム

[バッティングのおもしろさを体感するとともに、打撃力を向上させるための練習]

バッティングは、ボールをバットの芯で捉え、遠くに飛ばすことができれば、楽しさやおもしろさを感じることができる。

しかし、反対にボールとバットが当たらなかったり、ボテボテの打球しか打てなかったとしたらバッティングの楽しさは味わえず、興味を失いかねない両刃の剣のようなところがある。そのため、



バッティングの練習は楽しさと同時に、打撃技術の向上を目指すことが必要である。

そこで、図のようにグラウンドに等間隔で直線を引き、打球がバウンドした所で得点を競い合い、ゲーム感覚でバッティング練習をしながら、打撃力の向上を図る。

チーム対抗戦として味方にトスしてもらったボールを打つが、単に遠くに飛ばすということだけでなく、地域を○で囲んで得点を変えたり、打球方向によって得点を変えたりすることで、バットコントロールや打球コントロールを身につける練習にも応用でき、バリエーションは豊富である。

(富士大学 内田千尋)

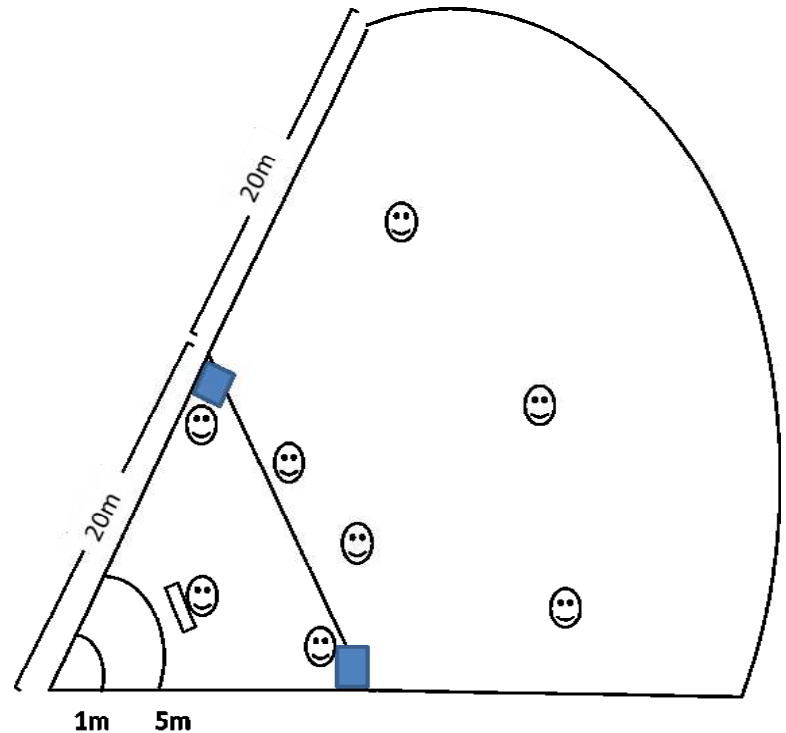
【提案ゲームⅠ】

提案ゲームⅠの授業は、用具や場を子どもの実態に合わせて設定し、ソフトボールの特性に触れさせようとするものである。

〈コート及び用具の例〉

①正三角形のコート、塁間は20m、ホームからネットまでは40mに設定する。（コートを小さくすることで、グラウンドの小さい学校でも最低2面はコートが作られる。）

②安全上及び試合内容的な配慮から、ホームから5mと1mにラインを引く。



③用具は安全やボールに対する恐怖心を生まないようにするため、最初は あたっても痛くないプラスチック製のバットとゴムボールを使用する。

④グローブは初めから着けて感覚を覚えさせる。

⑤慣れてきたところで徐々に通常のバットやソフトボールを使用する。

〈ルール例〉

①打撃は5mラインを、バントは1mラインをノーバウンドで越えなければならない。

②守備は8人制で、投手・一塁・三塁には必ず一人ずつ、一塁と三塁の間に2人、外野は3人とし、一塁と三塁の間の2人はどこを守ってもよいことにする。安全面を考え捕手は壁かネットを置くなどして補う。

③投手は下手投げとし、ワンバウンドかノーバウンドで相手のバッターに合わせて変えても構わない。

④打者はストライク・ボールなどのカウントはとらず、打撃が完了するまで打つことができる。

⑤3アウト制は採用するが、打順が一巡したら攻守交替とする。

⑥外野の後ろに落ちたら2ベースヒット、外野と内野の間に落ちたら1ベースヒットとする。

〈授業の進め方〉

3時間の単元構成とした場合、3時間目までは基礎練習、あとの5時間でいろいろなチームをつくり試合をする。1クラス40名程度として、8人制で5チーム編成をするため、4チームが試合、残りの1チームが練習をする。

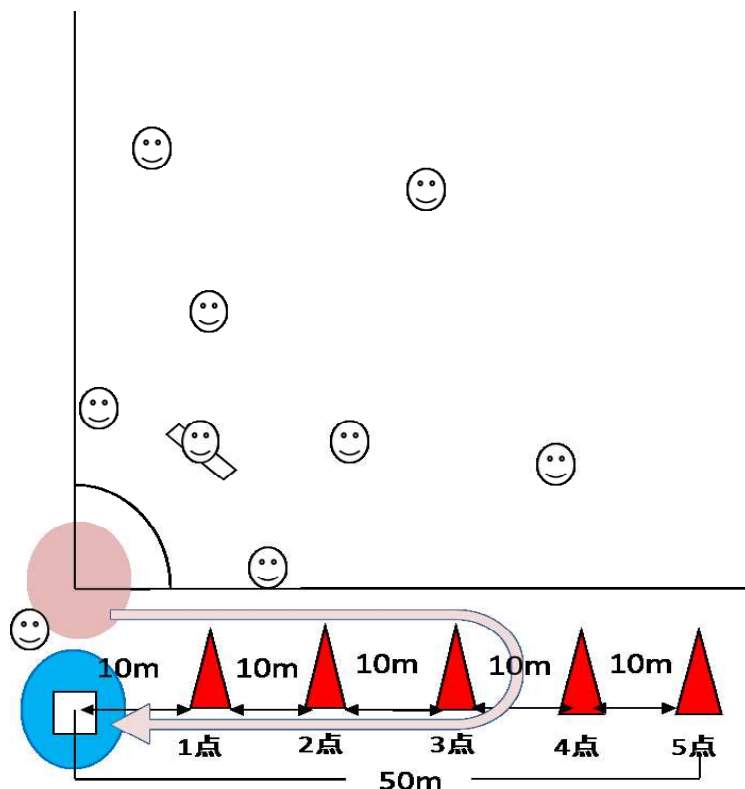
（龍谷大学 梅本貴美）

【提案ゲームⅡ】

提案ゲームⅡの授業は、ソフトボールの技術構造の中で「打者」VS「守備」の場面特性に着目したものである。

投手が投じたボールを打者が打つという通常の形での攻防を行う。ベース（三角コーン）は直線に並べて、そこをUターンして戻り、距離に応じて得点できることとする。

攻撃側は打球および守備側の状況に応じた走塁判断をして、ホーム（走者用の円）に戻ってくる。それに対し、守備側は打球を処理し、いち早くホーム（守備用の円）にボールを返球し、フォースプレーとして判断する。



具体的なルールは以下の通りであるが、子どもの実態に応じて、用具や距離、守備人数などの変更も可能とする。

〈ルール例〉

- ①用具はテニスボール、ソフトバレーボール、ティーボール、ソフトボールなどや、テニスラケット、ティーボール用バット、ソフトボール用バットなど、技能や習得状況に応じて使い分ける。
- ②打者は相手チームの投手が投げたボールを打つ。ただし、ホームベースより半径9m以上はボールを転がさなければならないため、バントなどの打法は使ってはいけない。
- ③打者は打ったら打球や自分の足の速さを考えながら、打者走者となりコーンを選択して走る。
- ④ボールがホームに戻ってくるまでに、選んだコーンにタッチをしてホームを踏んだら、進んだコーンの得点が入る。走った距離が長い程得点が大きいの。
- ⑤野手は打球を処理したら、ホームに投げる。打者がホーム還ってくるまでに、紫で示した（上の）サークル内（半径3m）でボールをキャッチすればアウトとなる。
- ⑥危険防止を考え、ホームへ還ってくるランナーと交錯しないように、サークルは攻撃側、守備側に分けて設置し、フォースプレーで判断する。
- ⑦打者が一巡したら攻守交替とする。

（松本大学 沖津千佳）

【提案ゲームⅢ】

提案ゲームⅢの授業は、ソフトボールの技術構造の中で「走者」VS「守備」の場面特性に着目したもので、走者の進塁をめぐる行われる攻防を楽しむ内容である。

ソフトボールの攻防は走者の有無によりその特性が大きく変わる。すなわち、走者がいない時、打者は自分が塁に出ることを考えて打撃を行うため、守備側とりわけ投手との対戦（打者VS投手）が運動課題の中心となる。しかし、

走者がいる場合、打者は自分がアウトになっても走者を進める（走者VS守備）という運動課題に変質する。このような特性の違いを踏まえ、「進塁」を学習の中心に据えたゲームである。

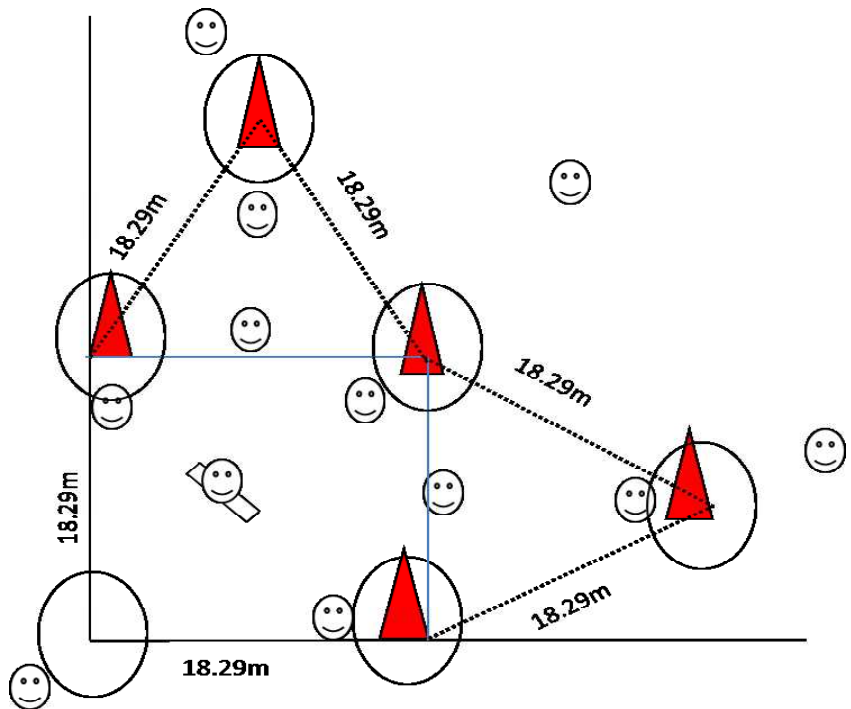
打撃は通常通り、投手が投げたボールを打つこととするが、塁は五塁ベースまでであることから、本塁に到達するまでにアウトになってしまう機会が多くなり、得点に結びつけることが難しくなる。そのため、攻撃側は走者を進塁させるための打撃を考えることが必要となる。一方で守備側は走者の進塁を阻止したり、遅延させたりするための機会が多いので、守備の選択肢が多くなる。

〈ルール例〉

- ①用具はテニスボール、ソフトバレーボール、ティーボール、ソフトボールなどや、テニスラケット、ティーボール用バット、ソフトボール用バットなど、技能や習得状況に応じて使い分ける。
- ②塁間はオフィシャルルール同様18.29mとするが、一・二塁間、二・三塁間のベースは正三角形上の頂点に置く。
- ③各塁上での安全配慮を考え、それぞれの塁にはベースの代わりに三角コーンを置いた上で半径2mの円をベースとする。
- ④クロスプレーによる事故を防止するため、スライディングは禁止し、通常の一塁ベースと同じようにすべての塁においても走り抜けルールを適用してフォースプレーによりアウト・セーフの判定を行うものとする。
- ⑤5アウトまたは打者が一巡したら攻守交替とする。
- ⑥守備は12名を基本とするが、必要に応じて増減してもよい。

（松本大学 田島梨恵）

※実践例は各大学から寄せられたものを岩間が一部再構成して掲載した。



【卒業論文(要約)】 ソフトボールの体育教材としての課題と可能性

高 野 響（松本大学人間健康科学部スポーツ健康学科、指導教員：岩間英明）

1. はじめに

昭和24年度の学習指導要領（試案）から昭和43年度の学習指導要領までの間、小学校中・高学年においてベースボール型の教材が必ず位置づけられていた。ところが、昭和52年の学習指導要領では、ソフトボールやハンドベースボールなどベースボール型のゲームがすべて学習指導要領から削除された。これは、能力差や男女差、ルールの複雑さなどが、ベースボール型のゲームにおいては、顕著なことからゲームが成り立ちにくいことや、一単位時間（45分間）の運動量が少ないなどの理由からであった。今回再び、学習指導要領の改訂により、ベースボール型のスポーツとしてソフトボールが中学校1・2年生で必修化されたが、体育授業におけるソフトボール、特にゲームを実施する場合、やはりさまざまな課題が指摘されているのが現状である。

そこで本研究は、実際に教育現場で体育授業を実施している体育教師が感じている、ソフトボール授業の問題点や、それを改善するための工夫などから、ソフトボールの体育教材としての課題、ならびにその解決方法などについてまとめ、教材としてのソフトボールの可能性について追究していくことを目的とする。

2. 研究方法

①対象者

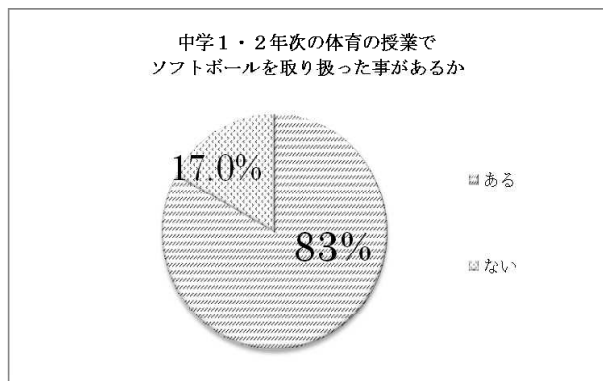
S県内の中学校を抽出し、質問紙法による調査（アンケート調査）を実施した。対象者は各校、保健体育科教員（代表者一名）とする。75校に郵送し、そのうち47校から回答を得ることが出来た。回収率は62.7%であった。

②方法

アンケート調査を保健体育科教員に実施し、実際に教育現場で体育授業を実施しているうえで、感じているソフトボール授業の問題点や、それを改善す

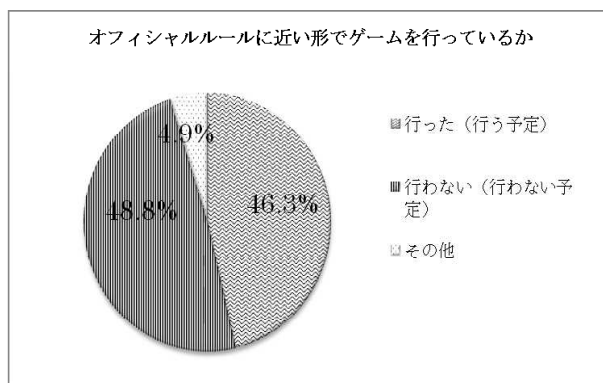
るための工夫について回答してもらった。

3. 結果・考察



【図1】ソフトボールの取扱い

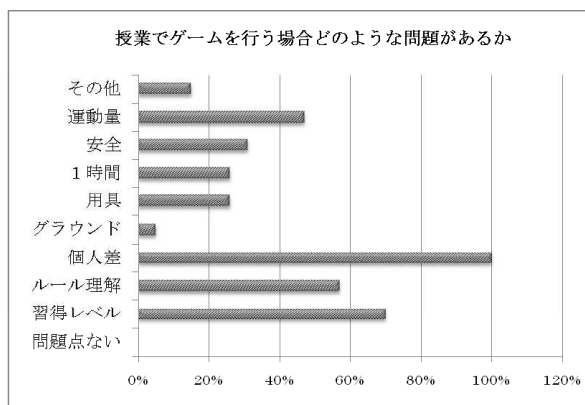
アンケート回答校47校のうち、ソフトボールを授業で取り扱ったことがあると回答した学校は83%で多数を占めていることが分かった。ベースボール型の必修化を受けて、ソフトボールを取り扱う学校が増えたことが見て取れる。（図1）



【図2】オフィシャルルールでのゲームを行っているか。

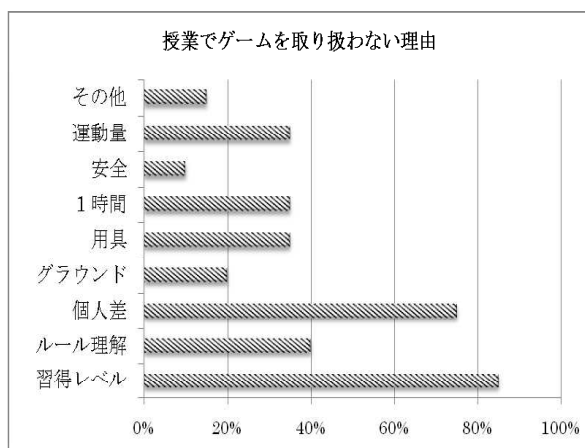
ソフトボールを「取り扱った」・「取り扱う予定」と答えた39校のうち、オフィシャルルールに近い形でゲームを「行った」と回答したのは、46.3%で、「行わない」と回答したのは、51.3%であり、「行わない」と答えた学校が多かった。

「その他」と答えた学校は4.9%で、男女共習学習などの学校の実態に応じて使いわけていることが分かった。（図2）



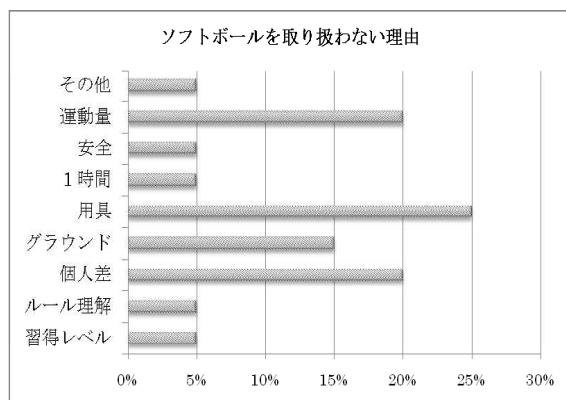
【図3】ゲーム実施上の問題

授業におけるソフトボールの課題として「個人差」・「習得レベル」・「ルール理解」・「運動量」が挙げられた。その課題に対する工夫として、「ルール理解」が多く、次に「用具」が挙げられた。(図3)



【図4】ゲームを行わない理由

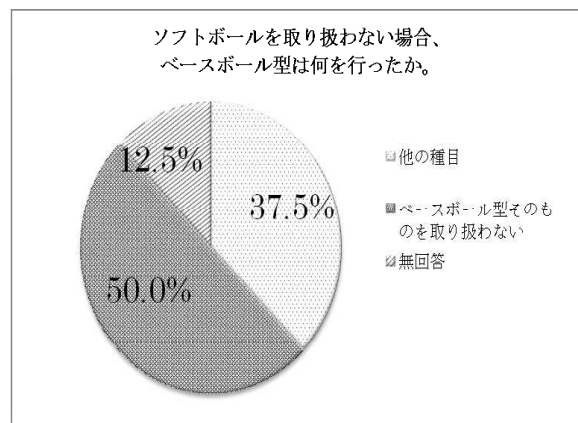
ゲームを取り扱わない学校が課題としてあげたのは、「習得レベルが低い」が最も多く、次いで「個人差」であった。(図4)



【図5】ソフトボールを取り扱わない理由

ソフトボールを「取り扱った」と回答した39校の

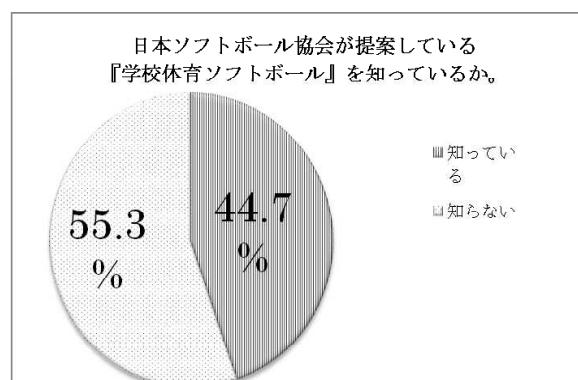
うち、「オフィシャルルールに近い形でゲームを行わない」と回答した理由として、特に多かった回答は、「用具」であった。次いで「運動量」「個人差」の順であった。他にも、「ソフトボールを指導したことがない」「指導者自身が未経験」「他クラスとグラウンドが重なるため、大人数で活動し運動量を確保できるスポーツを選ぶ」という意見があった。(図5)



【図6】ベースボール型は何を行ったか。

ソフトボールを取り扱ったことがないと回答した学校が、ソフトボールを取り扱わない場合、ベースボール型をどのように行っているかである。「他の種目を取り扱う」と回答したのが50.0%で、「ベースボール型そのものを取り扱わない」と回答したのが57.1%であり、「無回答」が12.5%であった。

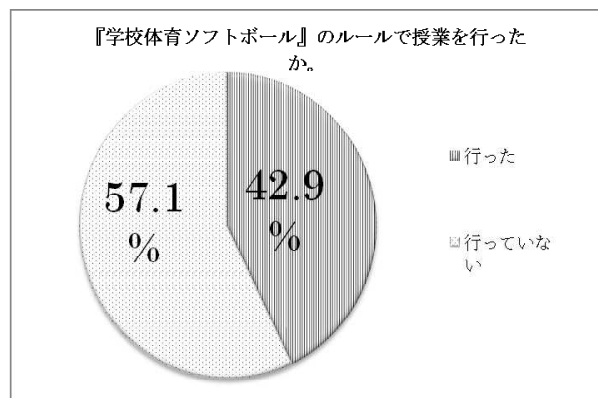
「他の種目を取り扱う」と回答した学校では、「キックベースボール」・「ティーボール」「3年次に取り扱う」という意見があった。(図6)



【図7】『学校体育ソフトボール』を知っているか。

ソフトボールの必修化を受け、日本ソフトボール協会が『学校体育ソフトボール』という体育授業専用のルールや用具を提案していることを知ってい

るかという質問に対して「知っている」と回答した体育教員は44.7%であり、「知らない」と回答した体育教員が55.3%であり、半数以上の教員は日本ソフトボール協会が示している『学校体育ソフトボール』の存在を知らなかった。（図7）



【図8】『学校体育ソフトボール』のルールでの授業

『学校体育ソフトボール』を知っている学校から、そのルールで授業を行ったかという質問に対して、「行った」と回答した学校が42.9%であり、「行っていない」と回答した体育教員が57.1%であった。また、「用具は正規のものを使用」・「ボールのみ学校体育ソフトボールを使用」などといった意見もあった。（図8）

アンケートの回答に記載されていた内容として、男子生徒はオフィシャルルールでゲームを行うが、女子生徒は簡易ルール、またはゲームを行わないという意見もあった。その背景には小学校段階の経験、または遊びの違いが関係しているのではないかと考えられる。小学校段階でソフトボールの経験がなくても、男子児童は日ごろの遊びの中でベースボール型に近い遊びをしているが、女子児童はそうした経験が少ないことから、極めてベースボール型に対する知識や能力、さらには興味・関心は低いとみられる。このことから、生徒の個人差が大きく、取り扱うことが困難なのではないかと考えられる。

小学校学習指導要領では、『ゲーム』と『ボール運動』として示され簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦をたてたりして攻防を展開できるようにすることがねらいとなっており生徒はこうした学習をしてきている。また、中学校ではこれらの学習を受けて、基本的な技能や

仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームが展開できるようにすることが求められている。このように、小学校段階でベースボール型を取り扱い、多少でも経験があれば生徒はルールを多少理解し、どのように動くかも分かっているため授業は進めやすくなるであろう。

授業でソフトボールを行ううえでのもう一つの大きな問題点として「運動量を確保することができない」という点がある。ゲームをする際に、捕球や送球をすることが苦手な生徒は打球があまり飛んでこないポジションを守る。また、たとえ授業に積極的に参加していてもソフトボールの特性から打球が飛んでこなかったりすることも少なくない。そのため、運動量にバラつきが出てしまい、取り扱うことが困難だということが考えられる。

4. まとめ

ソフトボールの特性は一般に「相対する2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側は打撃・走塁などで、守備側は捕球などで攻防し、規定の回数内で得点を競い合う集団スポーツである」とされるが、さらに細かく見ると『ランナーがいない時の攻防』・『ランナーがいる時の攻防』の二つの場面特性がある。そこで、アンケート調査から明らかになった課題の「生徒の個人差（能力・技術）が大きい」・「習得レベルに差がある」・「運動量を確保できない」・「ルールを理解できない」といった視点から、これらを踏まえ、本研究ではそれぞれの特性に応じた①ワンベース・ソフトボール、②三角ベース（柔らかなボールを使用）、③コーンベースボール、④ソフトボール（ベース間の距離を変える）を提案した。野球やソフトボールなどのルールは、体育授業の時間内ですべての子どもたちに十分理解させることや、状況を判断しながらプレイをすることは複雑すぎるため大変困難である。そのため、ベースボール型のルールを徐々に覚えるために簡易化されたゲームを行うことは意味がある。そうした中で少しずつベースボール型スポーツの特性を理解し、本来のルールに近づいていくことが出来ればと考えた。

また今回の提案授業では、ベースボール型教材として小学生や女子向けに取り上げられている「ティ

一ボール」のように、止まっているボールを打つことや、味方の投手が打ちやすいボールを投げるという設定は取り入れなかった。その最大の理由としては、ソフトボールの特性でも触れたが、『投手対打者の攻防は場面特性として非常に重要であり、止まっているボールや、打ちやすいボールというのは、そうした攻防場면을逆に阻害する要素となってしまう、ソフトボールの特性に由来する本来の楽しさを味わうことができない』と考えたからである。確かにバットを使った打撃は、バット操作の難しさに加え、ボールとのタイミングを合わせるといったかなり高度な技術が必要となり、生徒にとっては、なかなか上手にできない運動内容かもしれない。しかし、今回の提案ではそれを「攻防をしない」という方法論で解決するのではなく、ボールやバットの変更、すなわち「教材教具やマテリアル」によって対応させようと考えたものである。

このような学習過程や場の工夫を行うことが、「ベースボール型」本来のゲームの攻防の楽しさを味わうことになり、さらにはソフトボールに親しみ、愛好的態度で学習活動に取り組むことつながるのではないかと考えている。

ソフトボールは①ボール・バット・グローブなど使用する用具が多い、②他の球技に比べて、走・攻・守と複数の役割がありそれぞれに状況判断が必要なスポーツであることから、ルールが複雑であり理解ににくい、③走・投・捕の基本の運動動作が含まれる、といった特性がある。このことが、生徒にとってソフトボールを難しいものにしていてと同時に、授業構成を複雑にしている要因となっていると考えてもよいだろう。しかし、そのことは逆に①それぞれの用具操作に必要な技術が要求されるため、身体能力が高まる。特にコーディネーション能力のうち、「識別能力（用具を精密に操作する能力）」が高まる。②ルールが複雑であるが故に、自分たちの能力に合わせてルールを工夫する余地が十分に生まれるため、スポーツに従属するのではなく、スポーツを自らの生活に合わせていく「スポーツを文化として捉える望ましいスポーツ的思考」いわゆる“スポーツからの自立”につなげられる。③走・投・捕といった基本の運動動作が全て含まれるため、他の種目や運動への繋がりが多様なことから、運動能力の向

上には効果的なスポーツである。といった点も期待できる。このようにソフトボールは、他のスポーツでは得られない様々な教育的効果、身体的効果があるという側面も同時に存在する。その意味では今回のソフトボールの必修化は、生徒のスポーツ観を拓くという意味で大いに期待される。

スポーツ文化の中でベースボール型スポーツというのは、決して無視できない運動内容を包含しているだけに、体育授業で嫌いにさせるわけにはいかない。そのためにも、ソフトボールというスポーツの特性をさらに深く見分け、体育授業でソフトボールを実施する意味と価値を一層高める努力が必要になるのではないだろうか。

5. 今後の課題

アンケート調査では授業展開上の課題や、問題点などの指導する教師側の課題は明らかにすることができたものの、現場の細かい課題や、子どもの側からみた課題までは触れていない。

実際のソフトボール授業における生徒の様子を自分の目で観察し、そこで見つけられた課題を基に、改めて今回提案した授業案を見直すことが必要である。そしてさらにその授業案に基づく授業を行い、ソフトボールの持つ教材としての教育的可能性を見出したい。

6. 参考文献（主要）

* 高橋健夫他(2010)：新版 体育科教育学入門：大修館書店pp210-211

* 内田圭志(2004)：『ベースボールによるベースボール型ゲームのカリキュラムづくり』：体育科教育pp35



文部科学大臣杯第48回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成25年9月6日(金)～9月9日(月)

会場：大阪府大阪市／舞洲運動広場

大会概要

早稲田大学 圧倒的な力で2年連続3度目の優勝

大会記録長：本 間 恵美子

大阪市の舞洲運動広場で行われた今大会は、開会式は舞洲アリーナに於いて「関西大倉学園和太鼓部」の和太鼓で熱戦の火蓋が切られ、全国の精鋭32チームが参加し開催された。

初日は天気恵まれ16試合が行われたが、2日目が朝から雨となったものの、地元役員の皆様の努力で雨が上がり、11時過ぎから試合を開始、ナイター使用で夜8時過ぎまで頑張りベスト4が決定した。準々決勝の日本体育大学対関東学園大学の試合では日本体育大学の河野拓郎が大会史上12人目となる無安打無得点試合を成し遂げた。又両チーム2回目の出場となる高知工科大学対九州共立大学の試合は、4回終了後球場移動でナイター試合になった。この為、30分程の中断があったが、シーソーゲームとなって7回裏大逆転のサヨナラゲームで高知工科大学が昨年3位の九州共立大学を破り準決勝へ進んで四国勢初の3位となった。

3日目の準決勝は早稲田大学対日本体育大学、同志社大学対高知工科大学の対戦となり、決勝戦早稲田大学は2連覇をかけて同志社大学と対戦。早稲田大学の溝口聖は打率トップ(0.727)、吉田享平は本塁打4本・三塁打1本・二塁打1本で勝利に貢献し、2連覇を達成した。

なお、前述の無安打無得点試合はあったが、新記録はなかった。

大会講評

ソフトボール伝統の地で久しぶりの開催！

近畿地区常任理事 森 田 啓 之

約40年ぶりに行われた大阪での全日本大学選手権大会。男子は1会場で4球場がとれる「舞洲運

動広場」という最高の環境で行われた。特に、大会2日目は前夜からの雨で実施が危ぶまれたが、大阪協会の皆さんの献身的なグラウンド整備により、何とか昼から1試合目をスタートすることができ、ナイターを使用しながら予定の試合を消化することができた。心から感謝申し上げたい。

さて、試合の結果であるが、早稲田大学の圧倒的な強さが目立った大会であった。決勝戦までの5試合で4試合コールド勝ち、さらに4完封という文句ない優勝であった。走攻守のすべてにおいてバランスのとれたチームで、来年3連覇への期待も大きい。

また、早稲田大学以外のベスト4には、同志社大学、日本体育大学、高知工科大学と東西が2つずつ入ったが、なかでも高知工科大学の2回目の出場での3位は賞賛に値する。男子ソフトボールが盛んな四国勢としても初の3位入賞である。国公立大学の活躍は他大学にも新たな刺激となるに違いない。

ただ、ここ数年と同様に、男子は「打高投低」の傾向は否めず、豪快なホームランこそ多く目を引いたものの、相手をねじ伏せるような豪速球投手は少なかった。その中で唯一、神戸学院大学戦で見せた水野投手(岡山大学)の速球には素晴らしいものがあつた。今後の活躍に期待したい。

なお、本大会の運営にあたっては、関西学連に所属するチームの学生が大きな力となった。前日の会場づくりから放送・球拾い・後片付けまで、目には見えないところでの尽力に感謝したい。学生による学生のための大会に一步近づいた感があつた。さらには、素晴らしい競技会は清々しい会場でこそふさわしい。喫煙マナーの向上や廃棄物の分別処理をもっと進めたい。こんなところがメジャースポーツへの近道になるような気がする。

文部科学大臣杯第48回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

	7日(土)	8(日)	9日(月)	
1. 早稲田大学(48)	11	8		
2. 広島経済大学(19)	0	8		
3. 環太平洋大学(7)	4	0	6	
4. 東海大学(39)	5			
5. 仙台大学(27)	3	7	0	
6. 京都産業大学(35)	8	3		
7. 立命館大学(31)	10			
8. 香川大学(12)	0			
9. 中京大学(43)	3	8		
10. 日本体育大学(48)	10	3		
11. 東北大学(5)	3	1	2	
12. 鹿児島国際大学(7)	6			
13. 崇城大学(8)	5	2		
14. 関東学園大学(16)	7	0		
15. 九州産業大学(10)	9	1		
16. 大阪経済大学(初)	6			
17. 学習院大学(35)	2	3		
18. 高知工科大学(2)	5	8		
19. 関西大学(37)	3	2		
20. 中央大学(24)	6			
21. 国士舘大学(48)	4	1	1	
22. 常葉大学(16)	1	7		
23. 九州共立大学(3)	8	2		
24. 城西大学(19)	4			
25. 中京学院大学(10)	8	9		
26. 国際武道大学(20)	0	0		
27. 岐阜聖徳学園大学(9)	7	2		
28. 沖縄国際大学(19)	0			
29. 岡山大学(8)	5	0	6	
30. 神戸学院大学(23)	2	4		
31. 信州大学(9)	0	4		
32. 同志社大学(31)	6			

早稲田大学

(2年連続3回目)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月7日）1回戦

広島経済大学 0000 : 0
早稲田大学 713x : 11

[広] ●中西尉二ー高畑良喜

[早] ○西村直晟、古川恵士ー沓澤 翔

(本)吉田享平、山口恭平

(三)沓澤 翔、溝口 聖 (二)古川恵士

【評】早稲田、投打に圧倒！

早稲田は初回、4番吉田の2ランなど打者一巡による攻撃で大量7点のリードすると、3回には3番溝口の2打点三塁打で追加。投手西村は3回無安打、最後は吉川が抑え完封リレーで初戦を飾った。

広島経済は、4回代打崎本が中前打で反撃に及んだがなす術なく敗れた。

東海大学 3001001 : 5
環太平洋大学 0002011 : 4

[東] ○高橋宏允ー竹内和樹

(本)齋藤侑士、石川翔太 (二)河村健佑

[環] ●謝花喜仁、大原涼太郎ー知土志徳

(本)小幡瑛司、(三)喜原雄輝

【評】東海大学、接戦を制し初戦を突破！

東海大学は、1回表に走者2人を置き、4番齋藤のレフトへの3ランで先制点を挙げた。4回表にも7番石川の本塁打。7回表にも3番河村のタイムリーヒットで追加点を重ね、相手チームの追い上げを振り切り初戦を突破した。

一方、環太平洋大学は、東海大学の投手高崎宏充を前に打線が沈黙していたが、4回裏に4番喜原、5番井上の連続タイムリーヒットで反撃を開始、6回には、大畑のタイムリーヒット、最終回には9番小幡の本塁打で1点差に迫いつめるも一歩およばず敗退となった。

京都産業大学 2011004 : 8
仙台大学 0110001 : 3

[京] ○合田圭佑、新田哲也ー奥村雄太

(本)野村拓未、溝上郁英

(三)三浦健太、奥村雄太 (二)溝上郁英

[仙] ●戸部克俊、菅原佑太ー佐藤幸太

(二)菊込一喜

【評】京産大 毎回安打で打撃戦を制す！！

京都産業大学は、初回1番三浦の左中間三塁打を3番奥村の奥村の右翼への犠打で先制。更に打線が続き4回には先頭打者の6番野村が中越ソロ本塁打。7回には3番奥村の三塁打から連打が続き、一死二・三塁で7番溝上の左翼越の3ランで試合を決めた。この日4番左脇は4打数4安打3打点の活躍！

仙台大学は2回二死一・三塁から1番佐藤が中前で1点を返し、3回に4番菊込の左翼越二塁から1点を追加。最終回には3番黒田、4番菊込の連打で1点を返し毎回の12安打を放ったが長打の差で及ばなかった。

香川大学 0000 : 0
立命館大学 3115x : 10

[香] ●柳田諭志ー佐式亮将

[京] ○中原隼生ー三谷 舜

(三)杉山貴久

(二)伊藤 剛、重松佑輔、伊藤多門

【評】立命館大学、毎回得点を重ね快勝！

立命館大学は、1回裏に3番伊藤（剛）の2点タイムリー二塁打などで3点を先制し、試合の主導権を握った。3回にも7番伊藤（多）の二塁打、4回にも打線がつながりを見せ、2番杉山のタイムリー三塁打、4番三谷、6番藤野、8番藪内らのタイムリーヒットで5点を挙げ、コールドゲームで試合を決めた。

一方、香川大学は、3回表に1番西川、2回須田の連打で好機を作るも得点に結びつけることができず、初戦敗退となった。

中京大学 03000 : 3
日本体育大学 3070x : 10

[中] ●深津悠平ー和田隆太

(本)深津悠平

[日] ○河野拓郎、齋藤将平ー山内直人

(三)杉山貴久

(二)伊藤 剛、重松佑輔、伊藤多門

【評】日本体育大学が15安打で初戦勝利！

日本体育大学は1回裏、4番山崎の中堅越え本塁打などで3点先制したが2回表に同点にされた。3回裏、3番遠藤の二塁打から打線が大爆発。8本のタイムリーで一挙7点と大量リードする。その後、4回河野、5回齋藤が無失点で中京打線を抑え初戦勝利した。

中京大学は2回表、深津が左翼越え本塁打で同点に追いつくもその後日本体育大学の好投に抑えられ敗退した。

東 北 大 学 0 0 0 0 2 1 0 : 3
鹿 児 島 国 際 大 学 0 0 0 1 3 2 x : 6

【東】●櫻井康平、池ヶ谷俊介－菱沼大貴
【鹿】○二反田義征－厚地了実、米森大貴
(三)南 唯丈、中村俊平

【評】鹿児島国際逆転勝ち！二回戦進出

鹿児島国際大学は1点差の5回、二死満塁から南の走者一掃の右翼線三塁打で逆転。6回にも二死一塁から中村の左翼越え三塁打で追加点を挙げ、東北大学を振り切った。

東北大学は5回、池ヶ谷、菱沼の連打と2つの犠飛で一度は逆転し、6回池ヶ谷のタイムリーで1点差まで追いつけたが及ばなかった。

関 東 学 園 大 学 2 0 3 0 2 0 0 : 7
崇 城 大 学 0 1 1 0 0 3 0 : 5

【関】○井草裕太郎－星野 翔
(三)渡辺悠汰、井草裕太郎 (二)星野 翔
【崇】●竹脇 勝、生田竣哉－慶越公一
(三)阪元智軌 (二)慶越公一

【評】関東学院大学が2本の三塁打で初戦勝利！

関東学院大学は1回表3番鈴木・4番松田のタイムリーで2点を先取。3回表には9番渡辺が右翼手を超える三塁打で3点。5回表には、7番井草の中堅越えの三塁打を含め2点の追加点を入れ初戦を突破した。

崇城大学は5点差の6回裏、4番廣越の二塁打を含め2本のタイムリーで3点追加し追いつける

も及ばず、惜しくも初戦を勝利で飾れなかった。

九州産業大学 0 0 2 3 3 0 1 : 9
大阪経済大学 0 0 3 0 0 3 0 : 6

【九】○中村和也－下釜 航
(本)田中良介、濱 史昂 (三)濱 史昂
(二)須藤貴士、中村和也
【大】●西村悟志、丸山敬太－多田博紀
(本)下田圭亮 (二)岡 永純

【評】九州産業大学、先発全員安打で逆転勝利！

九州産業大学は1点を追う4回、濱の2点本塁打を含む5安打3得点で逆転。5回にも下釜、中村、濱の3連打で3点を奪い、大阪経済大学を突き放した。

大阪経済大学は3回、續木、杉本のタイムリーで一度は逆転するも、相手打線の集中打で離され、6回下田の本塁打などで3点返すも力尽きた。

学 習 院 大 学 0 0 1 0 0 1 0 : 2
高 知 工 科 大 学 1 1 0 0 0 3 x : 5

【学】●山下義朗－黒澤 淳
【高】○赤木亮太－上瀬恭平
(三)安居 新

【評】高知工科 接戦を安居の三塁打で2回戦へ

高知工科大学は同点で迎えた6回二死後、熊田、藤野の安打で一・二塁とし1番安居の左翼越え三塁打で2点、更に2番大島の内野安打でこの回3点を挙げ勝利を手に入れた。

一方、学習院大学は6回に同点としたが、3点差とされた7回、二死後2安打で一・二塁の好機にあと一打が出ず惜敗した。

中央大学 0 0 2 0 4 0 0 : 6
関西大学 0 0 2 0 0 1 0 : 3

【中】○川村卓未－村田貴大
(三)植西剛大 (二)松永仁志
【関】●堀田知寛－永見 敦
(本)金井駿樹、田淵耕祐

【評】中央大学、松永のタイムリー二塁打で勝利

中央大学は同点で迎えた5回表、宮城がストロートの四球を選び、原が三塁手の頭上を抜く安打

で繋いで無死一・二塁の好機を得た。打席には 2 番の松永が入る。誰もが送りバントを予想したであろう初球を見事に振り抜いてタイムリー二塁打で勝ち越した。さらに富士が中前に運んでリードを広げた。

関西大学は 2 点を追う 3 回裏、嶋谷が一・二塁間を破る渋い安打で出塁し 4 番金井が左越え 2 ランで同点とするも打線が繋がらず、6 回裏、6 番田淵が左越えソロ本塁打を放って一矢を報いた。

常葉大学 0010000 : 1
 国士舘大学 000121x : 4

[常] ●田村幸也ー佐藤 光

(二)荒木 大

[国] ○武井大樹ー畑 優也

(二)畑 優也

【評】国士舘 足で崩して主導権を握り 2 回戦へ
 国士舘大学 1 点を追う 4 回二死二塁で五番吉田のタイムリーで同点。5 回には代打吉田（晃）の安打と盗塁、畑、堀のタイムリーで 2 点を挙げ、6 回にも吉田（晃）の出塁と畑の 2 塁打で 1 点追加し勝利を手に入れた。投手武井はこの試合無四球試合。全盗塁が得点に結びついた。

一方、常葉大学は 3 回、平良、荒木、原の短長 3 連打で先行したが、国士舘大学の武井に後続を断たれた。

九州共立大学 5020010 : 8
 城西大学 0000310 : 4

[九] ○三谷祥平、脇本大輝、三谷祥平ー

小林瑛人

(三)藤井佑真

[城] ●大出明良、黒沢勝也ー鳥山和也

(本)岡崎智樹 (二)佐々木一貴

【評】九州共立 初回打者一巡の猛攻で逃げ切り
 九州共立大学は初回、一死満塁の好機に 5 番前屋が中前への 2 点タイムリー安打を放つなどソツのない攻めで 5 点を先制した。さらに 3 回表には四球を絡めて 2 点を追加し試合を決めた。遊撃手藤井が 2 回の併殺に絡む攻守が光った。

城西大学は 5 回裏、相手投手の交代直後に 5 番岡崎が左中間本塁打で反撃の狼煙を上げ、続く佐々木が遊撃手の右を抜く好走塁の二塁打、川村と引間の 2 連打で 3 点を返すも及ばなかった。

国際武道大学 00000 : 0
 中京学院大学 1403x : 8

[国] ●滝口悠真ー大曾根教雄

[中] ○片岡 涼、竹本流星ー園田智幸

(三)小橋祥兼

【評】中京学院片岡投手投打に活躍！初戦突破

中京学院は 1 回裏二死一・三塁の場面で片岡の適時打で先制。続く 2 回裏には 3 本の安打などで打者一巡の猛攻で一挙 4 点を入れ試合を有利に進め、4 回裏には四球や安打などで 3 点を加え、試合を決めた。

片岡投手は、初回こそピンチを招いたが、その後は危なげないピッチングで相手打線を抑えた。

国際武道は、初回到二死満塁の先制の好機を逃がした事が響き波に乗れなかったが、最後まであきらめない学生らしい清々しいプレーは大変好感が持たれた。

沖縄国際大学 00000 : 0
 岐阜聖徳学園大学 0061x : 7

[沖] ●金城大樹、城間勇人ー仲本 匡

(三)我喜屋隼人

[岐] ○鈴木達也ー諏訪直哉

【評】岐阜聖徳 3 回大量得点で試合を決めた！

岐阜聖徳学園大学は 3 回、先頭の馬場がショート内野安打で出塁すると、3 番渡邊も安打で続き、5 番奥村の右前タイムリーで 2 点を先制し、この後も積極的な走塁に安打を絡め、合計 6 点を挙げて試合の流れを掴んだ。

沖縄国際は 2 回に、二死後 7 番我喜屋が右中間三塁打を放ち攻めたが、岐阜聖徳の好守に阻まれ涙を吞んだ。

岡山大学 1010300 : 5
 神戸学院大学 0001010 : 2

[岡] ○水野拓実ー居相史人

(三)居相史人、(二)大谷俊貴

[神] ●永野 塁、楠岡侑也、永野 塁－
上村岳大、丸山大地

(二)丸山大地

【評】岡山 水野の好投と堅い守りで初戦を飾る
岡山大学は初回神戸学院の立ち上がりを攻め先制すると、終始塁上をにぎわし5回には居相の三塁打を含む4本の長短打を放ち、打者一巡で3点を奪い試合の流れをつかんだ。水野投手は5連続三振を含む9三振を奪う力投を見せ、終始リードを保ち相手の反撃を2点に抑えて初戦を飾った。

神戸学院は、打順が一巡した4回以降武森・川島の連続安打や丸山の二塁打等で2点を返したが惜しくも初戦で涙を吞んだ。

信州大学 0000000 : 0
同志社大学 010500x : 6

[信] ●鈴木拓也－富岡 諭

[同] ○佐野浩平、佐復洋太－茶畑佑介

(三)井部力也、佐野浩平

(二)瀬戸祐輔、細谷和弘

【評】同志社大学が4回の猛攻で完勝！

同志社大学は2回に井部と細谷の連打で1点を先制し、4回には井部・佐野の三塁打を含む4長短打で5点を追加し試合を決定づけた。投げては佐野～佐復が継投で信州大打線を抑え完封した。

信州大学は走者を出すも相手投手に抑えられ散発3安打と振るわず敗退した。

▼第2日（9月8日）2回戦

東海大学 00000 : 0
早稲田大学 4040x : 8

[東] ●高橋宏允－竹内和樹、一圓悠希

[早] ○西村直晟、増井和輝－沓澤 翔

(本)吉田享平 (二)吉田享平

【評】好機を確実に生かした早稲田、準々決勝へ

早稲田大学は、1回裏に走者満塁の好機で4番吉田が右翼越えのエンタイトルツーベース、5番古川のタイムリーヒットと7番北村の犠飛で4点を先制し、試合の主導権を握った。3回にも4番

吉田のランニングホームランなどで4点を追加し、勝利を決めた。

一方、東海大学は、早稲田大学西村、増井の両投手に抑えられ散発3安打と振わず、2回戦敗退となった。（雨天により23分間中断）

▼第2日（9月8日）2回戦

京都産業大学 1000141 : 7
立命館大学 0011010 : 3

[京] ○松岡涼介－奥村雄太

(本)松尾能政、杉中義明

(三)三浦健太、溝上郁英

[立] ●中原隼生－三谷 舜

(本)薮内 駿 (二)藤野慎之助

【評】京産、集中攻撃で、接戦を制し準々決勝へ

京都産業大学はお互いに譲らない展開で迎えた6回、1番三浦の勝越し2点タイムリー三塁打、2番杉中の2点本塁打で立命館を突き放し逃げ切った。守っては遊撃手三浦の好守が光った。

立命館大学は3回、薮内の本塁打で同点、4回に藤野のタイムリー二塁打で一度は逆転して粘ったが、6回の4失点が響き悔し涙を吞んだ。

鹿児島国際大学 00100 : 1
日本体育大学 0530x : 8

[鹿] ●二反田義征、藤田雄大－厚地了実

[日] ○齋藤将平、堀田拓郎、中坂誠－山内直人

(三)古敷谷亮、田口正志

(二)横山嵩洋、湯浅拓人

【評】日体大、投打がかみあい大勝で準々決勝へ

日本体育大学は、2回一死満塁から9番横山の左中間二塁打で2点、続く1番古敷谷の左中間三塁打などで5点を先取すると、3回にも7番龍田と8番に代打の田口が右翼線を破る三塁打の連続タイムリーで3点を追加し試合を決めた。先発投手齋藤は3回まで6奪三振と要所を締め、継投の堀田・中坂の両投手も追加点を許さなかった。

鹿児島国際大学は、3回一死満塁に5番米森の内野ゴロの間に1点を返したが継投で後続を断たれ敗れた。

関東学園大学 1 0 0 0 0 1 0 : 2
九州産業大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1

[関] ○勝又 翔一星野 翔

[九] ●中村和也一下釜 航

【評】関東学園大、投手戦を制し準々決勝進出！

関東学園大学は、1 回表二死走者三塁の場面で 4 番松田が三遊間を抜ける適時打で 1 点を先制。その後 6 回表、一死満塁の場面、内野ゴロ間に 1 点を追加。勝又投手の打たせて取るピッチング・左翼手小松のファインプレーなどで準々決勝へコマを進めた。

九州産業大学も 2 回と 3 回の好機を生かせず打ちあぐねていたが 7 回裏、7 番中村の内野安打で出塁すると、9 番代打吉浦のタイムリー等で 1 点を返すが力及ばず悔し涙を吞んだ。

高知工科大学 0 0 2 0 0 0 1 : 3
中央大学 0 1 0 0 0 0 1 : 2

[高] ○赤木亮太一上瀬恭平

(三)藤野慎一郎 (二)今井裕司

[中] ●小山祐輝、川村卓未一村田貴大、井原奨之、村田貴大

(本)松永仁志

【評】高知工科大学、熱戦を制し準々決勝進出！

高知工科大学は 2 回の表、守備の乱れについて出塁した大坂を坂東がバンド安打で進め、上瀬の犠牲フライで先制すると、9 番藤野が右翼線三塁打を放ちこの回 2 点を挙げた。7 回表にも大島、今井の連打に続く小山の犠牲フライで 1 点をを追加し、勝利を手にした。

中央大学は先制点を取られた直後 1 点を返し、7 回裏に松永の本塁打で 1 点差に迫ったが、あと一歩およばなかった。

九州共立大学 0 1 1 0 0 0 0 : 2
国士舘大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1

[九] ○三谷祥平一小林瑛人

(本)三谷祥平

[国] ●武井大樹一畑 優也

【評】九州共立 接戦を制して準々決勝進出へ！

九州共立大学は 2 回表、6 番三谷が自らを助け

る中越本塁打で 1 点を先制した。続く 3 回表、藤井と立石の 2 連打をきっかけに重盗を決め、この好機に 5 番前屋がベンチの期待に応じて三遊間を抜き、貴重な 1 点を加えた。三谷は制球に苦しみながらも粘り強いピッチングで 1 失点で踏んばった。

国士舘大学は 2 点を追う 5 回裏、畑が四球を選び中村が進塁打で得点圏に進めて、1 番堀(将治)の適時打で 1 点差に迫り、さらに一死満塁と一打逆転の場面を作るも後続を断たれ敗退した。

中京学院大学 2 4 0 3 0 : 9
岐阜聖徳学園大学 0 1 0 0 1 : 2

[中] ○片岡 涼一園田智幸

(本)山下治 (三)小橋祥兼 (二)園田智幸

[岐] ●武井大樹一畑 優也

(三)木下直人 (二)木下直人

【評】中院大 猛打爆発、コールドで準々決勝へ

中京学院大学は、初回二死からチャンスを作り満塁から 2 点先取、2 回にも二死から山下の 3 点本塁打、更に 4 回も園田の二塁打で点を加えると、粘り強い攻撃で打ち勝った。

岐阜聖徳学園大学は、2 回木下の三塁打に 5 番奥村のタイムリーで 1 点をか返し、5 回には木下の二塁打で意地の 1 点を入れたが、要所で中院の片岡投手に抑えられ、チャンスを活かせなかった。

岡山大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
同志社大学 0 0 4 0 0 0 x : 4

[岡] ●水野拓実一居相史人

(二)居相史人

[同] ○佐復洋太一茶畑佑介

【評】同志社大学 怒涛の連打で 2 回戦突破！

同志社大学は、3 回裏一死後 1 番茶畑から 3 連打で二死満塁と攻め神保の中前タイムリーで 2 点先制。続く根岸も中前タイムリーで 2 点追加。試合の主導権を握った。佐復投手は打線を抑え好守にも助けられ完封した。

岡山大学は 6 回表安打と 2 四球で一死満塁と攻め寄るも、あと 1 本が出ず涙を吞んだ。しかし水

野投手の無四球8奪三振が光った。

▼第2日（9月8日）準々決勝戦

京都産業大学 00000 : 0
早稲田大学 5201x : 8

〔京〕●合田圭佑、新田哲也ー奥村雄太、
杉本幸紀

〔早〕○古川恵士ー沓澤 翔

(三)吉田享平、北村和也 (二)古川恵士

【評】早稲田大学圧勝！準決勝戦進出へ

早稲田大学は初回1番兼子、2番栗田の連続バント安打から吉田、古川、北村の長短打を絡め、打者9人5安打5得点の猛攻。その後も得点を重ね京都産業大学を圧倒した。先発9人中7人左打者を並べ、バント安打と長打を絡めた攻撃は迫力があつた。古川投手は5回1安打完封。7連続を含む10奪三振の好投。

京都産業大学は、初回主将奥村捕手の負傷退場が痛かつた。4回に三浦が投手前バント安打を決めるが、早稲田・古川投手を打ち崩す事は出来なかつた。

関東学園大学 0000000 : 0
日本体育大学 100020x : 3

〔関〕●井草裕太郎ー星野 翔

〔日〕○河野拓郎ー山内直人

【評】日体大、河野投手、ノーヒットノーラン達成で準決勝進出！

日本体育大学は、初回連打で走者2人を置き、4番山崎の犠飛で1点を先制した。5回には、二死走者なしから連打で出塁、一塁走者盗塁の間に三塁走者が生還。更に守備の乱れなどもあり、貴重な追加点を挙げて勝利を決めた。投げては、投手の河野が10個の奪三振の力投で、大会12人目となるノーヒットノーランの快挙を成し遂げた。

一方、関東学園大学は、4回に二塁手の星野の素晴らしいファインプレーもあつたが惜しくも敗退となった。

九州共立大学 0020401 : 7
高知工科大学 2100014x : 8

〔九〕●三谷祥平ー小林瑛人

〔高〕赤木亮太、○安堵和博ー上瀬恭平

【評】高知工科、今井が好走塁！シーソーゲームを制し、初のベスト4進出！

高知工科大学は3点を追う7回裏、熊田が四球、代打錦内が一・二塁間を破る安打で繋ぎ、安居が三遊間を抜く安打などで同点に追い付き、さらに一死一・三塁から捕手ゴロの間に三塁走者の今井が好走塁でホームインし逆転サヨナラ勝ちをした。

九州共立大学は5回表、藤井が三遊間を抜く安打、前田（征）の四球などで好機を作り、逆転するもリードを守り切れなかつた。

同志社大学 0000400 : 4
中京学院大学 0000000 : 0

〔同〕○佐復洋太ー茶畑佑介

(三)佐野浩平 (二)瀬戸祐輔

〔中〕●片岡 涼ー園田智幸

(二)小橋祥兼、片岡 涼

【評】同志社大学、ゼロ行進を破る4番瀬戸の一打で準決勝進出！

同志社大学は、5回表一死後茶畑・中原の連続安打から、4番瀬戸の左前二塁打で均衡を破り2点を奪い、続く神保も中前タイムリーを放つてこの回4点を挙げ、勝負を決めた。

中京学院は小橋・片岡の二塁打など毎回塁上を賑わしたが好守に阻まれ、あと一步届かなかつた。

▼第3日（9月9日）準決勝戦

日本体育大学 0020000 : 2
早稲田大学 005100x : 6

〔日〕●河野拓郎、齋藤将平ー山内直人

(三)古敷谷亮、遠藤大輔

〔早〕○古川恵士、西村直晟ー沓澤 翔

(本)吉田享平 (二)大嶋 翼、今村大樹

【評】早稲田大学ワンチャンスで決める！2年連続の決勝戦に挑む！！

2点を追う3回裏、早稲田大学は、大嶋のエンタイトル二塁打で二・三塁とし、溝口のセンター前ヒットで同点。続く4番吉田の右中間へのラン

ニングホームランで3点を加え計5点を挙げ一気に逆転した。その後は要所を締め決勝進出を決めた。

日本体育大学は、3回表古敷谷の三塁打、遠藤のライト線上に落ちる三塁打等で、2点を先制し

同志社大学 3 3 0 0 0 0 0 : 6
高知工科大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1

[同] ○古川恵士、西村直晟－沓澤 翔
(二) 中原滉生②、根岸拓海、佐野浩平、
神保昌汰

[高] ●安堵和博、赤木亮太－上瀬恭平
(三) 今井裕司、(二) 小山貴裕

【評】同志社大学、立上りを攻め逃げ切り、初の決勝戦へ進出する！

同志社大学は、初回から攻め2本の二塁打などで3点を先制。2回無死一・二塁から1番茶畑が二遊間を抜く安打で満塁にし、2番中原が今日2本目の二塁打で二者生還。続く3番佐野も二塁打を放ち3点を加え、序盤から試合を優位に進めて逃げ切った。

一方、高知工科大学は初回3番今井の三塁打、続く4番小山の二塁打で1点を返し、3回と5回に得点の好機を作るも、継投の佐野投手に抑えら

れ追加点が取れず敗退した。

▼第3日（9月9日）決勝戦

早稲田大学 3 2 1 0 2 : 8
同志社大学 0 0 0 0 0 : 0

[早] ○古川恵士、西村直晟－沓澤 翔
(本) 吉田享平 (三) 溝口 聖
(二) 大嶋 翼、江崎太亮
[同] ●佐復洋太、佐野浩平－茶畑佑介
(二) 瀬戸祐輔

【評】早稲田大学投打が噛合い完封コールドで2連覇を果たす！！

早稲田大学が初回から3番溝口がライトオーバー三塁打で2点を入れた後、犠牲フライなどで1点追加し、3点を挙げ試合の主導権を握ると、2回にも2点を加え、3回には4番古田が左中間越えのソロ本塁打を放ち5回コールドゲームを決めた。投げては古川～西村の投手リレーで完封した。昨年に引き続き優勝杯を手にした。

同志社大学は、2回の裏4番瀬戸がセンターオーバーの二塁打を放ち闘志を見せたが打線を抑えられ、3年前と同じ準優勝に終わったが、素晴らしいチームで次にこそ優勝を目指し、ガンバってほしい。

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	西村 直晟	早稲田	11	36	34	3	0	0	0	2	0	11	0	0	0	145	0.00	2	0	4
2	三谷 祥平	九州共立	20.1/3	86	59	9	10	3	4	21	2	13	0	2	0	328	1.03	2	1	3
3	古川 恵士	早稲田	13	51	47	8	2	2	0	1	3	16	0	0	0	167	1.08	3	0	4
4	佐野 浩平	同志社	11	51	41	8	2	2	2	8	0	12	0	0	0	191	1.27	2	0	3
5	赤城 亮太	高知工科	25	111	93	18	11	5	2	14	2	19	1	1	0	419	1.40	2	0	4
6	武井 大樹	国士館	14	60	55	16	3	3	1	2	2	12	1	0	0	219	1.50	1	1	2
7	井草裕太郎	関東学園	13	55	51	14	8	4	4	0	0	5	0	0	0	187	2.15	1	1	2
8	片岡 涼	中京学院	16	76	66	15	6	5	3	6	1	19	0	2	0	285	2.19	2	1	3
9	佐復 洋太	同志社	22	95	85	24	7	7	1	9	0	11	1	1	0	355	2.23	2	1	5
10	中村 和也	九州産業	14	62	54	11	8	6	0	8	0	10	1	1	3	194	3.00	1	1	2

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順 位	位 置	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犧 四 死 三 盜 殘 打 出 本 三 二 															
--------	--------	-------	-------	-------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

連 覇

早稲田大学ソフトボール男子部主将 北村 和也

大阪府大阪市舞洲運動広場で行なわれた、第48回全日本大学ソフトボール選手権において、早稲田大学ソフトボール男子部は、創部初の連覇を達成した。

その軌跡を振り返る。

初日。初戦の相手は広島経済大学。四年生は最

後の大会となるその初戦。プレッシャーの中、初回から力を発揮した。一回裏。捕逸で1点を先制し、更に四番吉田の本塁打で追加点を挙げる。この回一挙7得点。初回で試合を決めた。守っては先発の西村が3イニング、古川が1イニングを投げそれぞれ無失点。許したヒットは1本のみだっ

た。結果、11対0、四回コールドで初戦を終えた。

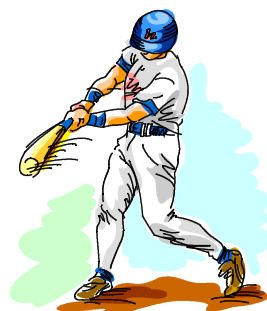
迎えた二日目。二回戦の相手は東日本インカレで苦戦を強いられた東海大。東日本では、三回まで無安打無得点と抑え込まれていたが、この試合は全く逆の展開となる。初回に長単打を絡め4点を先制すると、三回にも4点追加。またも序盤で試合を決めた。守っても先発の西村、リリーフの増井が危なげないピッチングで零封。8対0、五回コールド。勢いそのままに三回戦に臨む。相手は一昨年のインカレ回戦で苦杯を嘗めた京都産業大。やや苦手意識を持ちながら臨んだが、初回でその不安は吹き飛んだ。失策で1点を先制すると、打者一巡の猛攻で一举5得点。先発の古川は初回から7者連続三振を奪い、5回を被安打1に抑える快投。8対0、五回コールド。

そして最終日。準決勝の相手は好敵手、日本体育大学。東日本で逆転勝利を収めたものの、攻守に実力は拮抗していた。山場となる一戦。左打者7人を並べる早稲田打線に対して、日体大の先発は、三回戦でノーヒットノーランを達成した二年生左腕、河野。東日本では、五回途中まで1得点に抑え込まれている。いよいよ試合が始まった。早稲田の先発は古川。大学ソフトボール界を代表する左腕の投げ合いだ。二回を終え両チーム無得点。試合が動いたのは三回。日体大は先頭打者が三塁打を放つ。ここから連打を浴び、今大会初めて先制を許した。この回何とか2失点に食い止める。その裏の攻撃が今年の早稲田の全てを物語る。先頭が四球で出塁。一死から九番大嶋がレフトに二塁打を放ち2、3塁。その後二死満塁として、三番溝口が打席に立つ。東日本で2本の逆転本塁

打を放った小兵の勝負強さは健在だった。溝口の放った打球がセンター前に落ちる。二者が生還し同点。応援団のボルテージは最高潮に達する。打席には四番吉田。この回から得意のチェンジアップが入らなくなっていた河野に、この男を抑える術は無かった。一閃。打球は外野の間を抜け右中間最深部へ。処理にもたつく間に、吉田は一気にホームを駆け抜ける。3点追加。響き渡る紺碧の空。試合が決まった瞬間だった。四回から西村が登板。日体大も必死の反撃を試みるが、鉄壁の守備がそれを封じる。終戦。6対2で勝利。事実上の決勝戦は、今大会最もハイレベルな闘いだった。

決勝戦。相手は同志社大学。安定した投手陣と堅い守りを誇る同志社にも、早稲田の勢いは止められなかった。初回に3点を先制すると、その後も得点を重ね、五回に代打江崎が二塁打を放ちコールドスコアに。出場機会に恵まれなかった四年生が、最後の大舞台で花を咲かせた。投手陣も盤石だった。古川、西村のリレー。最後の打者をセンターフライに打ち取ると、マウンドには選手の輪が。笑顔、涙、様々な思いが溢れてくる。皆で都の西北大合唱。こうして物語は幕を閉じた。

無事に大会を終えたが、勝敗とは別で気になった点がある。試合会場で煙草を吸う選手がいたのだ。神聖なグラウンドであってはならないことである。これが男子ソフトボール界の現状だ。男子ソフトボールの知名度が上がらないのも頷ける。私たちの監督である吉村先生も、こんなソフトボール界の現状を憂いておられた。一大学がどうこうできる問題ではない。ソフトボール界全体で改善して欲しいものである。



全日本大学ソフトボール選手権大会入賞校

1966年11月、前回の東京オリンピックの2年後、東京都世田谷区の駒沢公園の軟式野球場で産声を上げた本大会は、今年で48回を数えます。この間には様々なドラマがありました。インカレ半世紀の記録を集大成すべく準備に入ったところですが、本号では、これまでの入賞校をご紹介します。

【男子】

大学名	優勝回数	2位回数	3位回数
日本体育大学	28	5	4
国士舘大学	4	7	6
中京大学	3	6	7
早稲田大学	3	3	7
東海大学	2	5	6
立命館大学	2	2	3
沖縄国際大学	2		2
京都産業大学	1	4	5
中京学院大学	1	1	1
琉球大学	1		
環太平洋大学	1		

福岡大学		4	7
高崎経済大学		3	1
同志社大学		3	1
学習院大学		1	2
神戸学院大学		1	5
関西大学		1	4
国際武道大学		1	1
都留文科大学		1	

広島修道大学			4
九州東海大学			2
茨城大学			1
愛媛大学			1
愛知大学			1
大阪体育大学			1
山梨学院大学			1
龍谷大学			1
九州産業大学			1
熊本学園大学			1
九州共立大学			1
高知工科大学			1

※48回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

【女子】

大学名	優勝回数	2位回数	3位回数
日本体育大学	18	12	6
東京女子体育大学	15	15	8
園田学園女子大学	6	4	8
東北福祉大学	3		2
日本女子体育大学	1	5	8
大阪成蹊女子短大	1	4	5
中京大学	1		11
中京女子大学	1		1
早稲田大学	1		1
淑徳大学	1		2
大阪大谷大学	1		2

武庫川女子大学		2	6
大阪国際大学		2	2
大阪体育大学		1	1
東海女子大学		1	1
東海学園大学		1	1
鈴鹿国際大学		1	1

九州女子大学			2
仙台大学			1
関西外国語大学			1
神戸親和女子大学			1
龍谷大学			1
大阪体育大学			1
愛媛女子短期大学			1
龍谷大学			1
清和大学			1
福岡大学			1
立命館大学			1
環太平洋大学			1

※旧校名分を含む

※第39回の優勝は2校

※48回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

文部科学大臣杯第48回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成25年9月6日(金)～9月9日(月)

会場：大阪府交野市／総合体育施設グラウンド 他

大会概要

中京大学 悲願の初優勝

大会記録長：丹 羽 米 子

第48回文部科学大臣杯全日本大学女子ソフトボール選手権大会が大阪府の交野市と寝屋川市において開催された。全国から厳しい予選を勝ち進んだ32チームが終結、熱戦を繰り広げた。

大会は不安定な天候の中で始まったが、初日は無事に終了した。しかし、二日目は朝方からの雨が止まず、「時間をずらしても行えないか」と地元協会の皆さんにはギリギリまで努力していただいたものの、やむなく順延。火曜日の予備日を使用しての大会となった。

最終日にコマを進めたのは三連覇に燃える園田学園大学、三連覇を阻止し初の日本一を狙う地元の大阪国際大学、8年ぶりのベスト4進出となる中京大学、初のベスト4進出で一気に頂点を狙うIPU環太平洋大学の4校。園田の三連覇なるか、どの大学がそれを阻止して大学日本一になるか、この4チームの激突で、最終日は8時56分、準決勝戦からプレイボールがかかった。

その結果、初戦で強豪早稲田大学をタイブレーカーで敗って勢いに乗った古豪中京大学が初の日本一に輝いた。これまで38回の出場を数える中京大学であったが、その大会成績は最多となる11回の3位が最高で、準決勝戦の厚い壁を打破しての初優勝であった。三連覇を狙う園田学園女子大学は決勝戦までは王者の戦いを堂々と展開してきたが、最後の最後に惜しくも逆転サヨナラで涙をのんだ。3位となった地元大阪国際大学は3試合をすべて1点差で切り抜いた。環太平洋大学は初の3位入賞でありこの両校にも賞賛を送りたい。

なお、本大会における新記録は次の通りである。
最長試合時間：2時間31分 東海学園×東北福祉戦

最多四死球試合：20四死球 早稲田×中京戦

大会最多本塁打：22本

※大会200号本塁打は中京大学の塚本智名選手
(準決勝の対環太平洋大学戦)

大会講評

激戦を制した中京大学

近畿地区常任理事：久保田 豊 司

今大会は、大会3連覇を目指す西日本インカレを制した園田学園女子大学、東日本インカレ優勝の山梨学院大学、同準優勝の東京富士大学、西日本インカレ準優勝の立命館大学、伝統校の日本体育大学、東京女子体育大学を中心に優勝争いを展開することが予想された。

大会1日目の1回戦で日本体育大学が鈴鹿国際大学に、東京女子体育大学が初出場の太成学院大学に敗れ、最多出場の伝統校が大会初日に早くも姿を消した。ベスト4は、順調に勝ち進んだ園田学園女子大学、東京富士大学と山梨学院大学の試合を1点差で勝利した大阪国際大学、土壇場で早稲田大学に追いつきサヨナラ勝ちで勢いに乗った中京大学、底力を発揮し初の準決勝に進出した環太平洋大学であった。決勝は、園田学園女子大学と中京大学の対戦となり、7回まではお互いランナーが出塁するも得点につながらず息詰まる投手戦が続いた。8回タイブレーカに入り先攻の園田学園女子大学が1点を入れ、その裏中京大学はスクイズを失敗。このまま園田の3連覇達成かと思われたが、続く一死一・二塁から塚本選手が起死回生の左中間を破る三塁打を放って中京大学が劇的なサヨナラ勝ちで38年目の初優勝を成し遂げた。

大会を振り返ると、チーム力が均衡しており来年以降も激戦が予想され、各大学の真価が問われるのはこれからである。

文部科学大臣杯第48回全日本大学女子ソフトボール選手権大会結果

	7日(土)	9(月)	10日(火)	
1. 園田学園女子大学(36)	9	2		
2. 国士舘大学(19)	1		6	
3. 日本体育大学(48)	1	0		
4. 鈴鹿国際大学(5)	2		7	
5. 大阪大谷大学(12)	5	3		
6. 東北福祉大学(11)	14		0	
7. 金沢学院大学(4)	1	4		
8. 東海学園大学(12)	2			
9. 山梨学院大学(5)	6	7		1
10. 天理大学(2)	1		1	
11. 山口福祉文化大学(2)	1	0		
12. 関東学園大学(3)	7		1	
13. 東京富士大学(2)	2	4		
14. 大阪国際大学(12)	3		2	
15. 環太平洋大学短期大学部(16)	9	3		
16. 富士大学(9)	2			
17. 神戸親和女子大学(14)	0	0		
18. 城西大学(11)	2		6	
19. 早稲田大学(10)	2	1		
20. 中京大学(38)	3		6	
21. 福岡大学(17)	10	10		
22. 松本大学(8)	0		0	
23. 日本女子体育大学(44)	6	0		
24. 鳥取短期大学(26)	0			
25. 東京国際大学(3)	2	5		2
26. IPU環太平洋大学(7)	7		2	
27. 立命館大学(12)	7	0		
28. 東海大学(26)	0		3	
29. 仙台大学(16)	0	1		
30. 日本福祉大学(2)	13		0	
31. 大成学院大学(初)	4	6		
32. 東京女子体育大学(48)	2			

中京大学
(初優勝)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月7日）1回戦

国士舘大学 00010 : 1
園田学園女子大学 7002x : 9

〔国〕●浅田 瞳、吉田千紘－伊藤 成

（二）斉藤陽子②、小坂紗季、武藤もも

〔園〕泉礼花、○池田美樹、貫彩紗－清原奈侑

（本）岩本玲奈 （三）川村可奈子

（二）中川なおみ

【評】園田女子大 全員ソフトで初戦を突破！
園田学園女子大学は、初回7番岩本の3ランを含め打者10人、5安打の猛攻で一挙7点、4回にも1番川村の二塁打を足がかりに、児嶋のタイムリー等で2点を加え試合を決定づけた。

一方、国士舘大は4回3番岸の中前ヒットから6番武藤の左越二塁打で1点を返した。序盤の大量失点にもめげず、リリーフした吉田は2回、3回を抑えたが最後は力尽きた。

日本体育大学 1000000 : 1
鈴鹿国際大学 010010x : 2

〔日〕三木綾菜、●大村 茜－澤井美佑

（二）松畑美希

〔鈴〕○平木綾佳－松山裕衣

（本）西井春菜、長谷川千尋

【評】鈴鹿 本塁打攻勢で接戦を制し初戦突破
鈴鹿国際大は先制点を許したが、2回の守備で高橋がファインプレーでチームを盛り上げ、その勢いに乗って2回の攻撃で5番西井が中越え本塁打で同点とし、さらに5回1番長谷川が本塁打を放って勝ち越し、初戦を飾った。

日本体育大は、初回1番松本の安打で出塁後2番槌谷がバントで一塁走者を進め、相手チームのスキを突いて先制点を挙げたが、好守備に阻まれ涙を飲んだ。6回の好機に追加点を挙げることが出来なかったのが悔やまれる。

東北福祉大学 300056 : 14
大阪大谷大学 000221 : 5

〔東〕○矢萩 圭、高田華奈－清水菜々子

（三）池田 唯、（二）高原侑里、岩上加歩

〔大〕●今西成美、竹田有沙－森下 舞

（二）下温湯晴香、仁科芽惟

【評】東北福祉大 終盤に大量点で快勝

東北福祉大は、初回一死から四死球を得て5番池田の右中間越えの三塁打で3点を先制。5回には敵失、野選を絡め一挙5点。6回にも打者一巡の攻撃で6点を加えて大量リードを奪い、2回戦進出を決めた。

大阪大谷大は、4回一死二、三塁から代打下温湯の右越のエンタイトル二塁打で2点を奪った。5回6回にも追加点を挙げて必死の追い上げを見せたが及ばず敗れた。

金沢学院大学 0000010 : 1
東海学園大学 101000x : 2

〔金〕●徳原 萌、小西由依－上之浦成美

（二）田口麻矢

〔東〕○河津かおり－金子真依

（三）金子沙耶

【評】東海学園大 接戦を制して初戦突破！

東海学園大は初回3番中野が安打、4番金子（沙）の左翼越えタイムリー三塁打で先制。3回には2番戸村と4番金子（沙）の安打後、6番磯淵が中堅前安打を放ち追加点を挙げる。投げては河津が要所を締め、相手チームの追加点を許さなかった。この2点を守り初戦を飾った。

一方、金沢学院大は初回2番、3番の出塁後の好機に先制を阻まれた。6回2本の安打で1点を挙げたが後続なく追加点を挙げることが出来ず涙を飲んだ。

天理大学 1000100 : 1
山梨学院大学 122010x : 6

〔天〕●石田真子、神野まどか、酒井夏葉－

小山亜紗

〔山〕○酒井彩好－妹山玲奈

（本）森田紀代美 （二）望月朱里②

【評】山梨学院 ソツなく攻めて2回戦へ！

山梨学院は1点を先制されたが、その裏相手の失策で同点にする。2回、6番森田が中越え2ラ

ンを放つ。3回二死三塁からバント安打と5番望月の2塁打で2点を追加、5回にも代打高岡の内野安打で1点を加え、投手酒井が天理大学を1点で抑え切った。

一方、天理大学は1回に1番千葉を三塁において、3番石田のタイムリーで幸先良く1点を挙げるも、2回以降は打線が繋がらなかった。

山口福祉文化大学 0000100 : 1
関東学園大学 200023x : 7

[山] ●高間 茜一春名理紗子

[関] ○磯 知里、池沢織乃一福田裕香

(本)比護紀子、山檜麻衣

(三)秋山実咲、奥州帆乃香 (二)坂元聖佳

【評】関東学園大学、終盤の猛攻で大勝！！

関東学園は、1回裏3番秋山・4番佐々木のタイムリーで幸先よく先制する。5回にも坂元の二塁打と9番比護が右越えに豪快な2ランを放ちリードする。6回には2番大柴を塁に置き代打奥州が右中間三塁打と6番代打山檜が右越え2ランを放ち圧勝した。投げては磯と池沢が4安打、1失点に抑え好投した。

山口福祉文化は、5回失策で出た走者を9番藤本のタイムリーで1点を返すも続かず敗れた。

東京富士大学 0001100 : 2
大阪国際大学 003000x : 3

[東] ●小林 楓、森崎愛理一荻野みなみ

[大] ○石田紗也佳一岡村香織

(二)瀧田 悠

【評】大阪国際大 ピンチを冷静に断つ！！

大阪国際大は3回少ない好機を代打の瀧田がベッチに應える右中間の2塁打を足掛りに呉屋が中堅へのタイムリー等で3点を挙げた。投手石田は毎回走者を出すも要所を締め最後まで守りきった。

富士大 4回6番麓の安打と3四球を選び1点返し、5回に二死二塁7番田口が左中間へタイムリーで1点追加し、1点差まで追いつけたが反撃が遅かった。

環太平洋大学短期大学部 23202 : 9
富士大学 10100 : 2

[環] ○川内彩加一甲斐さつき

(三)甲斐さつき (二)川内彩加

[富] ●榎林茉実、織田志保一須貝祥江

(二)内田千尋、伊藤さや香

【評】環太平洋短大 5回7点差コールド勝ち

環太平洋短大は、1回山下・山本のタイムリー等で2点先取、2回にも6番東の2点タイムリーなどで3点を挙げ試合の主導権を握り、なお3・5回にも小刻みに追加点を挙げ、富士大の攻撃の要所を投手川内が抑え、5回7点差のコールド勝ちを収める。

一方、富士大学は、1回内田の二塁打を足掛り等で1点を返し、3回にも1点を追加するも、その後は好機に決定打を欠いた。

城西大学 0000101 : 2
神戸親和女子大学 0000000 : 0

[城] ○田上沙也加一保崎麻優

(本)榎本千波

[神] ●太田春香一中尾 萌

【評】城西大、田上の3安打完封で、2回戦へ

城西大、5回蟹沢の四球と1番田浦の安打での好機に3番木村がタイムリーで先制点、7回1番榎本のホームランで、追加点を挙げ勝利を決めた。

神戸親和大の5回、9番中屋のバント安打、代打井上、2番上野のバントで二死三塁の好機に点を挙げる事が出来ず。好投の太田投手に比べられず、1回戦で姿を消した。

早稲田大学 10100000 : 2
中京大学 00000021x : 3

[早] 後藤めい、●泉 花穂一鬼澤麻純

(二)高橋 映

[中] 長谷川朋子、森あすか、○長谷川朋子

一荒屋えりか

(本)森口綾香

【評】中京大 接戦を制し、初戦を勝利！！

中京大 先制を許し、苦しい展開の中7回二死2塁から代打森口の中堅への2点本塁打で同点と

してタイブレーカーに入る。表の攻撃を凌いだその裏の攻撃で一死満塁から平川のバント安打でサヨナラ勝利した。

早稲田大 1回に無死一塁から高橋の二塁打で先制点を挙げ、3回制球の乱れからの四死球を活かし追加点。後藤投手も好投したが、相手の反撃に合い惜敗した。

松本大学 0000 : 0
福岡大学 3142x : 10

[松] ●山越栞奈、橋本弥幸、高橋千波－
田島梨恵

[福] ○西藤笑美－木本もえ

(三) 四方田有香、西藤笑美、木本もえ

【評】福岡大三塁打3本と投手西藤の好投で勝利
福岡大、1回裏1番石井、2番四方田の安打、
5番田中の安打で3点、2回西藤の三塁打で1点、
3回四方田の三塁打などで4点を追加、4回木本
の三塁打などで2点を挙げコールド勝ち。投手西
藤のピッチングが光り、相手を寄せつけなかった。

一方、松本大は3回四球と相手守備の乱れで一
死二塁・三塁と攻め、4回には得点圏に走者を進
めるも一本が出ずにコールド負けを喫した。

鳥取短期大学 00000000 : 0
日本女子体育大学 003030x : 6

[鳥] ●谷口恵理子－柏木梨江

[日] ○佐藤紫帆－角本 遥、佐々木竜子
(本) 山田結美 (二) 伊藤仁美

【評】攻撃の手を緩めず日女体大が初戦突破！

日本女子体育大、3回4番山田のホームランで
一挙3点先制。5回7番内山の右翼二塁打でさら
に3点追加。谷口投手も安定した投球で相手チー
ムの攻撃を封じて攻守の歯車が噛み合い初戦を突
破する。

一方、鳥取短期大も4回3番山根が右翼前ヒッ
トを打ち一死一、二塁とチャンスを作るが得点が
得られず、いつもの力が発揮できなかった。

東京国際大学 0000020 : 2
環太平洋大学 040201x : 7

[東] ●井本妃里、金井里奈、大野栞奈－
坂入美咲

(三) 松本由佳 (二) 石田美奈

[環] ○海部栞菜－六與瑞希

(本) 永溝早紀 (二) 瀧下麻理

【評】IPU・環太平洋大学 投打に圧倒

環太平洋大学、2回裏走者を二塁・三塁に置き、
1番打者永溝の安打により2点を得る。さらに、
2番金江・3番田中の安打が続き2点を追加。4
回裏金江、田中が安打で出塁、4番打者瀧下の二
塁打により2点を挙げる。投手海部の好投がチー
ム全体を率いて、勝利を掴んだ。

一方、東京国際大学、6回表、8番大谷、1番
加藤が安打で出塁、2番打者松本の三塁打で2点
を返す。7回表、5番打者石田の二塁打でチャン
スを掴むが得点出来ず敗れた。

立命館大学 1010104 : 7
東海大学 0000000 : 0

[立] ○加藤あずさ－山澤 葵

(本) 渡邊 綾 (三) 山澤 葵

[東] ●篠原由緯子－樋口 遥

(三) 院去智子

【評】立命館大学、加藤投手が完封勝利！！

立命館、初回山澤の安打を活かし1点を先制、
3回にも山澤の三塁打を高橋が安打で追加点、5
回には渡邊の本塁打で優位に展開、7回に2四球
と4安打を集め4点を追加する。加藤投手が5奪
三振、4被安打で完封した。

一方、東海は初回一死二塁・三塁と攻め5回に
は院去の三塁打も攻めきれず敗れた。

日本福祉大学 0256 : 13
仙台大学 0000 : 0

[日] ○宇野かな、鷺見真祐加－新海真里奈

(本) 斉藤 蒼 (三) 天野佑香、杉山 和
(二) 安田千春

[仙] ●青山美沙紀－南條千恵

(二) 大友優香

【評】日福大 全員安打の攻めでコールド勝ち

日本福祉大学、2回表一死後5番天野の三塁打に6番安田の二塁打が続き2点を先取、3回先頭打者斎藤の本塁打を皮切りに5点を追加、4回にはさらに6点を加え試合を決めた。

一方、仙台大学は安打は出るが単発が多くて試合を作れぬままにコールドで敗れた。

東京女子体育大学 0002000 : 2
大成学院大学 010003x : 4

[東] ●平原かすみー吉田尚美

(二)山根すずか、山田美樹

[大] 山本夢菜、楠本結加、○山本夢菜ー
緒方美菜子

(本)谷口みなみ、(三)前崎日奈子

【評】太成学院、谷口が逆転3ランで2回戦進出

太成学院大学は2回裏一死満塁から吉田の二塁ゴロの間に先制点を入れた。1点を追う6回には四球の水口と内野安打の吉田の二走者をおいて谷口が中越3ランで逆転した。投手陣も山本、楠本、山本の再登板と継投がうまく結びついて勝利した。

一方、東京女子体大も4回2本の二塁打とタイムリーで一度は逆転した。その後も走者を出すがあと一本がはず、初戦で涙をのんだ。

▼第3日（9月9日）2回戦

園田学園女子大学 1000001 : 2
鈴鹿国際大学 0000000 : 0

[園] ○泉 礼花ー清原 奈侑

(本)清原奈侑、小西このみ

[鈴] ●平木綾佳、三井綺乃ー松山裕衣、
西井春菜

【評】園田学園女子大学、2本の本塁打で勝つ

園田学園女子大学は、1回2死後3番清原の本塁打、7回中川の本塁打と2本の本塁打で勝利を手にした。

一方、鈴鹿国際大学は、5本の安打を生かすことが出来ず敗れた。

東海学園大学 3100000 : 4
東北福祉大学 0000120 : 3

[海] 河津かおり、○木村麻利亜、長瀬りえー

金子真依

(本)木村麻利亜 (三)濱嶋有里

(二)大西朱音、木村麻利亜

[北] ●矢萩 圭ー清水菜々子

【評】東海学院大学接戦をものにする！

東海学園大学は、1回の表、先頭打者大西の二塁打を犠飛で1点、走者一塁で5番木村の本塁打で2点追加、2回には三塁打と単打で1点。その後は、矢萩投手に2安打に抑えられたが、投手の長瀬が踏ん張り逃げ切った。

一方、東北福祉大学は、4回まで得点圏に走者を進めることが出来なかった。5回9番打者の三塁打を犠打で1点。6回には、2本の安打と2個の四球、守備妨害で2点を返し、後一步まで迫ったが逆転は出来ず敗れた。

関東学園大学 000000 : 0
山梨学院大学 001105x : 7

[関] ●猪井玲那、磯 知里、西 里佳子ー
福田裕香

[山] ○酒井彩好ー妹山玲奈

(本)高岡 梓 (三)太田美紅、土肥里奈、

(二)望月朱里

【評】山梨学院大、6回の猛攻でコールド勝ち！

山梨学院大学、5回まで2点リードで迎えた6回、代打高岡のホームランを含め6本の長短打で一挙に5点を挙げ勝利した。

一方、関東学園大学は山梨の酒井投手に2安打、無四死球に抑えられ敗退した。

環太平洋大学短期大学部 0001200 : 3
大阪国際大学 002020x : 4

[環] ●川内彩加、上長野芽衣ー甲斐さつき

(二)串崎みく、川内彩加

[大] ○石田紗也佳ー岡村 香織

(本)瀧田 悠 (三)中野優菜

(二)呉屋知紀、前田美憂

【評】長打に勝る大阪国際大学が勝ち進んだ

大阪国際大学は、ホームラン1本、三塁打1本、二塁打2本、単打7本を効率よく得点に生かし逃げ切った。

一方、環太平洋短期大学は、5 回表までは 1 点差で勝っていたが、その裏大阪国際大学の 2 本の長短打で逆転され無念の敗退となった。

中京大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
城西大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔中〕○長谷川朋子－荒屋えりか

〔城〕●田上沙也加－保崎麻優

【評】中京大学 投手戦を制して勝利！

両校 6 回まで長谷川、田上両投手の投げ合いでお互い譲らず、好試合を展開。

中京大学は、7 回表死球の森口を犠打で送り倉田のタイムリー安打で貴重な 1 点をもぎ取る。その裏、長谷川投手が 3 人で締め準々決勝へ進んだ。

一方、城西大学は、走者を 3 塁に進めることが出来ず、無念の敗退。

日本女子体育大学 0 0 0 0 0 : 0
福岡大学 0 1 2 7 x : 10

〔日〕●佐藤紫帆－佐々木竜子

〔福〕○西藤笑美－本本もえ

(三)田中晶子、四方田有香

【評】福岡大学 快勝！！

福岡大学は 2 回田中、堀本の安打で幸先よく 1 点、3 回にも 2 本の安打と死球で 2 点を取る。4 回相手の失策もあり大量 7 点を取りコールド勝ちした。

一方、日本女子体育大学は、西藤投手の前に無安打に抑えられ敗退した。

環太平洋大学 0 0 1 3 0 1 0 : 5
立命館大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔環〕○海部栞菜、豊永 優－六與瑞希

(本)永溝早紀、田中真紀子 (二)瀧下麻理

〔立〕●加藤あずさ－山澤 葵

【評】IPU 環太平洋大 2 本の本塁打で準々決勝へ

環太平洋大学は 3 回先頭打者永溝の左中間本塁打で 1 点先行。4 回には 3 本の安打と 1 四球、1 死球で 3 点を追加。6 回に 3 番田中の本塁打で試合を決めた。

一方、立命館大学は海部、豊永投手に得点の機

会もなく敗れた。

大成学院大学 0 0 2 2 1 0 1 : 6
日本福祉大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

〔大〕○楠本結加、山本夢菜、大橋のり子、楠本結加－緒方美菜子

(三)大橋のり子、緒方美菜子

(二)川上沙也加

〔日〕●鷺見真祐加、深澤彩夏、鷺見真祐加－新海真里奈

(二)天野佑香

【評】太成学院大学 準々決勝へ駒を進める

太成学院大学は、安打で出た走者を巧く生かし得点に結び付けて勝利。2 回表、谷口の安打、大橋の三塁打で 1 点。3 回相手のミスに乗じて追加点を挙げ、さらに 4 回、7 回に追加点を挙げ勝利した。

日本福祉大学は、5 回まで走者を出すものの相手の守備に阻まれ、6 回 2 本の安打と犠打で 1 点を返すも力尽き敗れる。

▼第 3 日（9 月 9 日）準々決勝戦

東海学園大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 0 0 4 0 2 0 x : 6

〔東〕●河津かおり－金子真依

(二)戸村美紅

〔園〕○泉 礼花、池田美樹、市谷愛美－清原奈侑

【評】園田学園女子大学 2 連覇に一步前進！

園田学園女子大学は 3 回、先頭の亀井が左越二塁打で出塁すると、4 番古澤の右翼線適時三塁打などで 4 点を先取。5 回にも中川の左翼線二塁打で 2 点を追加。試合を優位にした。守っては泉・池田・市谷のリレーで東海学園を被安打 3、無失点に抑えた。

東海学園は 7 回、二死走者なしから、戸村が意地で左越二塁打を放ちチャンスをつくるなど、毎回のようには走者を出す、あと 1 本が出ず、昨年の王者を倒すことができず敗退した。

山梨学院大学 0001000:1
大阪国際大学 110000x:2

[山] ●酒井彩好、清水琴乃ー妹山玲奈

(二)岩寄 楓

[大] ○石田紗也佳ー岡村香織

【評】大阪国際大 最少得点差を守り、準決勝へ
大阪国際は初回二死後、3番呉屋がセンターへの安打で出塁。死球を挟み、5番前田が同じくセンターへ弾き返すと、二塁走者呉屋が還り1点。2回には二死二塁で、1番瀧田が二遊間を抜く打球で2点目。この得点をエース石田が守り抜き準決勝へ進んだ。

一方、山梨学院は4回、死球出塁の森田を送りバントと内野ゴロで三塁に進めた後、9番櫻井が右翼線適時打し1点を返すと、5回にも妹山・望月の安打などで二死満塁の好機を作るが、あと1本が出ず惜敗した。

中京大学 0202002:6
福岡大学 0000000:0

[中] ○長谷川朋子、森あすかー荒屋えりか、
平川穂波

(三)下山実咲 (二)塚本智名

[福] ●西藤笑美ー木本もえ

【評】中京大学 準決勝へ駒を進める！！

中京大学は2回一死後4本の安打で2点、4回は失策を絡めて2点、7回は三塁打と中堅への犠飛、2本の安打で2点、計6点。投げては、長谷川・森両投手が福岡大学を無安打に抑さえる好投で勝利した。

一方、福岡大学は打撃が振るわず、無得点と力を出し切れずに敗退した。

大成学院大学 0000000:0
環太平洋大学 1010000:2

[大] ●楠本結加、山本夢菜ー緒方美菜子

[環] ○豊永 優、海部栞菜ー六與瑞希

(二)田中真紀子、瀧下麻理

【評】IPU環太平洋大学少ないチャンスで勝利！

環太平洋大学は、1回四球の走者が犠打と安打で1点先取。3回には二死後、3番田中の二塁打、

4番瀧下の二塁打で1点を追加。その後は、得点のチャンスは無く、この2点を投手豊永、海部が守り切った。

一方太成学院大学は、得点チャンスが無く、好投の楠本、山本両投手を見殺しにした感がした。

▼第4日（9月10日）準決勝戦

大阪国際大学 0010000:1
園田学園女子大学 302101x:7

[大] ●石田紗也佳、北山柚花ー岡村香織、
齋藤成美

[園] ○泉 礼花、池田美樹、貫 彩紗ー清原奈侑
(本)古澤春菜

【評】園田学園大 3年連続の栄冠へ王手！

園田学園は、初回一・二塁に走者を置き、4番古澤の3点本塁打で先行すると、3回には6番田井の2点適時打で追加点を挙げ、4回、6回にも加点、投げては泉・池田・貫の好継投で大阪国際を突き放した。

大阪国際は、3点リードされた3回、二塁に走者を置き代打丸尾の安打で1点を返したが、園田学園の3投手に抑えられ5年振りの決勝進出を逃した。

中京大学 5010000:6
環太平洋大学 0000300:3

[中] ○長谷川朋子、森 あすかー荒屋えりか
(本)塚本智名 (三)藤本麻依子

[環] ●海部栞菜、豊永 優ー六與瑞希
(二)永溝早紀

【評】中京大学 初回の猛攻で決勝進出！！

中京は初回、1番塚本が右翼越えに先頭打者本塁打。さらに四球出塁の香山を置いて3番藤本が中越えタイムリー三塁打を放ち2点を追加。その後も相手チームのスキを突き点を加えると、この回に5得点を挙げ勢いづいた。その後も3回に1点加点したが交替した相手投手を打ち崩せず追加点を挙げることは出来なかった。

IPU環太平洋は5回、5番宮本の四球出塁を足がかりに反撃、8番溝口の適時等で3得点したが、

後続なく加点することが出来ず涙を飲んだ。交替した森投手の好投が光った。

▼第4日（9月10日）決勝戦

園田学園女子大学 00000001 : 1
中 京 大 学 00000002x : 2

[園] ●泉 礼花ー清原奈侑

[中] ○長谷川朋子ー荒屋えりか

(三)塚本智名

【評】中京大学 塚本の逆転中越三塁打で初優勝

7回まで園田・泉、中京・長谷川両エースの息詰まる投手戦を展開した。先攻の園田学園はタイブレーカー8回、犠牲バントで二塁走者を進めると、亀井の遊撃ゴロの間に生還し先制。1点を追う中京はその裏、大野のバント安打を絡めた一死一・二塁から、1番塚本が中越三塁打し劇的な逆転サヨナラ勝ちを収めた。

両チーム共、無失策の守備を演じる好ゲーム。最後は3年連続の優勝を阻んだ中京に勝利の女神はほほ笑んだ。

女子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順 位	位 置	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 殘 打 出 本 三 二															打 擊 率	試	
				席 数	打 点	点	打	球	球	振	塁	塁	妨	塁	打	打	打			合	
1	6	永溝 早紀	環太平洋	15	8	5	5	4	0	5	2	1	1	5	0	12	2	0	1	0.625	4
2	6	古澤 春菜	園田学園	15	12	6	5	5	0	3	0	0	1	3	0	9	1	1	0	0.500	5
3	3	田中真紀子	環太平洋	15	14	6	4	4	0	1	0	2	0	3	0	7	1	0	1	0.429	4
4	8	川村可奈子	園田学園	17	15	6	3	1	0	2	0	0	1	3	0	8	0	1	0	0.400	5
4	6	下山 実咲	中 京	18	15	6	1	2	2	0	1	0	2	5	0	7	0	1	0	0.400	5
4	5	瀧下 麻理	環太平洋	13	10	4	0	5	0	3	0	0	0	7	0	7	0	0	3	0.400	4
7	3	岩寄 楓	山梨学院	12	11	4	0	1	0	1	0	2	0	4	0	5	0	0	2	0.364	3
7	4	松田 愛実	中 京	12	11	4	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0.364	5
9	2	清原 奈侑	園田学園	16	12	4	4	4	2	2	0	0	0	1	0	6	1	0	0	0.333	5
9	5	中川なおみ	園田学園	15	15	5	3	6	0	0	0	3	2	1	0	5	1	0	2	0.333	5
9	8	塚本 智名	中 京	20	18	6	2	3	0	2	0	2	1	4	0	8	1	1	1	0.333	5
12	3	田井亜加音	園田学園	14	13	4	1	2	0	1	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0.308	5
13	5	大野 志織	中 京	12	11	3	2	1	1	0	0	2	0	2	0	3	0	0	0	0.273	5
14	6	呉屋 知紀	大阪国際	12	12	3	1	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0.250	4
15	8	金江 爽友	環太平洋	13	9	2	2	0	3	0	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0.222	4
16	7	藤本真依子	中 京	17	15	3	1	3	0	1	1	2	1	6	0	5	0	1	0	0.200	5
16	2	六與 瑞希	環太平洋	12	10	2	1	0	0	2	0	3	0	2	0	4	0	0	0	0.200	5
18	4	亀井 愛梨	園田学園	12	11	2	1	1	0	1	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0.182	5
19	5	中野 愛菜	大阪国際	12	12	2	1	0	0	0	0	2	0	3	0	2	0	1	0	0.167	4
20	3	香山紗貴子	中 京	17	13	2	3	0	0	2	2	2	0	3	0	6	1	0	0	0.154	5

女子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回数	打者数	打数	被安打	失点	自责点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	豊永 優	環太平洋	11	41	38	6	0	0	0	2	1	8	0	0	0	174	0.00	1	0	3
2	泉 礼花	園田学園	24.1/3	91	81	14	3	1	7	1	2	8	0	0	0	297	0.29	3	1	5
3	田上沙也加	城西	14	49	44	6	1	1	4	1	0	6	0	0	0	189	0.50	1	1	2
4	長谷川朋子	中京	30	117	91	11	6	5	5	17	4	17	0	0	0	456	1.17	5	0	5
5	山本 夢菜	大成学院	11	43	42	12	2	2	1	0	0	2	0	0	0	167	1.27	1	0	3
6	酒井 彩好	山梨学院	14.2/3	53	51	7	3	3	0	0	2	9	0	0	0	188	1.43	2	1	3
7	西藤 笑美	福岡	15	66	57	13	6	4	2	4	3	5	0	0	0	252	1.87	2	1	3
8	加藤あずさ	立命館	14	60	48	11	5	5	5	4	3	10	2	1	0	233	2.50	1	1	2
9	海部 栞菜	環太平洋	17	70	63	18	8	8	3	3	1	18	1	0	0	269	3.29	2	1	4
10	石田紗也佳	大阪国際	26.1/3	127	101	31	13	13	8	14	4	11	1	0	0	458	3.46	3	1	4

悔しさと厳しさを乗り越えた悲願の初優勝

中京大学女子ソフトボール部主将 荒 屋 えりか

2013年9月10日、私たちのチームは、全日本大学選手権（以後、インカレ）において悲願の初優勝を遂げることができました。この大きな目標を達成した瞬間、私は「本当に優勝したのか」と信じられない気持ちでした。しかし、大きな文部科学大臣杯、優勝旗、優勝杯、賞状を手にし、そして金メダルをかけて頂いたとき、ようやく「日本一になったんだ」という実感が湧きました。

昨年のインカレでは、初戦で早稲田大にサヨナラ負けを喫し、悔しい思いをしました。先輩方が引退され、私たちの今年の新チームは、このインカレの痛烈な悔しさからスタートしました。新チームになっても、すぐに同じ悔しさを味わいました。初めての公式戦である秋季東海地区大学リーグ戦の初戦で、春季リーグの下位チームを相手に終盤に逆転され、そのまま敗退。優勝を逃しました。この二つの負けは、私たちのチームに、技術・体力面での弱さはもちろんのこと、精神的な甘さを痛感させてくれたと思います。

平成24年のシーズンが終わり、冬場は練習やトレーニング、鍛錬の毎日でした。目標を見失いがちになることもありましたが、その度にあの悔しさを思い出し、「負けてたまるか」と選手全員がお互いに奮い立たせチーム力の向上に取り組みしました。

平成25年のシーズンは、三重県の熊野市において研修大会を兼ねた合宿でスタートさせました。この合宿では、厳しい練習や全国の強豪大学との試合の他に、砂浜や山道という厳しい環境での走り込み、1日1000スイングのノルマ、夜にはミーティングとソフトボール漬けの過酷な1週間を乗り切りました。研修大会では「この出場チームから必ずインカレの優勝チームが出る。」と監督に言われました。結果、体力的にも精神的にも本当に厳しい状況でしたが、この研修大会で優勝することができました。土砂降りの中の1000スイング、練習後に砂浜を走りきって立ち上がれなくなったこと、どのチームにも負けない努力をし続け、そ

の中で優勝することができたことは、選手一人一人の自信となり、この経験が私たちチームの強みとなりました。

チームで立てた目標は「インカレ優勝」。ゲームセットが宣告されるまで、諦めず、気を緩めない。チームが勝つために今、自分ができる事を全力でやるというのがチームの考え方でした。春季東海地区大学リーグ戦では5季振りの優勝を果たし、第48回インカレを迎えました。開会式では、二連覇している園田学園女子大が返還した文部科学大臣杯、優勝旗を必ず持ち帰るという強い気持ちを抱きました。初戦は、昨年惨敗した早稲田大。最終回2アウトから、同点本塁打で追いつき、サヨナラ勝ちを収めることができました。その後も強豪大学との接戦を制し決勝進出。決勝の相手は二連覇中の園田学園女子大でした。決勝戦らしい、緊張感のある投手戦となりました。お互い無得点

のままタイブレーカーに入り、先制はされましたが逆転し、サヨナラ勝ち。悲願の初優勝を達成することができました。昨シーズンの二つの惨敗、厳しい鍛錬の冬場、どこにも負けない努力、勝負にこだわる我慢に我慢を重ねた日々も、この日のためにやってきたのかと思うとすべてが報われた思いとなりました。監督・コーチ・保護者・大学関係者、卒業された先輩方、そして最高の仲間にも恵まれ、大好きなソフトボールができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。日本一のキャプテンにはなれなかったと思いますが、日本一のチームのキャプテンになれたことを本当に誇りに思います。私自身、今後は競技選手としてはソフトボールをやりませんが、指導者としてソフトボールに携わっていきたいと思っています。そこで、皆様に支えられて私が経験することができたソフトボールを伝えてきたいと思っています。

インカレPR（広報活動）について

日本体育社 石井新菜（元学生委員長）

東京都リーグの3部でプレイしていた私にとっての初めての「全国大会」は、大学4年生の時に学生役員（学生委員長）として参加させていただいた2010年の富山インカレでした。そこで目にしたものは、同じ大学生のハイレベルな戦いでした。「こんなにスピードがあって、しかもパワフルだなんて！！」「こんなすごい世界を知らなかったなんて！！」そう思うと同時に、「関わる人々がそのことにプライドを持ち続ける大会であり続けるべきである。」と思いました。また、私のように「インカレ」を知らない方に、もっと知っていただくために、何か出来ないか？とも考えました。

大学卒業後、志望していたPR（広報）の仕事に就き、学生時代にウェブコンテンツ制作会社で

インターンとして経験を積んでいたことから、インカレの「大会ウェブサイト」作成を担当させていただけることになりました。

インカレ広報活動1年目の山口インカレでは、「試合結果を素早く、伝える」ことをメインとし、「何が出来るか」ということと、「活動を行う上での課題の抽出」に重点を置きました。この大会のPRメンバーは、先生方と学生委員長、学生副委員長、仙台大学情報マスメディア学科の学生さん1名と私の4名でした。「必ず達成すべき目標」とした大会結果の速報配信は掲示板とTwitter（ツイッター）を使用し、写真撮影、優勝チームインタビューを行いました。複数の会場で大会が行われたこともあり、ある程度の人員が必要であ

ることが分かりました。そして、大会サイト、掲示板へのアクセス数から、手ごたえ、需要のあることも把握しました。また、この活動の継続が学連役員の皆さまに認められました。

2年目となった2012年埼玉インカレでは、男女それぞれが32チームと同数参加となった初めてのインカレでした。その舞台に、65番目のインカレ出場チームとして、学生委員長、副委員長に加え、次年度開催地区を代表して、関西リーグの学生さん男女1名に、東京都学連の学生さん、人員を増やした体制で「インカレPRチーム」を結成し、参加させていただきました。ここでは、「インカレに注目、応援してくださる方々が欲しい情報とは何か?」「私たちに出来ることは何か?」を検討し、前年度に行った試合結果の即時配信、写真撮影・配信、優勝チームインタビューに加え、開会式のダイジェスト「動画」の作成・配信を行いました。

3年目の2013年大阪インカレでは、学生役員、開催地、次年度開催地の学生さんたちで結成された65番目のインカレ出場チーム「インカレPRチーム」に加え、日ソ協の動画配信プロジェクトによる女子の数試合がユーストリーム(Ustream)でインターネット生中継され、「学生(大学)スポーツ」の動画配信を行うジェイネットTV(jnet-TV)さんによる試合撮影・インターネットを介した録画配信が行われました。ユーストリーム中継では、関西大学女子ソフトボール部の部員さんに大活躍していただきました。

活動をしながら、見たこと、感じたこと、お話ししたことをもとに考えたのは、次の通りです。一般の方には、「大学ソフトボール」を知っていただくため、興味をもっていただくためにまず、「情報(インフォメーション)」が必要であるので、「可能な限りの情報を提供する」こと。選手をはじめ、関係者の皆さまに、「大学でソフトボールに取り組んだ」もしくは「大学ソフトボールに関わった」という自負をもていただくためには、「記録を残し、さらに発展させ続けること」が大切であると改めて認識しました。チームの皆

さまには、未来の大学チームメンバーである子どもたちの「憧れの存在」、「目標」となって欲しいと思います。卒業してから、プレイヤーとしてソフトボールを続ける方も、指導者やスタッフ等、他のアプローチで関わる方も、接点を持たなくなってしまう方も、大学での経験に胸を張って、各々のフィールドで活躍し、行動を続けて欲しいというのが私の願いです。チャンスがあった時にはぜひ、ソフトボールとの接点を持ていただきたいと思っています。それは、私が「大学ソフトボール」にいただいたものでもあります。「この好循環を絶やすことなく、愛好者やサポーターを増やしていくために、私にできることは何だろうか?」を考えると同時に、皆さまの要望や声を集め、実現していけるようにしていきたいですし、一緒に活動する新しい仲間や皆さまの知恵が必要です。私自身、至らない所が多々ございますが、「大学ソフトボール」に関わるチャンスを頂戴し、ありがたく思っています。また、「PRチーム」メンバーとして活躍した学生さんが「来年は選手として参加します!!(写真撮影する方ではなく、撮影される方で!)」と宣言し、翌年は4年生としてチームを牽引。見事、決勝まで進んだ彼の活躍はPR活動への参加がきっかけの一つになったことから、非常に嬉しかったことでした。

個人的に設定している今後の目標・課題は、最優先事項である、試合結果の即時配信は変わらず、写真撮影も行いつつ、動画に関しては、日ソ協の取り組みや、民間企業の参入があるため、プレイバイプレイ形式の試合のテキストライブや試合記録のペーパー作成・配布等の導入を検討したいと考えています。どうしても物理的な制限を完全には排除しきれませんが、創意工夫をし、引き続き、チャレンジして参りたいと存じます。

この活動の原点は、日々の取り組みを積み重ね、ひたむきにソフトボールに取り組んだチームの皆さまの「プレイ」、「ひたむきに取り組む姿勢」、「仲間やソフトボールに対する思い」です。今後とも「インカレPRチーム」へのご理解とその活動に対するご協力とご支援をお願いいたします。

第28回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成25年8月10日(土)～8月12(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

	10日	11日	12日
1. 早稲田大学	7		
2. 北海道大学	3	2	7
3. 東海大学	5		5
4. 山梨学院大学	1	0	
5. 立教大学	12	3	
6. 東京理科大学	10		
7. 中央大学	2		5
8. 仙台大学	2	14	1
9. 国士舘大学	10	3	
10. 福島大学	9	1	
11. 桜美林大学	19	10	
12. 関東学園大学	10		
13. 学習院大学	2		
14. 国際武道大学	7	1	9
15. 東京都市大学	0		0
16. 盛岡大学	5	3	
17. 文教大学	3	8	
18. 高崎経済大学	10		
19. 慶應義塾大学	0		3
20. 東北大学	1	7	1
21. 城西大学	4		11
22. 八戸工業大学	0	0	
23. 東京学芸大学	5	10	
24. 日本体育大学	7		

優勝

早稲田大学

5年連続10回目

日本体育大学

第28回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成25年8月10日(土)～12日(月)

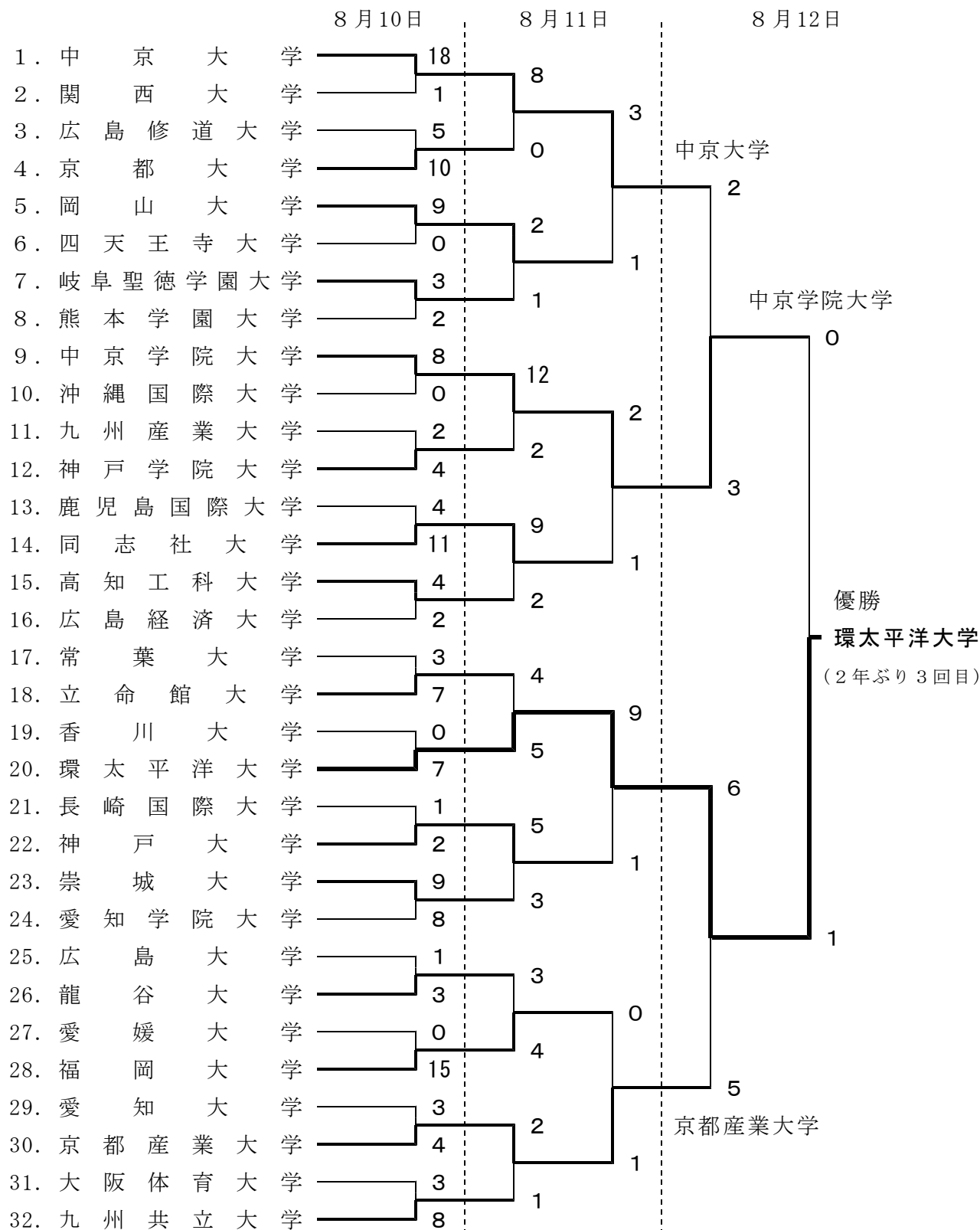
会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

	10日	11日	12日
1. 東京女子体育大学	0		
2. 東京富士大学	17	5	
3. 順天堂大学	1	7	
4. 日本体育大学	4	3	4
5. 淑徳大学	2	2	
6. 早稲田大学	0		東京富士大学 0
7. 城西大学	10		
8. 中央大学	2	0	2
9. 国際武道大学	1		2
10. 松本大学	1	2	東北福祉大
11. 東海大学	4	6	
12. 東北福祉大学	7		優勝
13. 筑波大学	7	0	山梨学院大学 (初優勝)
14. 東京学芸大学	8		
15. 山梨学院大学	10	12	
16. 仙台大学	1	7	2
17. 城西国際大学	10	1	
18. 盛岡大学	3	0	
19. 国士舘大学	7		3
20. 富士大学	0		
21. 東京国際大学	7	3	0
22. 学習院大学	0		東京国際大
23. 金沢学院大学	0	3	
24. 関東学園大学	1	1	
25. 日本女子体育大学	2		

第45回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成25年8月9日(金)～12日(月)

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和運動公園多目的球場 他



第45回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成25年8月9日(金)～12日(月)

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和運動公園陸上競技場 他

	8月10日	8月11日	8月12日	
1. 園田学園女子大学	11	10		
2. 岐阜経済大学	1		1	
3. 大阪体育大学	1	0		
4. 美作大学	3		4	
5. 大阪国際大学	5	9	0	
6. 中国学園大学	0		0	
7. 武庫川女子大学	3	1		
8. 日本福祉大学	2			3
9. 龍谷大学	6	2		
10. 中京学院大学	2	2	0	
11. 香川大学	0	0		
12. 鈴鹿国際大学	12	0	1	
13. 神戸親和女子大学	11	3		中京大学
14. 鳥取短期大学	2		1	
15. 奈良文化女子短期大学	0	4		
16. 中京大学	8			優勝 園田学園 女子大学 (2年連続14回目)
17. 大成学院大学	4	4		
18. 山口福祉文化大学広島校	0		1	
19. 福岡大学	8	3		
20. 至学館大学	0		2	
21. 立命館大学	3	5		
22. 九州共立大学	1		2	
23. 天理大学	8	2		
24. 環太平洋大学短期大学部	4			1
25. 兵庫教育大学	1	0		
26. 東海学院大学	5		4	立命館大学
27. びわこ成蹊スポーツ大学	0	10		
28. 東海学園大学	7		1	
29. 関西大学	3	0		東海学園大学
30. 熊本学園大学	4		1	
31. 環太平洋大学	0	6		
32. 大阪大谷大学	4			

第12回 大学ソフトボール東海オープン（男子）大会結果

会期：平成25年3月26日（火）・27日（水）

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

予選リーグ戦（3月26日）

Aグループ	中院	東北	広島	順位
中京学院	—	○ 7－0	○ 8－3	1
東北	● 0－7	—	● 5－6	3
広島	● 3－8	○ 6－5	—	2

Bグループ	中京	信州	大阪	順位
中京	—	○ 12－0	○ 15－0	1
信州	● 0－12	—	○ 13－2	2
大阪市立	● 0－15	● 2－13	—	3

Cグループ	東海	京都	愛知	順位
東海	—	○ 8－1	○ 2－0	1
京都	● 1－8	—	● 2－9	3
愛知	● 0－2	○ 9－2	—	2

Dグループ	同志社	愛学	日福	順位
同志社	—	○ 10－4	○ 9－3	1
愛知学院	● 4－10	—	○ 12－0	2
日本福祉	● 3－9	● 0－12	—	3

順位決定戦（3月27日）

1～4位決定戦

中京大学（5年ぶり4回目）

2	0		
0	3	6	0
中（3 学位） 院大 学	中（優 勝大 学）	東（2 位大 学）	同（4 位大 学） 志社 大
4			2

5～8位決定戦

愛知学院大学

12	13		
15	1	6	16
広（6 位大 学）	信（8 位大 学）	愛（7 位大 学）	愛（5 学位） 学院大
	2		9

9～12位決定戦

京都大学

4	11		
11	6	9	2
東（10 位大 学）	大（12 位市 立大 学）	京（9 位大 学）	日（11 位福 祉大 学）
	9		10

第12回 大学ソフトボール東海オープン（女子）大会結果

会期：平成25年 3月20日（水）・21日（木）

会場：愛知県安城市／安城市総合運動公園ソフトボール球場A・B・野球場C

予選リーグ戦（3月20日）

Eグループ	福 岡	日 福	中 院	順位
福 岡		○ 4－3	○ 10－0	1
日本福祉	● 3－4		○ 11－3	2
中京学院	● 0－10	● 3－11		3

Fグループ	中 京	関 東	岐 経	順位
中 京		○ 6－0	○ 7－2	1
関東学園	● 0－6		○ 7－4	2
岐阜経済	● 2－7	● 4－7		3

Gグループ	太 成	東 園	愛 教	順位
太成学院		○ 5－4	○ 5－2	1
東海学園	● 4－5		○ 10－0	2
愛知教育	● 2－5	● 0－10		3

Hグループ	日女体	同志社	至学館	順位
日 女 体		○ 12－9	○ 8－3	1
同 志 社	● 9－12		● 6－8	3
至 学 館	● 3－8	○ 8－6		2

順位決定戦（3月21日）

1～4位決定戦

中京大学（2年連続6回目）

6	1		
4	5	3	10
福岡大学 (3位)	中京大学 (優勝)	太成学院大学 (4位)	日本女子体育大学 (2位)
4	3		

5～8位決定戦

東海学園大学

2	12		
4	3	8	0
日（6位） 本福祉大学	関（7位） 東学園大学	東（5位） 海学園大学	至（8位） 学館大学
13	0		

9～12位決定戦

岐阜経済大学

7	0		
2	5	3	4
中（京11位） 京学院大学	岐（阜9位） 阜経済大学	愛（知12位） 知教育大学	同（志10位） 志社大学
11	0		

第14回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成25年4月20日(土)～21日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

【男子】

横川LEAG	高 経	関 学	千 葉	都留文	順
高崎経済	○	● 7-9	● 0-9	中止	
関東学園	○ 9-7	○	中止	○ 13-5	
千 葉	○ 9-0	中止	○	○ 15-1	
都留文科	中止	● 5-13	● 1-15	○	

碓氷LEAG	城 西	山 梨	信 州	東 海	順
城 西	○	○ 11-3	○ 4-1	中止	
山梨学院	● 3-11	○	中止	● 1-5	
信 州	● 1-4	中止	○	● 0-3	
東 海	中止	○ 5-1	○ 3-0	○	

最終順位：雨天のため二日目を中止し、順位なし

【女子】

ALEAG	新島A	東 福	関 学	国士館	順
新島短A	○	● 1-21	● 0-1	中止	
東北福祉	○ 21-1	○	中止	○ 4-1	
関東学園	○ 1-0	中止	○	● 3-7	
国 士 館	中止	● 1-4	○ 7-3	○	

CLEAG	新島B	松 本	東 海	城 西	順
新島短B	○	● 2-3	● 1-12	中止	
松 本	○ 3-2	○	中止	● 2-9	
東 海	○ 12-1	中止	○	● 5-6	
城 西	中止	○ 9-2	○ 6-5	○	

最終順位：雨天のため二日目を中止し、順位なし

2013 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会

会期：平成25年8月28日(水)～30日(金)

会場：長野県白馬村／村営北部グラウンド他

予選リーグ戦

白馬岳L.	東京国際	岐阜経済	新島学園	松 本	関 西	勝	分	敗	点	順位
東京国際		○ 7 - 0	○ 5 - 1	○ 7 - 0	○ 4 - 1	4	0	0	8	1位
岐阜経済	● 0 - 7		○ 7 - 0	○ 6 - 3	● 3 - 7	2	0	2	4	3位
新島学園	● 1 - 5	● 0 - 7		● 5 - 6	● 2 - 6	0	0	4	0	5位
松 本	● 0 - 7	● 3 - 6	○ 6 - 5		● 6 - 7	1	0	3	2	4位
関 西	● 1 - 4	○ 7 - 3	○ 6 - 2	○ 7 - 6		3	0	1	6	2位

※第3日の8月30日は雨天のため中止となり、予選リーグ戦の結果で最終順位を決定した。

杓子岳L.	環太平洋	大阪国際	城 西	清 和	金沢学院	勝	分	敗	点	順位
環太平洋		○ 3 - 1	○ 3 - 2	○ 13 - 6	○ 3 - 0	4	0	0	8	1 位
大阪国際	● 1 - 3		● 1 - 5	○ 4 - 1	○ 10 - 3	2	0	2	4	3 位
城 西	● 2 - 3	○ 5 - 1		○ 6 - 2	○ 3 - 0	3	0	1	6	2 位
清 和	● 6 - 13	● 1 - 4	● 2 - 6		○ 6 - 4	1	0	3	2	4 位
金沢学院	● 0 - 3	● 3 - 10	● 0 - 3	● 4 - 6		0	0	4	0	5 位

優勝
東京国際大学
環太平洋大学
3位
関西大学
城西大学

藤原初男杯 第5回全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会

会期：平成25年11月23日(土)・24日(日)

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

Aグループ	トヨタ	城西	大 国	岐 経	理 化	山 学	I P U	中 京	勝	分	敗	順
ト ヨ タ		● 7-9	○ 9-0			○ 7-0	○ 6-1		3	0	1	-
城 西	○ 9-7			○ 7-0	● 2-9			● 0-8	2	0	2	-
大阪国際	● 0-9			○ 3-2	○ 6-5			● 0-2	2	0	2	-
岐阜経済		● 0-7	● 2-3			● 3-10	● 0-3		0	0	4	-
東海理化		○ 9-2	● 5-6			● 1-5	○ 4-2		2	0	2	-
山梨学院	● 0-7			○ 10-3	○ 5-1			● 4-5	2	0	2	-
環太平洋	● 1-6			○ 3-0	● 2-4			● 2-11	1	0	3	-
中 京		○ 8-0	○ 2-0			○ 5-4	○ 11-2		4	0	0	優勝

Bグループ	織 機	東 国	大 谷	東 園	DENSO	東 福	園 田	鈴 国	勝	分	敗	順
豊田織機		○ 2-1	○ 7-0			○ 7-0	△ 1-1		3	1	0	2位
東京国際	● 1-2			○ 5-1	● 6-7			○ 5-0	2	0	2	-
大阪大谷	● 0-7			● 7-8	● 0-8			○ 7-6	1	0	3	-
東海学園		● 1-5	○ 8-7			● 2-8	● 0-1		1	0	3	-
デンソー		○ 7-6	○ 8-0			● 4-6	● 1-3		2	0	2	-
東北福祉	● 0-7			○ 8-2	○ 6-4			○ 6-1	3	0	1	-
園田学園	△ 1-1			○ 1-0	○ 3-1			● 4-9	2	1	1	-
鈴鹿国際		● 0-5	● 6-7			● 1-6	○ 9-4		1	0	3	-

優勝：中京大学(初) 4勝0敗、準優勝：豊田自動織機 3勝1分0敗

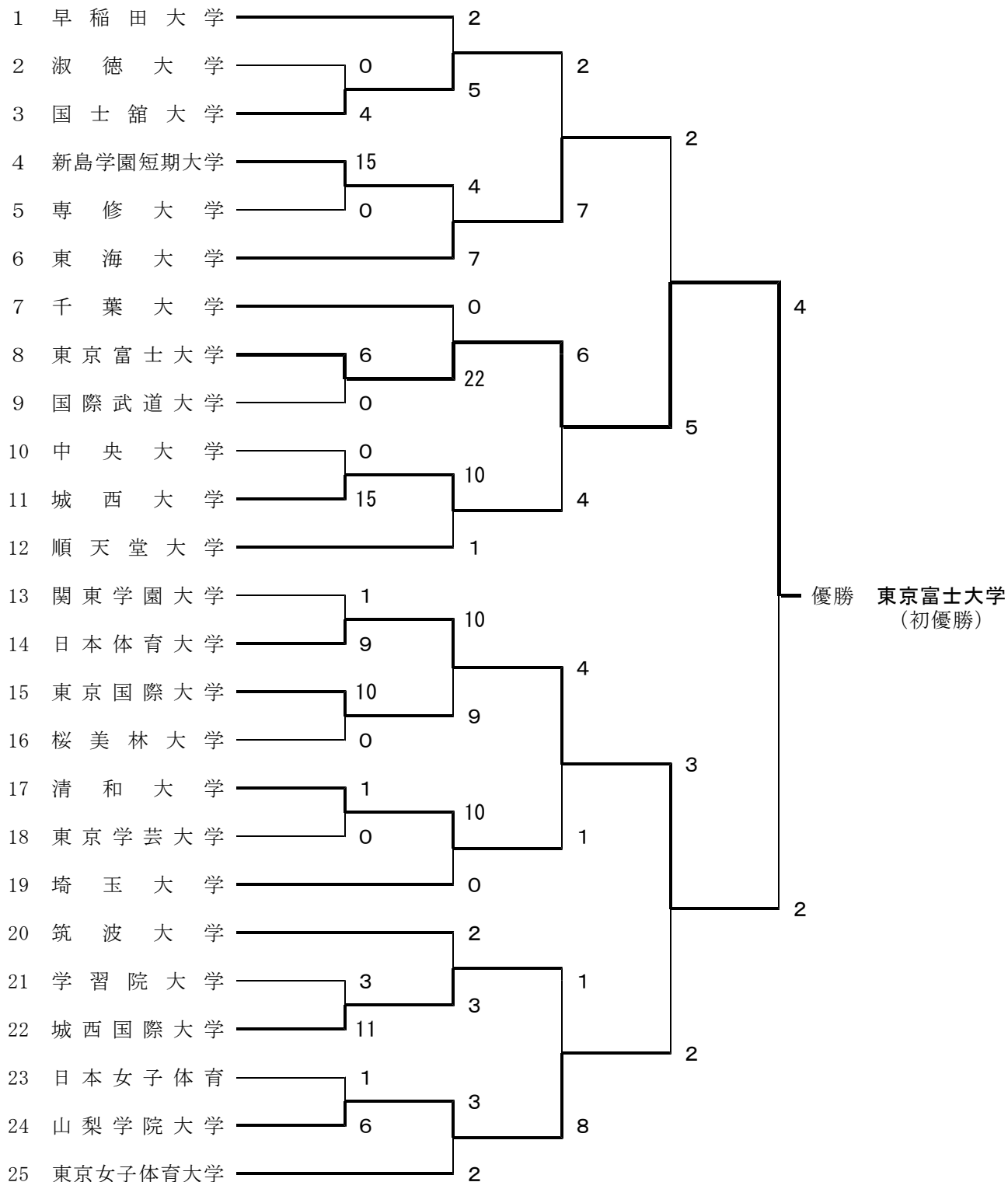
※本大会の詳細については、ソフトボールマガジン2014年2月号No.450 P.62~65を参照ください。

第44回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

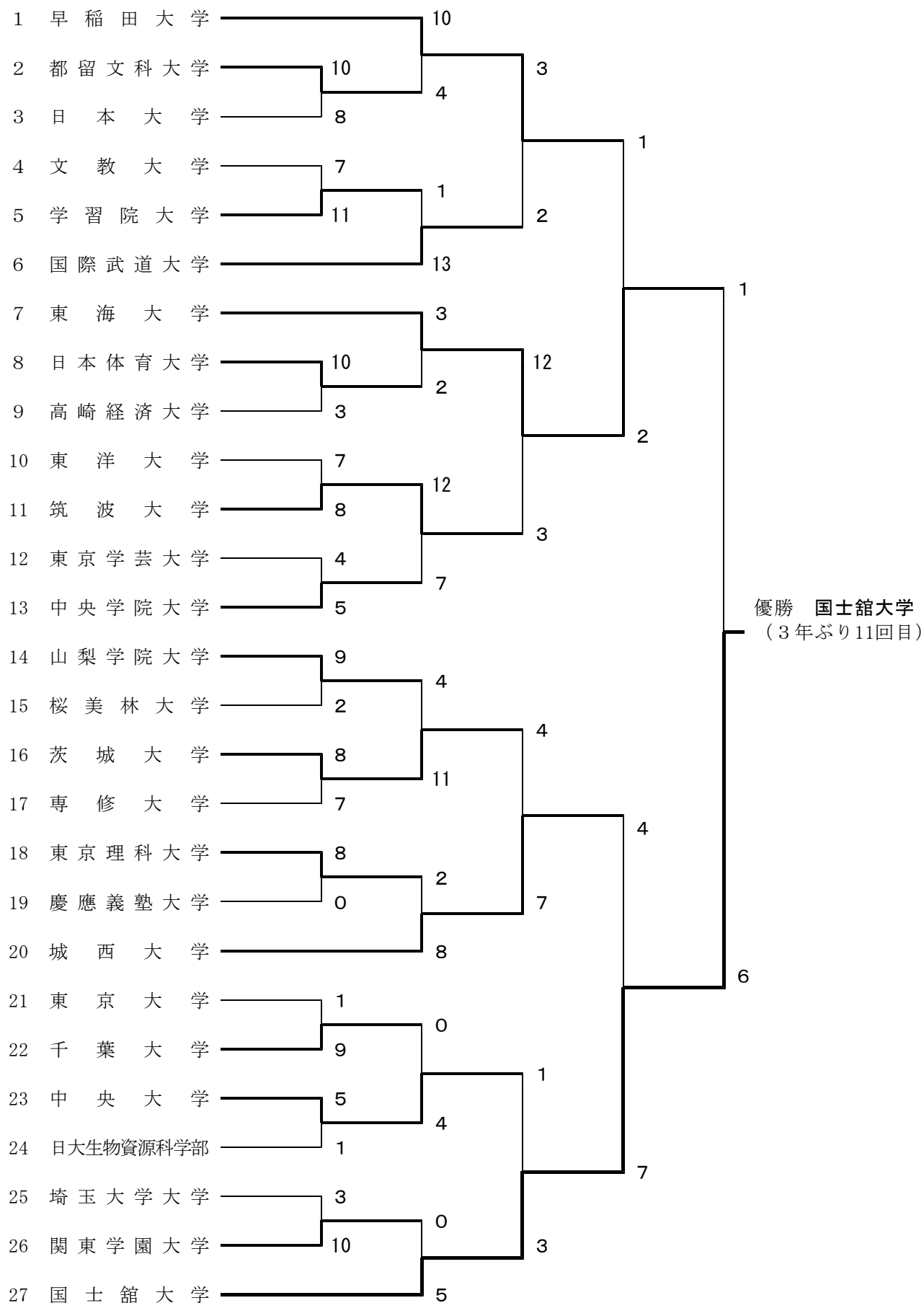
会期：平成25年10月26日(土)～28日(月)

会場：群馬県館林市／高根運動場(女子)・高崎市／群馬総合運動場他(男子)

【女子】



【男子】



第59回全日本総合男子選手権大会

会期：平成25年 9 月 14 日（土）～17 日（火）

会場：群馬県前橋市／前橋市民球場 他

1. 平林金属ソフトボールクラブ (岡 山) 1
2. トヨタ自動車株式会社 (愛 知) 3
3. 株 デ ン ソ ー (愛 知) 2
4. 国立印刷局小田原 (神奈川) 0
5. 三菱自動車水島 (岡 山) 10
6. ニューバッファロー (北海道) 3
7. 三菱電機熊本 (熊 本) 5
8. 福井越前クラブ (福 井) 0
9. ジェイテクト (徳 島) 1
10. 原翼ジャガーズ (埼 玉) 2
11. 中 京 大 学 (愛 知) 2
12. 福岡NSスラッガーズ (福 岡) 1
13. 甲斐ソフトボールクラブ (山 梨) 5
14. 沖縄ファーストメディカル (沖 縄) 2
15. ホンダエンジニアリング (栃 木) 2
16. ダ イ ワ ア ク ト (佐 賀) 1
17. 旭 化 成 (宮 崎) 10
18. 兵 庫 S. C (兵 庫) 3
19. ウエダバッファロー (広 島) 8
20. 神 戸 学 院 大 学 (兵 庫) 1
21. 高 崎 市 役 所 (群 馬) 7
22. 松 神 子 倶 楽 部 (愛媛) 0
23. 日 新 製 鋼 (広 島) 7
24. YAMAGATA CLUB (山 形) 0
25. 中 京 学 院 大 学 (岐 阜) 5
26. 福島ソフトボールクラブ (福 島) 2
27. 埼玉県庁クラブ (埼 玉) 3
28. 大 阪 桃 次 郎 (大 阪) 6
29. 福岡バクスターズ (福 岡) 4
30. 岐阜エコデンSC (岐 阜) 5
31. 上中産業S・B・C (和歌山) 0
32. 高知パシフィックウェーブ (高 知) 2

1 2 5 1 3 2 4 0 4 7 2 5 12 0 4 3 1 6 3 0 7 2

トヨタ自動車
甲斐クラブ
高崎市役所
大阪桃次郎

※悪天候のため、大会途中打ち切り。4チームが入賞

第65全日本総合女子選手権大会

会期：平成25年9月14日（金）～16日（月）

会場：長崎県時津町・長与町／ときつ海と緑の運動公園 他

順位	チーム名	勝	敗	引き分け	得点	失点	得失点差
1	ルネサスエレクトロニクス高崎 (群馬)	2	0	0	4	0	4
2	武庫川女子大学 (兵庫)	0	0	0	0	0	0
3	デンソー (愛知)	1	1	0	1	1	0
4	関東学園大学 (群馬)	0	1	0	0	1	-1
5	SGホールディングスグループ 佐川急便 (京都)	2	1	0	1	0	1
6	CLUB北九州 (福岡)	3	0	0	4	0	4
7	東北福祉大学 (宮城)	0	4	0	0	3	-3
8	園田学園女子大学 (兵庫)	3	0	0	4	0	4
9	サニースカイ (大分)	0	0	0	0	0	0
10	中京大学 (愛知)	4	0	0	7	0	7
11	大和電機工業株式会社 (長野)	0	3	0	0	3	-3
12	日本体育大学 (東京)	3	0	0	3	0	3
13	YKK (富山)	0	3	0	0	3	-3
14	太陽誘電 (群馬)	3	0	0	6	0	6
15	カネボウ化粧品小田原 (神奈川)	0	0	0	0	0	0
16	シオノギ製薬 (兵庫)	7	0	0	12	0	12
17	伊予銀行 (愛媛)	2	7	0	0	7	-7
18	戸田中央総合病院 (埼玉)	3	0	0	1	0	1
19	甲賀健康医療専門学校 (滋賀)	2	0	0	0	0	0
20	DANDAN (島根)	0	0	0	0	0	0
21	豊田自動織機 (愛知)	7	7	0	12	12	0
22	平林金属株式会社 (岡山)	0	1	0	0	1	-1
23	富士大学 (岩手)	0	0	0	0	0	0
24	日立マクセル (京都)	2	0	0	3	0	3
25	NECアクセステクニカ (静岡)	3	2	0	5	0	5
26	ペヤング (岡山)	2	0	0	3	0	3
27	山口医院ペーパーストエンジェルズ (長崎)	0	5	0	0	5	-5
28	日立 (神奈川)	2	3	0	4	3	1
29	大垣ミナモトソフトボールクラブ (岐阜)	4	3	0	8	4	4
30	HONDA (京都)	3	4	0	8	12	-4
31	東京国際大学 (埼玉)	1	12	0	0	12	-12
32	トヨタ自動車 (愛知)	8	0	0	12	0	12

【北海道東北地区】

平成25年度 北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：平成25年4月28日（日）・29日（月）、5月3日（金）・4日（土）

会場：岩手県雫石町／鶯宿温泉グラウンド、宮城県柴田町／阿武隈川運動場

チーム	北海道	弘 前	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日 工	勝	負	順
北 海 道		*	○ 15-13	○ 8-1	○ 3-2	○ 10-3	*	*	4	0	7
弘 前	*		○ 10-8	● 0-4	● 5-10	● 1-10	○ 8-6	○ 14-3	3	3	4
盛 岡	● 13-15	● 8-10		● 4-7	○ 6-2	*	○ 9-3	● 7-18	2	4	5
東 北	● 1-8	○ 4-0	○ 7-4		● 2-3	○ 7-1	○ 9-2	*	4	2	2
宮城教育	● 2-3	○ 10-5	● 2-6	○ 3-2		● 10-17	○ 11-5	*	3	3	3
仙 台	● 3-10	○ 10-1	*	● 1-7	○ 17-10		○ 12-3	○ 34-2	4	2	1
福 島	*	● 6-8	● 3-9	● 2-9	● 5-11	● 3-12		○ 15-9	1	5	6
日大工学	*	● 3-14	○ 18-7	*	*	● 2-34	● 9-15		1	3	8

※順位は、5試合以上したチームの勝率の高い順で決する。同率の場合は得点の多い順、それでも決しない場合は、失点の少ない順とする。それでも決しない場合は、当該チームで抽選を行う。

平成25年度 北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：平成25年5月4日（土）・5日（日）

会場：岩手県八幡平市／総合運動公園多目的運動広場

・予選リーグ戦

Aブロック	東 福	弘 前	盛 岡	順
東北福祉		○ 22-0	○ 27-0	1
弘 前	● 0-22		○ 10-3	2
盛 岡	● 0-27	● 3-10		3

Bブロック	富 士	仙 台	宮 教	順
富 士		○ 12-1	○ 14-0	1
仙 台	● 1-12		○ 9-2	2
宮城教育	● 0-14	● 2-9		3

・5～6位決定戦

盛 岡 大 19
宮城教育大 1

・3～4位決定戦

弘 前 大 4
仙 台 大 9

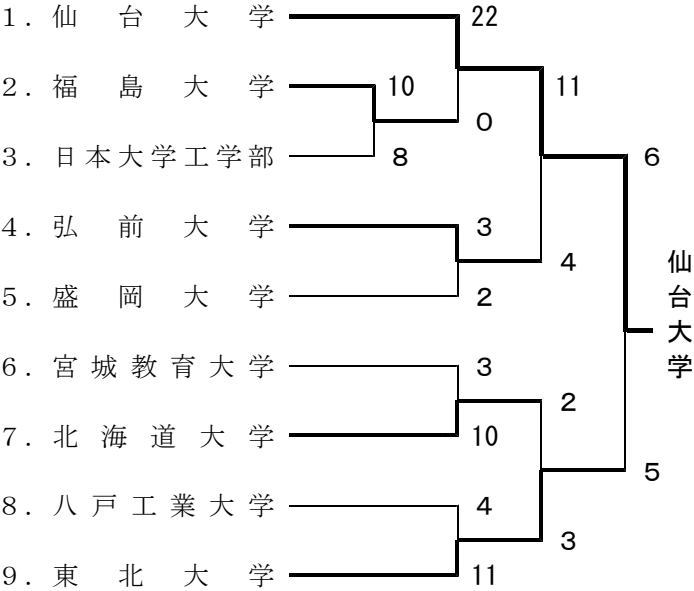
・1～2位決定戦

東北福祉大 3
富 士 大 0

第34回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第48回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

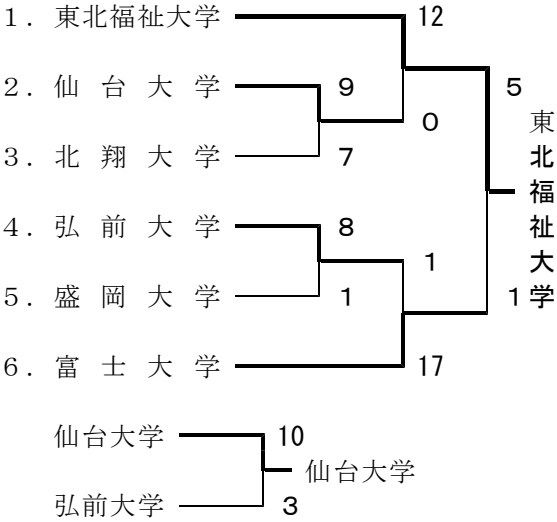
会期：平成24年 5 月18日(土)～19日(日)
会場：秋田県由利本荘市／市ソフトボール場(男子)、矢島町／多目的運動広場他(女子)

男子



男子インカレ出場は、仙台大学(8年連続27回目)と東北大学(8年ぶり5回目)

女子



女子インカレ出場は、東北福祉大学(11年連続11回目)と富士大学(4年連続9回目)

2013年度 北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成25年10月12日(土)・13日(日)、19日(土)・20日(日)
会場：岩手県八幡平市／松尾総合運動公園

【男子】
〈予選リーグ戦〉

Aブロック	仙 台	北海道	宮 教	日大工	順	Bブロック	東 北	弘 前	福 島	盛 岡	順
仙 台		●	○	○	2	東 北		●	○	●	2
		0－7	17－4	10－3				1－7	12－8	6－8	
北 海 道	○		○	○	1	弘 前	○		●	●	3
	7－0		5－2	14－5			7－1		3－7	6－14	
宮城教育	●	●		○	3	福 島	●	○		●	4
	4－17	2－5		10－4			8－12	7－3		0－10	
日大工学	●	●	●		4	盛 岡	○	○	○		1
	3－10	5－14	4－10				8－6	14－6	10－0		

※2～4位は得失点差による。

〈順位決定戦〉

1・2位決定戦	北海道大学 14－2 盛岡大学
3・4位決定戦	仙台大学 6－5 東北大学
5・6位決定戦	宮城教育大学 8－7 弘前大学
7・8位決定戦	日本大学工学部 14－12 福島大学

〈最終順位〉

優勝：北海道大学	2位：盛岡大学
3位：仙台大学	4位：東北大学
5位：宮城教育大学	6位：弘前大学
7位：日本大学工学部	8位：福島大学

【女子】

・予選リーグ戦

Aブロック	東 福	弘 前	盛 岡	順
東北福祉		○ 13－0	○ 7－0	1
弘 前	● 0－13		● 3－7	3
盛 岡	● 0－7	○ 7－3		2

Bブロック	富 士	仙 台	宮 教	順
富 士		○ 11－0	○ 7－0	1
仙 台	● 0－11		○ 13－1	2
宮城教育	● 0－7	● 1－13		3

・5～6位決定戦

弘前大学	5
宮城教育大学	11

・3～4位決定戦

盛岡大学	2
仙台大学	6

・1～2位決定戦

東北福祉大学	2
富士大学	1

【関東地区】 第8回 関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成25年5月4日(土)～6日(月)・11日(土)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

I部リーグ

チーム	国際武道	城 西	高崎経済	東 海	千 葉	関東学園	勝	分	敗	順 位
国際武道		○ 11－5	○ 15－2	● 1－2	○ 13－6	○ 5－1	4	0	1	優勝
城 西	● 5－11		○ 6－2	○ 3－0	○ 10－1	○ 11－3	4	0	1	2位
高崎経済	● 2－15	● 2－6		○ 6－3	● 3－10	● 3－5	1	0	4	6位
東 海	○ 2－1	● 0－3	● 3－6		○ 6－5	○ 6－0	3	0	2	3位
千 葉	● 6－13	● 1－10	○ 10－3	● 5－6		● 1－9	1	0	4	5位
関東学園	● 1－5	● 3－11	○ 5－3	● 0－6	○ 9－1		2	0	3	4位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	茨城	都留文科	中央学院	東京理科	文教	山梨学院	勝	分	敗	順位
茨城		○5-4	○11-10	△4-4	○8-3	●11-17	3	1	1	2位
都留文科	●4-5		○11-7	●2-3	●4-5	○16-7	2	0	3	4位
中央学院	●10-11	●7-11		○4-1	○12-7	●3-9	2	0	3	5位
東京理科	△4-4	○3-2	●1-4		○14-2	○8-3	3	1	1	1位
文教	●3-8	○5-4	●7-12	●2-14		△5-5	1	1	3	6位
山梨学院	○17-11	●7-16	○9-3	●3-8	△5-5		2	1	2	3位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	東京国際	埼玉	日大生産	日大生資	筑波	勝	分	敗	順位
東京国際		○7-0	○10-3	○20-6	●12-16	3	0	1	1位
埼玉	●0-7		○13-9	●3-10	○10-2	2	0	2	3位
日大生産	●3-10	●9-13		●0-15	●11-21	0	0	4	5位
日大生資	●6-20	○10-3	○15-0		○29-13	3	0	1	2位
筑波	○16-12	●2-10	○21-11	●13-29		2	0	2	4位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 高崎経済大学(Ⅰ部6位) 0-7 東京理科大学(Ⅱ部1位) ※理科大はⅠ部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 文教大学(Ⅱ部6位) 3-16 東京国際大学(Ⅲ部1位) ※国際大はⅡ部昇格

第8回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成25年5月4日(土)～6日(月)・11日(土)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

Ⅰ部リーグ

チーム	山梨学院	東京国際	城西	淑徳	清和	関東学園	勝	分	敗	順位
山梨学院		●1-2	△5-5	○17-1	○17-1	○5-2	3	1	1	2位
東京国際	○2-1		○2-0	○3-1	○4-0	○7-0	5	0	0	優勝
城西	△5-5	●0-2		○4-1	○10-3	○13-2	3	1	1	3位
淑徳	●1-17	●1-3	●1-4		○7-3	●3-6	1	0	4	5位
清和	●1-17	●0-4	●3-10	●3-7		●4-7	0	0	5	6位
関東学園	●2-5	●0-7	●2-13	○6-3	○7-4		2	0	3	4位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	東 海	国際武道	新島学園	筑 波	順 天 堂	城西国際	勝	分	敗	順 位
東 海		○10－3	○14－0	○11－0	○19－0	○7－2	5	0	0	1位
国際武道	●3－10		●4－9	○8－1	○23－2	△7－7	2	1	2	4位
新島学園	●0－14	○9－4		○9－2	○23－0	●4－8	3	0	2	2位
筑 波	●0－11	●1－8	●2－9		△9－9	○9－6	1	1	3	5位
順 天 堂	●0－19	●2－23	●0－23	△9－9		●1－22	0	1	4	6位
城西国際	●2－7	△7－7	○8－4	●6－9	○22－1		2	1	2	3位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	文 教	茨 城	日大生資	千 葉	勝	分	敗	順 位
文 教		○10－1	○25－0	○4－3	3	0	0	1位
茨 城	●1－10		○18－10	●4－9	1	0	2	3位
日大生資	●0－25	●10－18		●3－13	0	0	3	4位
千 葉	●3－4	○9－4	○13－3		2	1	0	2位

I部Ⅱ部入替戦 清和大学(I部6位) 0－7 東海大学(Ⅱ部1位) ※東海大学はI部昇格

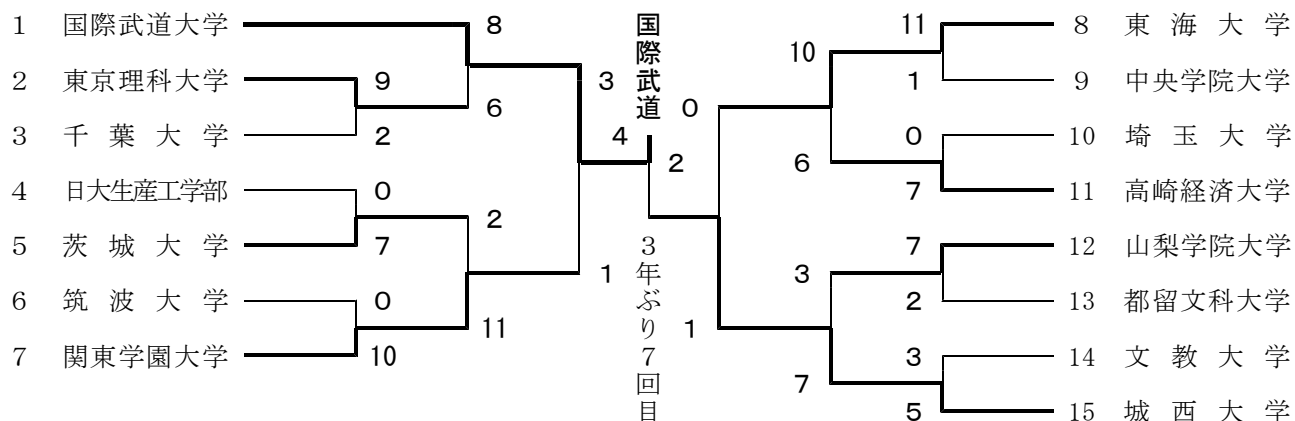
Ⅱ部Ⅲ部入替戦 順天堂大学(Ⅱ部6位) 1－11 文教大学(Ⅲ部1位) ※文教大学はⅡ部昇格

第21回関東学生ソフトボール選手権大会 兼 第48回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成25年5月25日(土)、26日(日)

会場：茨城県桜川市／真壁運動場(男子)、古河市／上大野グラウンド(女子)

男子の部



Ⅱ部リーグ

チーム	高崎経済	茨 城	山梨学院	都留文科	中央学院	東京国際	勝	分	敗	順 位
高崎経済		○ 9 - 4	○ 11 - 3	△ 6 - 6	○ 2 - 1	○ 15 - 0	4	1	0	準優勝
茨 城	● 4 - 9		△ 10 - 10	● 1 - 15	○ 5 - 1	○ 8 - 7	2	1	2	3 位
山梨学院	● 3 - 11	△ 10 - 10		● 4 - 12	● 5 - 6	● 3 - 6	0	1	4	6 位
都留文科	△ 6 - 6	○ 15 - 1	○ 12 - 4		○ 7 - 0	○ 14 - 5	4	1	0	優勝
中央学院	● 1 - 2	● 1 - 5	○ 6 - 5	● 0 - 7		● 4 - 12	1	0	4	5 位
東京国際	● 0 - 15	● 7 - 8	○ 6 - 3	● 5 - 14	○ 12 - 4		2	0	3	4 位

※ 1 ～ 2 位大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	文 教	日大生資	埼 玉	筑 波	日大生産	勝	分	敗	順 位
文 教		△ 8 - 8	● 11 - 12	○ 9 - 8	○ 9 - 2	2	1	1	3 位
日大生資	△ 8 - 8		○ 14 - 9	● 3 - 5	○ 19 - 5	2	1	1	2 位
埼 玉	○ 12 - 11	● 9 - 14		○ 12 - 5	○ 20 - 17	3	0	1	1 位
筑 波	● 8 - 9	○ 5 - 3	● 5 - 12		○ 18 - 15	2	0	2	4 位
日大生産	● 2 - 9	● 5 - 19	● 17 - 20	● 15 - 18		0	0	5	5 位

※ 2 ～ 3 位は大会規約により順位を決定。

入替戦 11月10日(日) 高崎経済大学グラウンド

I部～II部 千葉大学(I部6位) 3 - 4 都留文科大学(II部1位) ※都留文科大学はI部昇格

II部～III部 山梨学院大学(II部6位) 8 - 3 埼玉大学(III部1位) ※山梨学院大学はII部残留

第13回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成25年10月12日(土)～14日(月)・13日(土)・14(日)

会場：毛呂山町／大類ソフトボールパーク 他

I部リーグ

チーム	東京国際	山梨学院	城 西	関東学園	淑 徳	東 海	勝	分	敗	順 位
東京国際		○ 6 - 0	△ 2 - 2	○ 1 - 0	○ 1 - 0	○ 9 - 2	4	1	0	2 位
山梨学院	● 0 - 6		● 0 - 2	● 3 - 5	○ 5 - 3	○ 9 - 0	2	0	3	4 位
城 西	△ 2 - 2	○ 2 - 0		○ 3 - 2	○ 6 - 0	○ 9 - 1	4	1	0	優勝
関東学園	● 0 - 1	○ 5 - 3	● 2 - 3		○ 8 - 0	△ 0 - 0	2	1	2	3 位
東京国際	● 0 - 1	● 3 - 5	● 0 - 6	● 0 - 8		○ 3 - 2	1	0	4	5 位
東 海	● 2 - 9	● 0 - 9	● 1 - 9	△ 0 - 0	● 2 - 3		0	1	4	6 位

※ 1 位と 2 位の順位は大会規定により順位を決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	清 和	新島学園	城西国際	国際武道	筑 波	順 天 堂	勝	分	敗	順 位
清 和		○ 7 - 1	○ 4 - 0	● 1 - 2	○ 9 - 0	○ 12 - 0	4	0	1	1 位
新島学園	● 1 - 7		○ 7 - 2	○ 5 - 3	○ 13 - 1	○ 9 - 1	4	0	1	3 位
城西国際	● 0 - 4	● 2 - 7		● 1 - 2	○ 13 - 0	○ 19 - 1	2	0	3	4 位
国際武道	○ 2 - 1	● 3 - 5	○ 2 - 1		○ 12 - 8	○ 9 - 0	4	0	1	2 位
筑 波	● 0 - 9	● 1 - 13	● 0 - 13	● 8 - 12		○ 7 - 6	1	0	4	5 位
順 天 堂	● 0 - 12	● 1 - 9	● 1 - 19	● 0 - 9	● 6 - 7		0	0	5	6 位

※ 1 位～ 3 位の順位は大会規定により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	文 教	千 葉	茨 城	日大生物	埼 玉	勝	分	敗	順 位
文 教		○ 6 - 4	○ 7 - 0	○ 27 - 0	○ 13 - 0	4	0	0	1 位
千 葉	● 4 - 6		○ 10 - 3	○ 10 - 3	○ 6 - 0	3	0	1	2 位
茨 城	● 0 - 7	● 3 - 10		△ 15 - 15	● 6 - 28	0	1	3	5 位
日大生物	● 0 - 27	● 3 - 10	△ 15 - 15		● 6 - 9	0	1	3	4 位
埼 玉	● 0 - 13	● 0 - 6	○ 28 - 6	○ 9 - 6		2	0	2	3 位

※ 4 位～ 5 位の順位は大会規定により順位を決定。

I 部Ⅱ部入替戦 東海大学(I部6位) 5 - 2 清和大学(Ⅱ部1位) ※東海大学はI部残留
Ⅱ部Ⅲ部入替戦 順天堂大学(Ⅱ部6位) 3 - 17 文教大学(Ⅲ部1位) ※文教大学はⅡ部昇格

【北信越地区】

第19回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
(兼、文部科学大臣杯第48回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：平成25年5月18日(土)・19日(日)

会 場：石川県白山市／サン・スポーツランドグラウンド(男子)

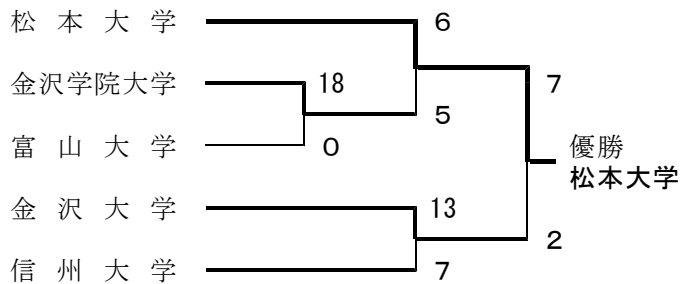
石川県野々市市／野々市健康広場(女子)

【男子】

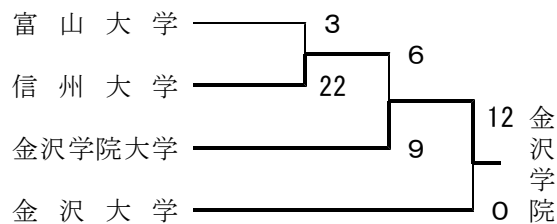
		優勝			
		福井県立大学			
金 沢 大 学	0	2		福井県立大学	
福 井 大 学	0	11	10		
信 州 大 学	9	9	8	富 山 大 学	

※大学選手権大会出場権獲得校：信州大学(3年連続9回目)

【女子】



第2代表決定戦



※大学選手権大会出場権獲得校：松本大学（7年連続7回目）、金沢学院大学（3年連続3回目）

第20回 北信越大学新人ソフトボール選手権大会

会期：平成25年9月14日（土）・15日（日）

会場：長野県上田市／古戦場公園多目的グラウンド（男子）、真田運動公園グラウンド（女子）

男子

チーム	富山	福井県立	信州	金沢	勝点	失点	得失点	順位
富山		○9-8	○12-5	○13-8	6	21	13	優勝
福井県立	●8-9		○7-6	●4-11	2	26	-7	第三位
信州	●5-12	●6-7		○16-3	2	22	6	準優勝
金沢	●8-13	○11-4	●3-16		2	33	-11	

女子

チーム	金沢	松本	信州	金沢学院	勝点	失点	得失点	順位
金沢		●0-7	●1-9	●1-8	0	24	-22	
松本	○7-0		○26-0	●4-5	4	5	32	準優勝
信州	○9-1	●0-26		●0-7	2	34	-25	第三位
金沢学院	○8-1	○5-4	○7-0		6	5	15	優勝



【東京地区】

平成25年度 第45回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

チーム	日本体育	早稲田	国士舘	中央	学習院	東京学芸	勝	分	敗	順位
日本体育		●0-10	●0-5	●10-11	○18-2	○9-4	2	0	3	4位
早稲田	○10-0		○6-4	○9-2	○11-4	○11-0	5	0	0	優勝
国士舘	○5-0	●4-6		●0-1	○12-0	○12-2	3	0	2	3位
中央	○11-10	●2-9	○1-0		○13-9	○7-1	4	0	1	2位
学習院	●2-18	●4-11	●0-12	●9-13		○12-9	1	0	4	5位
東京学芸	●4-9	●0-11	●2-12	●1-7	●9-12		0	0	5	6位

男子2部

チーム	慶應義塾	明治	桜美林	専修	立教	東京都市	勝	分	敗	順位
慶應義塾		●0-7	○15-3	○13-2	○7-6	○6-2	4	0	1	優勝
明治	○7-0		○5-4	●10-11	○15-9	●14-17	3	0	2	3位
桜美林	●3-15	●4-5		●6-11	○12-2	○8-6	2	0	3	4位
専修	●2-13	○11-10	○11-6		○3-2	○18-12	4	0	1	2位
立教	●6-7	●9-15	●2-12	●2-3		○6-2	1	0	4	5位
東京都市	●2-6	○17-14	●6-8	●12-18	●2-6		1	0	4	6位

※1位と2位、5位と6位は直接対決の勝敗による。

男子3部 Aセクション

チーム	成蹊	東洋	文教湘南	東京	東京農業	勝	分	敗	順位
成蹊		●3-8	○14-4	○14-6	○10-0	3	0	1	2位
東洋	○8-3		○10-3	○11-1	○11-3	4	0	0	1位
文教湘南	●4-14	●3-10		●3-13	●8-11	0	0	4	5位
東京	●6-14	●1-11	○13-3		○16-1	2	0	2	3位
東京農業	●0-10	●3-11	○11-8	●1-16		1	0	3	4位

男子3部 Bセクション

チーム	明星	日本	帝京	国際基督	勝	分	敗	順位
明星		● 9-11	○ 16-6	○ 31-4	2	0	1	2位
日本	○ 11-9		● 9-10	○ 11-1	2	0	1	1位
帝京	● 6-16	○ 10-9		○ 19-13	2	0	1	3位
国際基督	● 4-31	● 1-11	● 13-19		0	0	3	4位

※1位～3位は失点率による。

男子3部 ABセクション優勝決定戦 日本大学 14-11 東洋大学

男子入れ替え戦

1部-2部

東京学芸大学(6位) 5-2 慶應義塾大学(1位)

※東京学芸大学は1部残留

2部-3部

東京都市大学(6位) 6-0 日本大学(1位)

※東京都市大学は2部残留

女子1部

チーム	日本体育	早稲田	東京女体	国士舘	東京学芸	東京富士	勝	分	敗	順位
日本体育		○ 6-4	● 3-4	○ 7-0	○ 8-1	● 0-3	3	0	2	3位
早稲田	● 4-6		○ 6-0	○ 4-0	○ 6-0	● 1-2	3	0	2	4位
東京女体	○ 4-3	● 0-6		○ 8-1	○ 7-4	○ 17-2	4	0	1	優勝
国士舘	● 0-7	● 0-4	● 1-8		○ 8-1	● 7-8	1	0	4	5位
東京学芸	● 1-8	● 0-6	● 4-7	● 1-8		● 1-14	0	0	5	6位
東京富士	○ 3-0	○ 2-1	● 2-17	○ 8-7	○ 14-1		4	0	1	2位

※1位と2位、3位と4位は直接対決の勝敗による。

女子2部

チーム	日本女体	慶応義塾	中央	桜美林	東洋	学習院	勝	分	敗	順位
日本女体		○ 12-2	○ 11-0	○ 8-0	○ 13-1	○ 10-2	5	0	0	1位
慶応義塾	● 2-12		● 2-6	△ 2-2	○ 9-2	● 5-9	1	1	3	5位
中央	● 0-11	○ 6-2		○ 8-5	○ 9-2	○ 16-10	4	0	1	2位
桜美林	● 0-8	△ 2-2	● 5-8		○ 7-0	○ 5-4	2	1	2	3位
東洋	● 1-13	● 2-9	● 2-9	● 0-7		● 1-11	0	0	5	6位
学習院	● 2-10	○ 9-5	● 10-16	● 4-5	○ 11-1		2	0	3	4位

女子 3 部

チーム	専 修	文教湘南	明 治	成 蹊	日 本	実践女子	勝	分	敗	順 位
専 修		○ 8 - 0	○ 3 - 2	○ 9 - 2	○ 26 - 0	○ 12 - 2	5	0	0	1 位
文教湘南	● 0 - 8		● 3 - 9	○ 6 - 1	○ 9 - 5	○ 8 - 0	3	0	2	3 位
明 治	● 2 - 3	○ 9 - 3		○ 18 - 4	○ 15 - 1	○ 7 - 0	4	0	1	2 位
成 蹊	● 2 - 9	● 1 - 6	● 4 - 18		● 7 - 14	● 5 - 10	0	0	5	6 位
日 本	● 0 - 26	● 5 - 9	● 1 - 15	○ 14 - 7		○ 7 - 0	2	0	3	4 位
実践女子	● 2 - 12	● 0 - 8	● 0 - 7	○ 10 - 5	● 0 - 7		1	0	4	5 位

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部

2 部 - 3 部

東京学芸大学（6 位） 1 - 4 日本女子体育大学（1 位） 東洋大学（6 位） 1 - 8 専修大学（1 位）

※日本女子体育大学は 1 部昇格

※専修大学は 2 部昇格

東京学芸大学は 2 部降格

東洋大学は 3 部降格

全日本大学選手権大会東京都第 2 次予選

男子

1. 日本体育大学	10	17	日体大
2. 専 修 大 学	0		
3. 慶應義塾大学	9		
4. 明 治 大 学	4	1	
5. 学 習 院 大 学	11	20	学習院大
6. 桜美林大学	2		
7. 東京学芸大学	7		
8. 日 本 大 学	0	19	

女子

1. 国 士 館 大 学	15	7	国士館大
2. 専 修 大 学	0		
3. 中 央 大 学	9		
4. 慶應義塾大学	5	0	
5. 東京学芸大学	10	2	日女体大
6. 桜美林大学	0		
7. 日 女 体 大 学	13		
8. 学 習 院 大 学	1	7	

第48回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：早稲田大学、中央大学、国士館大学、日本体育大学、学習院大学

女子：東京女子体育大学、東京富士大学、日本体育大学、早稲田大学、国士館大学、日女体大学

平成25年度第45回 東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子 1 部

チーム	早 稲 田	中 央	国 士 館	日本体育	学 習 院	東京学芸	勝	分	敗	順 位
早 稲 田		● 2 - 6	● 5 - 8	● 4 - 5	○ 8 - 2	○ 10 - 7	2	0	3	4 位
中 央	○ 6 - 2		○ 3 - 2	● 4 - 5	○ 5 - 2	○ 12 - 5	4	0	1	2 位
国 士 館	○ 8 - 5	● 2 - 3		● 1 - 4	○ 5 - 1	○ 10 - 0	3	0	2	3 位
日本体育	○ 5 - 4	○ 5 - 4	○ 4 - 1		○ 11 - 1	○ 5 - 1	5	0	0	優勝
学 習 院	● 2 - 8	● 2 - 5	● 1 - 5	● 1 - 11		○ 13 - 9	1	0	4	5 位
東京学芸	● 7 - 10	● 5 - 12	● 0 - 10	● 1 - 5	● 9 - 13		0	0	5	6 位

男子2部

チーム	慶應義塾	専修	明治	桜美林	立教	東京都市	勝	分	敗	順位
慶應義塾		●12-13	●5-8	○10-3	○4-0	○4-3	3	0	2	2位
専修	○13-12		●1-12	○13-5	○18-7	●6-7	3	0	2	4位
明治	○8-5	○12-1		●6-15	○11-2	○12-5	4	0	1	1位
桜美林	●3-10	●5-13	○15-6		○9-1	●4-9	2	0	3	5位
立教	●0-4	●7-18	●2-11	●1-9		●7-9	0	0	5	6位
東京都市	●3-4	○7-6	●5-12	○9-4	○9-7		3	0	2	3位

※2位～4位は失点率による

男子3部 Aセクション

チーム	日本	成蹊	帝京	東京農業	文教湘南	勝	分	敗	順位
日本		○13-1	○9-5	○19-5	○9-0	4	0	0	1位
成蹊	●1-13		●5-6	○10-1	○11-10	2	0	2	3位
帝京	●5-9	○6-5		○14-4	○10-3	3	0	1	2位
東京農業	●5-19	●1-10	●4-14		●5-14	0	0	4	5位
文教湘南	●0-9	●10-11	●3-10	○14-5		1	0	3	4位

男子3部 Bセクション

チーム	東洋	明星	東京	国際基督	勝	分	敗	順位
東洋		○11-3	●11-12	○15-3	2	0	1	1位
明星	●3-13		○7-6	○24-13	2	0	1	3位
東京	○12-11	●6-7		○7-4	2	0	1	2位
国際基督	●3-15	●13-24	●4-7		0	0	3	4位

※1位～3位は失点率による

男子3部ABセクション優勝決定戦 日本大学 13-1 東洋大学

男子入れ替え戦

1部-2部

東京学芸大学(6位) 5-2 明治大学(1位)

※東京学芸は1部残留

2部-3部

立教大学(6位) 1-7 日本大学(1位)

※日本大学は2部昇格、立教大学は3部降格



女子 1 部

チーム	東京女体	東京富士	日本体育	早稲田	国士舘	日本女体	勝	分	敗	順位
東京女体		○5-4	○7-2	●4-5	○9-6	○3-2	4	0	1	優勝
東京富士	●4-5		●3-6	●0-2	●2-8	○7-0	1	0	4	5位
日本体育	●2-7	○6-3		○4-3	●0-7	○5-1	3	0	2	3位
早稲田	○5-4	○2-0	●3-4		●0-1	○6-1	3	0	2	4位
国士舘	●6-9	○8-2	○7-0	○1-0		○5-0	4	0	1	2位
日本女体	●2-3	●0-7	●1-5	●1-6	●0-5		0	0	5	6位

※1位と2位、3位と4位は直接対決の勝敗による。

女子 2 部

チーム	東京学芸	中央	桜美林	学習院	慶應義塾	専修	勝	分	敗	順位
東京学芸		○6-4	●0-2	○5-2	○6-5	●1-5	3	0	2	3位
中央	●4-6		△2-2	●5-6	○3-0	●1-7	1	1	3	5位
桜美林	○2-0	△2-2		△1-1	○11-3	△0-0	2	3	0	2位
学習院	●2-5	○6-5	△1-1		●9-10	○7-2	2	1	2	4位
慶應義塾	●5-6	●0-3	●3-11	○10-9		●4-8	1	0	4	6位
専修	○5-1	○7-1	△0-0	●2-7	○8-4		3	1	1	1位

女子 3 部

チーム	東洋	明治	文教湘南	日本	実践女子	成蹊	勝	分	敗	順位
東洋		●7-10	○11-4	○13-2	○10-0	●1-11	3	0	2	3位
明治	○10-7		○11-1	●4-8	○13-3	●4-6	3	0	2	2位
文教湘南	●4-11	●1-11		●1-13	○9-7	○10-9	2	0	3	5位
日本	●2-13	○8-4	○13-1		●10-11	●10-11	2	0	3	4位
実践女子	●0-10	●3-13	●7-9	○11-10		●2-9	1	0	4	6位
成蹊	○11-1	○6-4	●9-10	○11-10	○9-2		4	0	1	1位

※2位と3位、4位と5位は直接対決の勝敗による。

女子入れ替え戦

1部-2部

日本女子体育大学(6位) 9-0 専修大学(1位)

※日本女子体育大学は1部残留

2部-3部

慶應義塾大学(6位) 22-6 成蹊大学(1位)

※慶應義塾大学は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯平成24年度春季第72回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第48回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第45回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：平成25年4月20・27日、5月6・12日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場・双葉グラウンド

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	愛 知	愛知学院	南 山	常 葉	勝	敗	失点率	順
中 京		○ 1 - 0	○ 9 - 2	○ 10 - 0	○ 7 - 0	○ 10 - 0	5	0	0.40	1
中京学院	● 0 - 1		○ 10 - 1	○ 9 - 2	○ 11 - 4	○ 16 - 6	4	1	2.80	2
愛 知	● 2 - 9	● 1 - 10		○ 15 - 4	○ 17 - 7	○ 5 - 3	3	2	7.53	3
愛知学院	● 0 - 10	● 2 - 9	● 4 - 15		○ 16 - 15	● 2 - 11	1	4	17.03	5
南 山	● 0 - 7	● 4 - 11	● 7 - 17	● 15 - 16		● 13 - 8	0	5	17.92	6
常 葉	● 0 - 10	● 6 - 16	● 3 - 5	○ 11 - 2	○ 13 - 8		2	3	10.13	4

二部リーグ戦

チーム	岐阜聖徳	名 古 屋	名 城	静 岡	日本福祉	愛知教育	勝	敗	失点率	順
岐阜聖徳		○ 12 - 6	○ 8 - 3	○ 14 - 0	○ 8 - 1	○ 9 - 0	5	0	2.06	1
名 古 屋	● 6 - 12		○ 9 - 2	○ 13 - 0	○ 20 - 1	○ 8 - 6	4	1	4.32	2
名 城	● 3 - 8	● 2 - 9		△ 16 - 16	○ 14 - 8	● 5 - 9	1	1	12.07	5
静 岡	● 0 - 14	● 0 - 13	△ 16 - 16		● 8 - 11	● 1 - 12	0	1	17.11	6
日本福祉	● 1 - 8	● 1 - 20	● 8 - 14	○ 11 - 8		○ 9 - 2	2	3	13.48	4
愛知教育	● 0 - 9	● 6 - 8	○ 9 - 5	○ 12 - 1	● 2 - 9		2	3	7.55	3

※3～4位はリーグ戦規定の失点率による。

三部リーグ戦

チーム	中 部	名古屋商	東海学園	中 部	名古屋商	東海学園	勝	敗	失点率	順
中 部		○ 10 - 3	○ 12 - 5		○ 15 - 0	● 1 - 8	3	1	—	1
名古屋商	● 3 - 10		○ 9 - 4	● 0 - 15		○ 16 - 0	2	2	—	2
東海学園	● 5 - 12	● 4 - 9		○ 8 - 1	● 0 - 16		1	3	—	3

一部×二部入れ替え戦

愛知学院大学(5位)11-10名古屋大学(2位)

※愛知学院大学・名古屋大学ともに原部残留

南山大学(6位)1-11岐阜聖徳学園大学(1位)

※南山大学は二部降格、岐阜聖徳学園大学は一部昇格

二部×三部入れ替え戦

静岡大学(6位)1-7 中部大学(1位)

※静岡大学は三部降格、中部大学は二部昇格

代表

第10回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第48回インカレ最終予選)：

中京大・中京学院大・愛知大・愛知学院大・
常葉大・岐阜聖徳学園大・名古屋大・南山大
第45回西日本大学ソフトボール選手権大会：
中京大・中京学院大・愛知大・愛知学院大・
常葉大・岐阜聖徳学園大

個人表彰選手

最優秀選手賞：鈴木 友也(中京大学)

一部首位打者賞：田中 奏汰(愛知大学)

記録5割8分3厘

一部打点賞：深津 悠平(中京大学)

川上 貴寛(愛知大学)

記録8

本塁打点賞：鈴木 友也(中京大学)

記録3

盗塁賞：山口 恭平(中京大学)

記録6

一部最優秀防御率賞：深津 悠平(中京大学)

記録0.56

二部優秀選手賞：鈴木 達也(岐阜聖徳大)

二部首位打者賞：吉田 賢嗣(岐阜聖徳大)

記録6割4分2厘

二部最優秀防御率賞：衣斐 恒太(岐阜聖徳大)

記録2.91

三部優秀選手賞：小竹 景介(中部大学)

三部首位打者賞：小竹 景介(中部大学)

記録7割7分8厘

三部最優秀防御率賞：長尾 希望(愛知教育大学)

柳生 豪士(中部大学)

記録4.12

ベストスコアラー賞：該当者なし

ベスト放送員賞：長谷川勇介(愛知大学)

ベストナイン

投手 深津 悠平(中京大学 4年)

捕手 園田 智幸(中京学院大学4年)

一塁手：梅村 俊輔(愛知学院大学2年)

二塁手：田中 奏汰(愛知大学 2年)

三塁手：藤原 雄歩(中京学院大学2年)

遊撃手：芝 大紀(中京学院大学4年)

外野手：平岩 裕基(中京大学 3年)

外野手：江崎 良(中京学院大学4年)

外野手：田村 謙明(南山大学 3年)

D P F P：富田 貴生(中京大学 4年)

講評 今季のリーグ戦は、会場確保の関係から4月20日にスタートし5月12日まで(一日雨のため順延)という4週間にもわたる長丁場のリーグ戦となった。役員、審判および関係各位には相当なご負担をおかけした大会となった。特に、会場をご提供いただいた刈谷市連盟につきましては、雨中のフェンスの移動と設置など大変お世話になりました。同連盟をはじめとする関係各位に対しこの場を借りして深謝いたします。

さて、一部リーグ戦は秋季リーグ戦同様、昨年インカレ3位の中京大学と一昨年インカレ優勝校中京学院大学が最終日での全勝対決の決戦となった。結果は、1回表の1得点をエース深津が危なげなく守りきり、中京大学が1対0で勝利し、2季連続42回目のリーグチャンピオンに輝いた。両チームはこの試合以外の4試合をいずれも点差コード勝ちを収めており、この2チームの投手力を中心とする総合力が他の4チームを圧倒していた。特に、対南山大学戦の深津投手は、15連続奪三振の記録を樹立し、コールドゲームのアウトがすべて三振という大記録を達成した。

いつも混戦の二部も岐阜聖徳学園大学と名古屋大学が最終日の全勝対決となったが、岐阜聖徳学園大学の総合力わずかに勝って優勝となった。三部は中部大学が全勝できなかったものの優勝し、ともに入れ替え戦にも勝利して上部への昇格を果たした。(東海学連事務局長 水谷 博)

東海テレビ杯 平成25年度春季第61回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦
 ー兼、第48回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー
 ー兼、第45回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成25年4月14・27・28・29日、5月3・4・5日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園

一部リーグ戦結果

チーム	鈴鹿国際	中 京	東海学園	日本福祉	至 学 館	東海学院	勝分敗	失点率	順
鈴鹿国際		● 0－5 ● 0－6	● 3－5 ● 2－4	○ 9－0 ○ 7－5	△ 4－4 ○ 4－0	○ 8－1 ○ 8－7	5 1 4	3.65	3位
中 京	○ 5－0 ○ 6－0		○ 9－0 ● 6－7	○ 1－0 ○ 8－0	○ 7－0 ○ 12－0	○ 10－0 ○ 8－1	9 0 1	0.90	優勝
東海学園	○ 5－3 ○ 4－2	● 0－9 ○ 7－6		○ 4－2 ○ 5－1	○ 10－0 ○ 7－0	○ 6－0 ○ 11－0	9 0 1	2.40	2位
日本福祉	● 0－9 ● 5－7	● 0－1 ● 0－8	● 2－4 ● 1－5		○ 6－0 ○ 3－1	○ 6－4 ○ 8－1	4 0 6	4.38	4位
至 学 館	△ 4－4 ● 0－4	● 0－7 ● 0－12	● 0－10 ● 0－7	● 0－6 ● 1－3		△ 7－7 △ 6－6	0 3 7	8.63	5位
東海学院	● 1－8 ● 7－8	● 0－10 ● 1－8	● 0－6 ● 0－11	● 4－6 ● 1－8	△ 7－7 △ 6－6		0 2 8	9.87	6位

※1～2位はリーグ戦規定の失点率による。

二部リーグ戦結果

チーム	中京学院	愛知教育	岐阜聖徳	静 岡	岐阜経済	常葉学園	名 古 屋	勝敗	順
中京学院		△ 5－5	○ 10－3	○ 8－1	● 2－12	*	*	3-1	2
愛知教育	△ 5－5		● 2－6	○ 10－3	*	*	○ 15－0	2-2	5
岐阜聖徳	● 3－10	○ 6－2		○ 7－0	*	● 5－6	*	0-3	4
静 岡	● 1－8	● 3－10	● 0－7		*	*	*	1-3	7
岐阜経済	○ 12－2	*	*	*		○ 3－1	○ 10－0	3-0	1
常葉学園	*	*	○ 6－5	*	● 1－3		○ 10－0	2-1	3
名 古 屋	*	● 0－15	*	*	● 0－10	● 0－10		1-2	6

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一部×二部入れ替え戦

代表

至学館大学(5位)6－4中京学院大学(2位)

第10回東海地域大学選手権大会(第48回インカレ最終予選)：

※至学館大学一部残留、中京学院大二部残留

東海学院大学(6位)5－9岐阜経済大学(1位)

中京大学・東海学園大学・鈴鹿国際大学・

※東海学院大二部降格、岐阜経済大学一部昇格

日本福祉大学・至学館大学・岐阜経済大学・

東海学院大学・中京学院大学

第44回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京大学・東海学園大学・鈴鹿国際大学・
日本福祉大学・至学館大学・岐阜経済大学・
東海学院大学・中京学院大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：荒屋えりか（中京大）

一部首位打者賞：中野知奈美（東海学園大）

記録4割8分3厘

一部打点賞：荒屋えりか（中京大）

磯淵 沙樹（東海学園大）

木村 彩乃（鈴鹿国際大）

記録11

本塁打点賞：該当者なし

盗塁賞：小松 良江（鈴鹿国際大）

記録12

一部最優秀防御率賞：長谷川朋子（中京大）

記録1.02

二部優秀選手賞：大塚 友紀（岐阜経済大）

二部首位打者賞：新美 天理（岐阜経済大）

記録8割3分3厘

二部最優秀防御率賞：小崎 愛美（岐阜経済大）

記録0.70

ベストスコアラー賞：笹田 雅（日本福祉大）

ベスト放送員賞：下枝 望美（至学館大）

ベストナイン

投手 河津かおり（東海学園大学4年）

捕手 荒屋えりか（中京大学4年）

一塁手：香山紗貴子（中京大学2年）

二塁手：相場 美穂（鈴鹿国際大学4年）

三塁手：中野知奈美（東海学園大学4年）

遊撃手：下山 実咲（中京大学3年）

外野手：塚本 智名（中京大学3年）

外野手：小松 良江（鈴鹿国際大学3年）

外野手：浦田 栞里（日本福祉大学2年）

D P F P：金子 真依（東海学園大学2年）

講評 今大会より、女子一部リーグに限り、
総当たりで2試合ずつを行うリーグ戦方式で開催

された。会場は初日を愛知県東海市／新宝緑地運動公園で、二日目以降を同県豊田市／豊田市運動公園で行われた。当初は、三日目までを愛知県東海市で行う予定であったが、第二回東アジアカップの選考会と二、三日目が重なってしまい、関係各位には大変なご迷惑をおかけして大部分を豊田市で開催する運びとなった。それにも拘わらず、愛知県東海市協会ならびに同県豊田市協会の皆様のご尽力により、無事全日程が終了したことに感謝申し上げます。特に愛知県豊田市協会の皆様におかれましては、6日間の長期にわたりご尽力いただいたことに深く感謝申し上げます。

今大会は中京大が7季ぶり33回目の優勝を飾った。10試合を行い9勝1敗、失点した試合は二試合のみで、失点率は0.90、また一試合平均7.20得点とリーグトップの得失点で攻守にわたり力を見せつけた。同率で並んだ東海学園大も安定した力をみせたが、失点率2.40で中京大に競り負けた。しかし、直接対決では1勝1敗の五分で、両者の力の差は拮抗しているものだった。また、前季の覇者、鈴鹿国際大は堅い守りが特徴のチームだが、今大会は失点が多く、完封勝ちした試合もわずかに2試合で、上位2校との4試合に敗れ、第3位となった。日本福祉大は上位3校の壁を破れなかったものの、下位2校との試合は危なげなく、4勝6敗で前期同様の第4位となった。至学館大、東海学院大の校はお互いの直接対決二試合を引き分けとし、接戦を繰り広げた。しかし、初日に鈴鹿国際大に引き分けた至学館大が負け数が少なく5位を決め、東海学院大は6位となった。

二部では、秋季リーグの入れ替え戦で降格した岐阜経済大と中京学院大の2校が苦しみながらも勝ち上がり、入れ替え戦へとコマを進めた。入れ替え戦では、岐阜経済大学が東海学院大を破り昇格、中京学院大は至学館大の前に力及ばず、昇格はなかった。

全42試合に及ぶ今大会は、大変実り多いものだった。特に、総当たり2試合制は、互いに切磋琢磨し合い競技力の向上に寄与したものと考えられる。（東海学連副理事長 二瓶 雄樹）

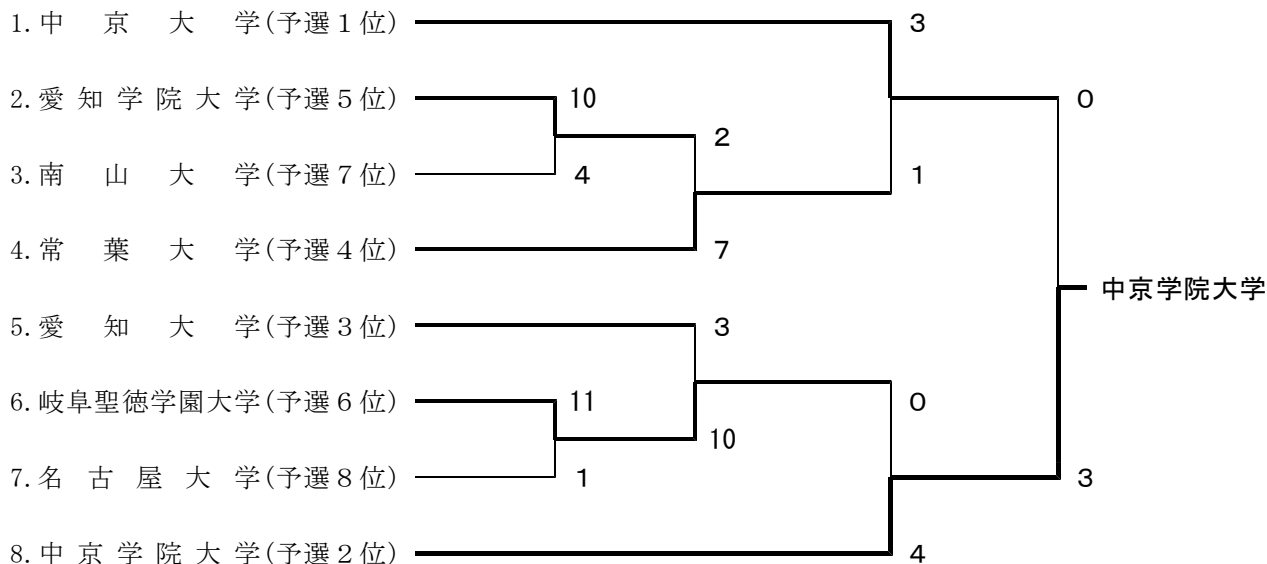
第10回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

ー兼、第48回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会ー

会期 平成25年5月18日(土)、19日(日)

会場 静岡市清水区／富士川緑地公園グラウンド

●男子



3位決定戦 常葉大学 7－0 岐阜聖徳学園大学

大会成績並びに第48回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム (カッコ内は出場回数)

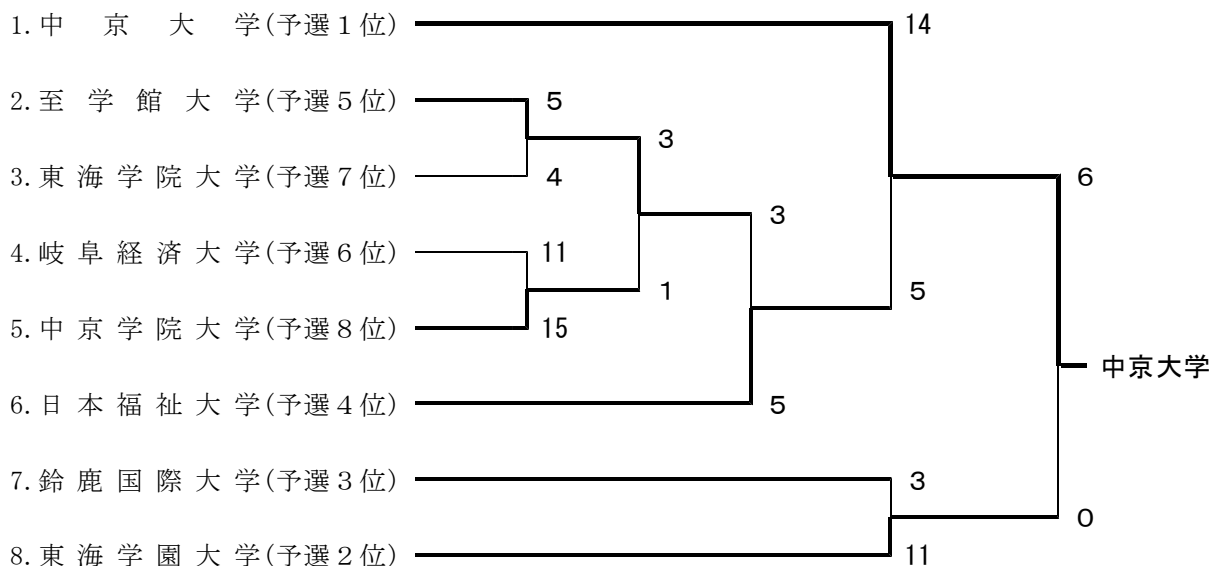
優勝：中京学院大学 (9年連続10回目)

3位：常葉大学 (2年連続16回目)

2位：中京大学 (6年連続43回目)

4位：岐阜聖徳学園大学 (5年ぶり9回目)

●女子



3位決定戦 鈴鹿国際大学 11－0 日本福祉大学

大会成績並びに第48回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム (カッコ内は出場回数)

優勝：中京大学 (29年連続38回目)

3位：鈴鹿国際大学 (5年連続5回目)

2位：東海学園大学 (6年連続12回目)

4位：日本福祉大学 (2年連続2回目)

東海テレビ杯 平成25年度秋季第73回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成25年10月12・14・19日、11月16日

会場：愛知県刈谷市／双葉グラウンド、蒲州市／浜町グラウンド 他

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	愛 知	常 葉	愛知学院	岐阜聖徳	勝	分	敗	順 位
中 京		○ 4 - 0	○ 10 - 2	○ 10 - 0	○ 14 - 6	○ 9 - 1	5	0	0	優勝
中京学院	● 0 - 4		○ 9 - 3	○ 8 - 7	○ 8 - 1	○ 7 - 3	4	0	1	2 位
愛 知	● 2 - 10	● 3 - 9		○ 4 - 3	○ 16 - 15	● 5 - 7	2	0	3	4 位
常 葉	● 0 - 10	● 7 - 8	● 3 - 4		○ 9 - 6	● 0 - 9	1	0	4	5 位
愛知学院	● 6 - 14	● 1 - 8	● 15 - 16	● 6 - 9		○ 9 - 8	1	0	4	6 位
岐阜聖徳	● 1 - 9	● 3 - 7	○ 7 - 5	○ 9 - 0	● 8 - 9		2	0	3	3 位

※ 3～4 位、5～6 位は直接対戦の結果による。

二部リーグ戦

チーム	南 山	名 古 屋	愛知教育	日本福祉	名 城	中 部	勝	分	敗	順位
南 山		○ 11 - 8	○ 7 - 5	● 0 - 14	○ 15 - 5	○ 13 - 6	4	0	1	2 位
名 古 屋	● 8 - 11		● 3 - 9	● 5 - 10	○ 6 - 5	● 5 - 6	1	0	4	5 位
愛知教育	● 5 - 7	○ 9 - 3		● 10 - 17	○ 9 - 4	● 10 - 25	2	0	3	4 位
日本福祉	○ 14 - 0	○ 10 - 5	○ 17 - 10		○ 15 - 1	○ 14 - 7	5	0	0	1 位
名 城	● 5 - 15	● 5 - 6	● 4 - 9	● 1 - 15		● 1 - 14	0	0	5	6 位
中 部	● 6 - 13	○ 6 - 5	○ 25 - 10	● 7 - 14	○ 14 - 1		3	0	2	3 位

三部リーグ戦

チーム	静 岡	名古屋商	東海学園	静 岡	名古屋商	東海学園	勝	分	敗	順位
静 岡		● 10 - 11	○ 5 - 1		○ 11 - 1	○ 17 - 2	3	0	1	1 位
名古屋商	○ 11 - 10		○ 17 - 0	● 1 - 11		○ 16 - 15	3	0	1	2 位
東海学園	● 1 - 5	● 0 - 17		● 2 - 17	● 15 - 16		0	0	4	3 位

※ 1～2 位は当該チーム間の失点率による。

一・二部入れ替え戦

常葉大学(一部 5 位) 13 - 3 南山大学(二部 2 位) ※両大学とも現部に残留

愛知学院大学(一部 6 位) 12 - 5 日本福祉大学(二部 1 位) ※両大学とも現部に残留

二・三部入れ替え戦

名城大学(二部 6 位) 9 - 10 静岡大学(三部 1 位) ※静岡大学は二部昇格、名城大学は三部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：花岡 大輝(中京大学)
一部首位打者賞：小池 祐太(愛知大学)
記録：6割2分5厘
一部打点賞：白井 柊(愛知学院大学)
記録：11
本塁打賞：平岩 裕基(中京大学)
西里 博樹(中京学院大学)
記録：3
盗塁賞：山口 恭平(中京大学)
記録：7
一部最優秀防御率賞：尾矢 祥嗣(中京学院大学)
記録：0.00
二部優秀選手賞：宮城 太亮(日本福祉大学)
二部首位打者賞：猪之鼻準仁(南山大学)
記録：7割0分0厘
二部最優秀防御率賞：宮城 太亮(日本福祉大学)
記録：4.20
三部優秀選手賞：寺本 貴哉(静岡大学)
三部首位打者賞：白鷺郁也(名古屋商科大学)
記録：6割4分3厘
三部最優秀防御率賞：三田 晃仁(静岡大学)
記録：2.95
ベストマネジメント賞：名古屋商科大学
ベストスコアラー賞：野田 真希(名古屋大学)
ベスト放送員賞：横井 友祐(名城大学)
ベストナイン
投手：尾矢 祥嗣(中京学院大学)
捕手：西里 博樹(中京学院大学)
一塁手：高尾 健(中京学院大学)
二塁手：渡邊 康平(岐阜聖徳学園大学)
三塁手：小池 祐太(愛知大学)
遊撃手：宮崎 諒(愛知大学)
外野手：山口 恭平(中京大学)
外野手：平岩 裕基(中京大学)
外野手：浅野 慶太(愛知学院大学)
DPFP：伊藤 元晴(中京大学)

講評 本リーグ戦は、今回初めて東三河地区の蒲郡協会にも開催をお願いしました。しかし、

2日間を台風の雨で流し、第3日は雨中での試合となって雨に泣かされた長いリーグ戦になりました。にもかかわらず、無事終了することができましたのは、主管いただいた刈谷市連盟と蒲郡協会のご尽力の賜物であり、同連盟・協会と愛知県協会並びに東・西三河支部に対しまして、まずもって心から御礼申し上げます。

一部リーグ戦は、東海地区を代表する深津(中京大)・片岡(中院大)両投手が引退し、この2強に対して他の4チームが如何に挑むかが注目されていたが、それでも両チームの独走を許した。第3日終了時点で、2チームは4勝、他の4チームは星のつぶし合いで2強4弱の呈を示した。順位がかかる最終日は、3試合とも接戦となったが、長打力に勝るチームが試合を決めた。逆に言えば、投手力の弱さが順位を決めたことにもなる。15試合で乱れ飛んだ本塁打は28本、三塁打22本、二塁打20本であった。守りの強化を望みたい。

二部リーグ戦は、例年になく順当に順位が決定した感がある。打力に勝る日本福祉大学が失点しつつもひとつずつ勝利を積み上げて全勝で優勝した。二桁得点の大味な試合が多いリーグ戦の展開であり、ここでも投手力の強化を望みたい。

三部リーグ戦は、3チームによる2回戦のリーグ戦であったが、静岡大学が1敗したものの打力で他を突き放して優勝した。

一・二部入れ替え戦では、一部チームが点差コールドで二部チームの挑戦を退けて残留し、二部・三部では静岡大が1季で二部復帰を果たした。

ところで、今回は閉会式で個人表彰をすることができなかった。このようなことは初めてであり、誠に残念であった。その原因は、今回ベストスコアラー賞を獲得した野田真希さんの記入したスコアカード以外、正しく集計されていたスコアカードが全くなかったからである。きっちりと記録を執ることは、チーム力の向上にもつながるので、それができるよう努力してもらいたい。そのため、来季は記録集計ソフト「Windmill」への入力を主管校ではなく試合運営担当校にお願いするつもりである。(事務局長 水谷 博)

東海テレビ杯

平成25年度秋季第62回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成25年9月28・29日、10月5・6日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦

チーム	中 京	東海学園	鈴鹿国際	日本福祉	至 学 館	岐阜経済	勝	分	敗	順 位
中 京		● 1 - 2	● 4 - 5	○ 8 - 0	○ 5 - 2	○ 4 - 2	3	0	2	3 位
東海学園	○ 2 - 1		○ 7 - 1	○ 2 - 0	○ 7 - 0	○ 11 - 4	5	0	0	優勝
鈴鹿国際	○ 5 - 4	● 1 - 7		○ 7 - 1	○ 10 - 0	○ 4 - 3	4	0	1	2 位
日本福祉	● 0 - 8	● 0 - 2	● 1 - 7		○ 3 - 0	● 0 - 1	1	0	4	5 位
至 学 館	● 2 - 5	● 0 - 7	● 0 - 10	● 0 - 3		● 1 - 8	0	0	5	6 位
岐阜経済	● 2 - 4	● 4 - 11	● 3 - 4	○ 1 - 0	○ 8 - 1		2	0	3	4 位

二部リーグ戦

チーム	東海学院	岐阜聖徳	愛知教育	静 岡	中京学院	常 葉	名 古 屋	順 位
東海学院		△ 8 - 8	○ 9 - 2	○ 13 - 0	*	● 3 - 8	*	2 位
岐阜聖徳	△ 8 - 8		● 4 - 6	○ 4 - 3	*	*	○ 10 - 0	5 位
愛知教育	● 2 - 9	○ 6 - 4		○ 11 - 1	● 2 - 9	*	*	4 位
静 岡	● 0 - 13	● 3 - 4	● 1 - 11		*	*	*	7 位
中京学院	*	*	○ 9 - 2	*		● 5 - 12	○ 14 - 0	3 位
常 葉	○ 8 - 3	*	*	*	○ 12 - 5		○ 10 - 0	1 位
名 古 屋	*	● 0 - 10	*	*	● 0 - 14	● 0 - 10		6 位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一・二部入れ替え戦

日本福祉大学(一部5位) 3 - 2 東海学院大学(二部2位) ※日福大は一部残留、東院大は二部残留
至学館大学(一部6位) 1 - 11 常葉大学(二部1位) ※学館大は二部降格、常葉大は一部昇格

個人表彰選手

記録3

最優秀選手賞：磯淵 沙樹(東海学園大)

盗 塁 賞：該当者なし

一部首位打者賞：磯淵 沙樹(東海学園大)

一部最優秀防御率賞：長瀬 りえ(東海学園大)

記録6割2分5厘

記録1.00

一部打点賞：金子 真依(東海学園大)

二部優秀選手賞：樽林 真貴(常葉大)

記録6

二部首位打者賞：西村 紗季(岐阜聖徳大)

本塁打点賞：大塚 友紀(岐阜経済大)

記録8割0分8厘

二部最優秀防御率賞：跡部 育美（岐阜聖徳大）
記録0.00

ベストマネジメント賞：至学館大学

ベストスコアラー賞：宮脇 結佳（岐阜聖徳大）

ベスト放送員賞：岡元美津希（岐阜経済大）

ベストナイン

投手 若林恵里奈（岐阜経済大学1年）

捕手 金子 真依（東海学園大学2年）

一塁手：磯淵 沙樹（東海学園大学2年）

二塁手：小松 良江（鈴鹿国際大学3年）

三塁手：山本 菜々（日本福祉大学3年）

遊撃手：下山 実咲（中京大学 3年）

外野手：木村 彩乃（鈴鹿国際大学2年）

外野手：森光 眞子（鈴鹿国際大学1年）

外野手：塚本 智名（中京大学 3年）

D P F P：木村麻利亜（東海学園大学1年）

講評

9月28・29日、10月5・6日の四日間、愛知県高浜市連盟の皆様のご尽力により、順調に全日程が終了しました。昨年は天候に恵まれず、12月までリーグ戦が続きましたが、今年はそのようなこともなく、順調に開催できましたことにまずもって感謝申し上げます。

今季の一部リーグ戦では、東海学園大、鈴鹿国際大、中京大に続いて昨季一部に返り咲いた岐阜経済大が4位に浮上した。その岐阜経済大は上位にある鈴鹿国際大、中京大をタイブレーカーまで持ち込み、接戦を演じた。残念ながら一歩及ばなかったものの、創部5年目の来季に飛躍の期待がかかる。第48回全日本選手権で初優勝を遂げた中京大は、4年生が引退した穴を埋めることができず、鈴鹿国際大、東海学大に連敗して3位となった。一方、準優勝の鈴鹿国際大も岐阜経済大、中京大との接戦を制したものの、東海学園大戦では7失点と敗戦を喫した。全勝優勝を遂げたのは東海学園大。全日本選手権で活躍した投手力は健在で、岐阜経済大に4失点したものの、その他4試合では平均失点0.5と安定感は抜群だった。また持ち前の打線も5試合で29点と圧倒的な力を見せ

ての堂々たる優勝を遂げた。5位には最近では常に4位をキープしていた日本福祉大、6位はあらゆる面でのスピードが劣った至学館大となった。

優勝した東海学園大からはベストナインが3名選出された。最優秀選手賞には、打率0.625で首位打者を獲得した東海学園大の磯淵沙樹内野手が選ばれた。最優秀防御率は、同じく東海学大の長瀬りえ（記録1.00）が獲得した。また、久々の本塁打賞は岐阜経済大の大塚友紀（記録3）が獲得し、チーム浮上の立役者となった。

二部では、返り咲きを狙う東海学院大と古豪の常葉大が勝ち上がり、入れ替え戦へと進んだ。入れ替え戦では、常葉大が11対1と至学館大を寄せ付けず、一部返り咲きを果たした。古豪復活が期待される。一方の日本福祉大と東海学院大の入れ替え戦では、2点を追う東海学院大が終盤に迫いづくも7回裏にサヨナラ負けを喫し、一部復帰はならなかった。

今リーグ戦では、岐阜経済大が初の4位に浮上し、上位を脅かしたこと、古豪の常葉大が一部復帰を果たしたことは特筆すべきである。東海地区における大学女子リーグ戦の競争激化の幕開けを予感させる。中京大の初優勝によりもたらされた文部科学大臣杯と全日本学連の優勝旗、優勝杯を来年第49回大会でも、この東海地区に保持するため、東海地区大学リーグに所属する全チームが切磋琢磨し続けることを今後も期待したい。

なお、今季から「ベストマネジメント賞」を新設した。ソフトボールの試合は2チームの選手がいればできるのではなく、審判員をはじめとして記録員や放送員、それにグラウンド整備やボール拾いを担当する係などが一致協力して組織的に行われていることへの理解は決して十分ではないことから、運営担当チームがこのこのことの理解を深めて試合を運営するという自覚を高めるために、優れた試合運営を組織的に行った（ゲームのマネジメント）チームを表彰しようとするものである。その第1号には、試合では思うような成績が上げられなかったが、主管校の責任を全うした至学館大学が選ばれた。（副理事長 二瓶雄樹）

【近畿地区】平成25年度 第45回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月6・14・20・21・27・28・29日、5月3・4・5・6・11・12日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	関西	神戸学院	京都産業	同志社	立命館	大阪体育	勝	分	敗	順位
関西		△6-6	△3-3	●1-4	○7-3	○5-4	2	2	1	2位
神戸学院	△6-6		○8-6	●2-3	○7-3	●6-7	2	1	2	3位
京都産業	△3-3	●6-8		●1-3	○9-2	○8-3	2	1	2	4位
同志社	○4-1	○3-2	○3-1		●6-8	○6-3	4	0	1	優勝
立命館	●3-7	●3-7	●2-9	○8-6		○4-3	2	0	3	5位
大阪体育	●4-5	○7-6	●3-8	●3-6	●3-4		1	0	4	6位

☆同志社大学は11度目の優勝！ 大阪体育大学は2部に自動降格 ※3～4位は当該チーム間勝ち点規定により決定

2部リーグ戦

A	大阪府立	京都	四天王寺	流通科学	大阪工業	勝	分	敗	点	順位
大阪府立		●8-10	●2-5	○4-2	○10-3	2	0	2	6	2位
京都	○10-8		●1-3	●1-5	○16-0	2	0	2	6	3位
四天王寺	○5-2	○3-1		○6-2	○3-0	4	0	0	12	1位
流通科学	●2-4	○5-1	●2-6		●7-8	1	0	3	3	5位
大阪工業	●3-10	●0-16	●0-3	○8-7		1	0	3	3	4位

※2～3、4～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定

B	兵庫教育	大阪	大阪経済	神戸	龍谷	勝	分	敗	点	順位
兵庫教育		●6-10	●3-13	△4-4	●1-7	0	1	3	1	5位
大阪	○10-6		●2-7	●2-5	●1-13	1	0	3	3	4位
大阪経済	○13-3	○7-2		●5-7	△4-4	2	1	1	7	3位
神戸	△4-4	○5-2	○7-5		○3-2	3	1	0	10	1位
龍谷	○7-1	○13-1	△4-4	●2-3		2	1	1	7	2位

※2～3位は得失点差規定により決定

◎2部ブロック決勝

四天王寺大学 3-0 神戸大学 ☆四天王寺大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦

流通科学大学 1-11 兵庫教育大学 ★流通科学大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	奈良教育	兵庫県立	佛 教	大阪市立	関西学院	勝	分	敗	点	順 位
奈良教育		● 9-11	● 3-7	○ 8-6	○ 22-6	2	0	2	6	3 位
兵庫県立	○ 11-9		○ 5-1	○ 12-2	○ 14-13	4	0	0	12	1 位
佛 教	○ 7-3	● 1-5		○ 5-3	○ 5-3	3	0	1	9	2 位
大阪市立	● 6-8	● 2-12	● 3-5		○ 9-8	1	0	3	3	4 位
関西学院	● 6-22	● 13-14	● 3-5	● 8-9		0	0	4	0	5 位

B	近 畿	大阪産業	和 歌 山	京都学園	甲 南	勝	分	敗	点	順 位
近 畿		● 0-10	○ 16-2	○ 17-3	● 2-5	2	0	2	6	3 位
大阪産業	○ 10-0		○ 25-0	○ 6-3	○ 13-0	4	0	0	12	1 位
和 歌 山	● 2-16	● 0-25		● 3-31	△ 5-5	0	1	3	1	5 位
京都学園	● 3-17	● 3-6	○ 31-3		● 6-8	1	0	3	3	4 位
甲 南	○ 5-2	● 0-13	△ 5-5	○ 8-6		2	1	1	6	2 位

◎3部ブロック決勝 兵庫県立大学 5-6 大阪産業大学 ☆大阪産業大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 立命館大学 7-3 神戸大学 ☆両大学とも原部残留

2部・3部 兵庫教育大学 2-3 兵庫県立大学 ☆兵庫教育大は2部昇格 ★兵庫教育大は3部降格

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位10大学）

同志社大学、関西大学、神戸学院大学、京都産業大学、立命館大学、大阪体育大学

四天王寺大学、神戸大学、京都大学、龍谷大学

◇全日本インカレ出場チーム（6大学）

同志社大学、関西大学、神戸学院大学、京都産業大学、立命館大学、大阪経済大学（初出場）

【総評】 今季の1部は開幕から同志社大学が4連勝で、最終戦を残しての優勝となった。攻守のバランスが一番取れていたことが勝因と言える。一方、2位以下は大混戦となり、2勝で4チームが並ぶこととなった。また、2部から昇格してきた大阪体育大学は残念ながら全敗で、降格となった。

一方、2部は1部から降格したものの総合力に勝る四天王寺大学が全勝でAブロックを、Bブロックでは投手力に安定感のある神戸大学が1位と

なったが、ブロック決勝で四天王寺大学が完封勝利を果たし、1季での1部返り咲きを果たした。

3部は初加盟の兵庫県立大学が全勝でブロック優勝を果たした。さらに、Bブロック優勝の大阪産業大学には惜しくも敗れて3部2位となったものの、2部との入れ替え戦では兵庫教育大学に接戦で競りがち、初参加で3部から2部への昇格となった。

リーグ全体を見て感じることは、投手の計算ができないチームは安定したゲーム展開ができない

ということである。その中で、2部に昇格した大阪産業大学、及びインカレ予選で好投した京都学園大学の投手はそれぞれ1年生であるが、勢いの

あるボールを投げていた。今後に期待したい。
(理事長 森田啓之)

平成25年度 第45回春季関西学生ソフトボールリーグ戦 (女子)

会期：平成25年4月7・13・14・27・28・29日、5月3・4日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	太成学院	天理	神戸親和	大阪国際	立命館	武庫川
園田学園		○7-1	○7-0	○8-0	○1-0	○7-0	○7-1	○3-0
大阪大谷	●1-7		○4-0	○6-2	○4-3	○2-0	○2-1	●1-5
太成学院	●0-7	●0-4		●4-6	○3-2	○3-0	○3-2	○7-2
天理	●0-8	●2-6	○6-4		○1-0	○4-2	○2-0	○6-3
神戸親和	●0-1	●3-4	●2-3	●0-1		○2-0	●2-3	○1-0
大阪国際	●0-7	●0-2	●0-3	●2-4	●0-2		○4-1	●1-3
立命館	●1-7	●1-2	●2-3	●0-2	○3-2	●1-4		○5-0
武庫川	●0-3	○5-1	●2-7	●3-6	●0-1	○3-1	●0-5	

※2～3位、5～7位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学 (7勝0分0敗)
2位 大阪大谷大学 (5勝0分2敗)
3位 天理大学 (5勝0分2敗)
4位 太成学院大学 (4勝0分3敗)
5位 立命館大学 (2勝0分5敗)
6位 神戸親和女子大学 (2勝0分5敗)
7位 武庫川女子大学 (2勝0分5敗)
8位 大阪国際大学 (1勝0分6敗)

3位 石田 千紘 天理大学 0.429
4位 木村 美香 大阪国際大学 0.389
5位 川口 藍 武庫川女子大学 0.381
5位 園田 美紗 太成学院大学 0.381
7位 原 愛美 立命館大学 0.375
8位 山澤 葵 立命館大学 0.363

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	泉 礼花	園田学園女子大学	0.00
2位	太田 春佳	神戸親和女子大学	1.22
3位	石田紗也佳	大阪国際大学	1.67
4位	竹田 有沙	大阪大谷大学	1.99
5位	石田 真子	天理大学	2.06

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	前崎日奈子	太成学院大学	0.500
2位	古澤 春菜	園田学園女子大学	0.450

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
園田学園女子大学	泉 礼花	投 手
大阪大谷大学	上片野麻衣	捕 手
天理大学	宮本 由梨奈	外野手
太成学院大学	山本 夢菜	投 手
立命館大学	澤井 翠	内野手
神戸親和女子大学	太田 春香	投 手
武庫川女子大学	川口 藍	内野手
大阪国際大学	石田紗也佳	投 手

盗塁賞：川村可奈子 園田学園女子大学

記録4

ホームラン賞：岩本 玲奈 園田学園女子大学
 中川なおみ 園田学園女子大学
 古澤 春菜 園田学園女子大学
 川口 藍 武庫川女子大学

記録3

2部リーグ戦対戦成績

チーム	龍 谷	奈良文化	関 西	大阪体育	びわこ	兵庫教育	勝	分	敗	順 位
龍 谷		○ 2 - 1	● 1 - 4	○ 9 - 2	○ 12 - 6	○ 8 - 1	4	0	1	1 位
奈良文化	● 1 - 2		○ 8 - 4	● 4 - 5	○ 10 - 0	● 3 - 11	2	0	3	4 位
関 西	○ 4 - 1	● 4 - 8		● 4 - 8	○ 8 - 0	○ 9 - 0	3	0	2	3 位
大阪体育	● 2 - 9	○ 5 - 4	○ 8 - 4		○ 8 - 0	○ 7 - 0	4	0	1	2 位
びわこ	● 6 - 12	● 0 - 10	● 0 - 8	● 0 - 8		○ 8 - 7	1	0	4	5 位
兵庫教育	● 1 - 8	● 11 - 3	● 0 - 9	● 0 - 7	● 7 - 8		0	0	5	6 位

※1～2位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	榊原 麗美	奈良文化女子短期大学	0.667
2 位	米田 幸栄	関西大学	0.600
3 位	井端 梨乃	龍谷大学	0.500
3 位	松井 志織	龍谷大学	0.500
3 位	土井 美幸	大阪体育大学	0.500
6 位	長澤 由里	龍谷大学	0.471
7 位	宮原 那奈	関西大学	0.438
8 位	竹内 祥子	関西大学	0.429
9 位	林 英梨奈	龍谷大学	0.417
9 位	藤原 淑子	奈良文化女子短期大学	0.417

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	大塚巳那子	奈良文化女子短期大学	0.41
2 位	始澤 菜摘	龍谷大学	1.81
3 位	宮原 那奈	関西大学	2.94

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
龍谷大学	始澤 菜摘	投 手
大阪体育大学	福池智恵子	内野手
関西大学	宮原 那奈	外野手
奈良文化女子短期大学	角山 瞳	内野手
びわこ成蹊スポーツ大学	岡田 華奈	投 手
兵庫教育大学	柿本 詩織	投 手

盗塁賞：片山 理子 大阪体育大学

記録5

3部対戦成績表

チーム	大阪青山	同志社	佛教	大阪産業	四天王寺	京都女子	大阪府立	摂南
大阪青山		○9-0	○15-0	○12-0	○19-0	○18-0	○15-0	○13-0
同志社	●0-9		○8-7	○15-0	○13-2	○14-1	○17-6	○22-0
佛教	●0-15	●7-8		●7-8	○11-1	○6-5	○5-2	○12-1
大阪産業	●0-12	●0-15	○8-7		○18-4	○15-7	○18-0	○15-1
四天王寺	●0-19	●2-13	●1-11	●4-18		●3-11	○10-5	○16-2
京都女子	●0-18	●0-14	●5-6	●7-15	○11-3		●4-9	●0-7
大阪府立	●0-15	●6-17	●2-5	●0-18	●5-10	○9-4		○11-3
摂南	●0-13	●0-22	●1-12	●1-15	●2-16	○7-0	●3-11	

※5～6位、7～8位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

3部最終成績

優勝	大阪青山大学	(7勝0分0敗)
2位	同志社大学	(6勝0分1敗)
3位	大阪産業大学	(5勝0分2敗)
4位	佛教大学	(4勝0分3敗)
5位	四天王寺大学	(2勝0分5敗)
6位	大阪府立大学	(2勝0分5敗)
7位	摂南大学	(1勝0分6敗)
8位	京都女子大学	(1勝0分6敗)

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	中島智奈都	大阪青山大学	0.00
1位	阿部 優衣	大阪青山大学	0.00
3位	浦口 真綾	大阪府立大学	2.80
3位	市川 未来	大阪府立大学	2.80

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
大阪青山大学	中島智奈都	投手
同志社大学	寺井 美咲	捕手
大阪産業大学	石井 友里	投手
佛教大学	垣渕 祐希	外野手
四天王寺大学	塩路みのり	内野手
大阪府立大学	市川 未来	内野手
摂南大学	三島 萌	
京都女子大学	辻井 晶子	投手

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	土肥 礼奈	大阪青山大学	0.750
2位	阿部 優衣	大阪青山大学	0.727
3位	中田美奈代	四天王寺大学	0.684
4位	木村 望	大阪産業大学	0.666
5位	林 友美	同志社大学	0.636
6位	藤田 紗季	大阪青山大学	0.600
6位	黒部 美里	大阪青山大学	0.600
6位	勝部 彩菜	大阪青山大学	0.600
6位	北川 舞	大阪青山大学	0.600
10位	角屋 理穂	同志社大学	0.550
10位	合田 佳奈	佛教大学	0.550

盗塁賞：土肥 礼奈 大阪青山大学

記録11

平成25年度 第45回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月21・22日、10月12・13・14・19・27日、11月2・3・4・9・16・23日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	関西	四天王寺	神戸学院	同志社	京都産業	立命館	勝	分	敗	順位
関西		○4-0	○3-2	○6-4	○3-2	○3-2	5	0	0	優勝
四天王寺	●0-4		●1-3	●0-1	●1-9	●1-6	0	0	5	6位
神戸学院	●2-3	○3-1		●5-7	○9-2	△2-2	2	1	2	4位
同志社	●4-6	○1-0	○7-5		○5-1	●0-11	3	0	2	3位
京都産業	●2-3	○9-1	●2-9	●1-5		●3-10	1	0	4	5位
立命館	●2-3	○6-1	△2-2	○11-0	○10-3		3	1	1	2位

☆関西大学は8年ぶりぶり17度目の優勝！ 大阪体育大学は2部に自動降格

2部リーグ戦

A	大阪体育	大阪産業	大阪工業	京都	大阪経済	勝	分	敗	点	順位
大阪体育		●3-8	○7-2	●0-6	●2-3	1	0	3	3	4位
大阪産業	○8-3		○9-0	○12-1	○5-4	4	0	0	12	1位
大阪工業	●2-7	●0-9		●6-7	●2-12	0	0	4	0	5位
京都	○6-0	●1-12	○7-6		○3-2	3	0	1	9	2位
大阪経済	○3-2	●4-5	○12-2	●2-3		2	0	2	6	3位

B	神戸	大阪	兵庫県立	龍谷	大阪府立	勝	分	敗	点	順位
神戸		○7-6	○7-2	○3-0	○12-2	4	0	0	12	1位
大阪	●6-7		○10-0	○12-2	○9-2	3	0	1	9	2位
兵庫県立	●2-7	●0-10		●1-9	○9-2	1	0	3	3	4位
龍谷	●0-3	●2-12	○9-1		○8-7	2	0	2	6	3位
大阪府立	●2-12	●2-9	●2-9	●7-8		0	0	4	0	5位

◎2部ブロック決勝 大阪産業大学2-5神戸大学 ☆神戸大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 大阪工業大学1-6大阪府立大学 ★大阪工業大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	京都学園	摂南	大阪市立	和歌山	勝	分	敗	点	順位
京都学園		○4-1	●不戦敗	○9-4	2	0	1	6	2位
摂南	●1-4		●0-7	●5-11	0	0	3	0	4位
大阪市立	○不戦勝	○7-0		○11-1	3	0	0	9	1位
和歌山	●4-9	○11-5	●1-11		1	0	2	3	3位

B	奈良教育	佛教	近畿	大阪教育	勝	分	敗	点	順位
奈良教育		●12-18	●5-11	●1-11	0	0	3	0	4位
佛教	○18-12		○7-3	●4-6	2	0	1	6	2位
近畿	○11-5	●3-7		●6-7	1	0	2	3	3位
大阪教育	○11-1	○6-4	○7-6		3	0	0	9	1位

C	関西学院	兵庫教育	甲南	流通科学	勝	分	敗	点	順位
関西学院		●5-11	●4-10	●4-14	0	0	3	0	4位
兵庫教育	○11-5		○7-0	○8-2	3	0	0	9	1位
甲南	○10-4	●0-7		●2-8	1	0	2	3	3位
流通科学	○14-4	●2-8	○8-2		2	0	1	6	2位

◎3部ブロック決勝1回戦 大阪市立大学(A 1位) 5-12佛教大学(全体の2位)

1回戦 大阪教育大学(B 1位) 0-5兵庫教育大学(C 1位)

決勝戦 佛教大学 9-10兵庫教育大学 ☆兵庫教育大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 京都産業大学10-1大阪産業大学 ☆両者とも原部に残留

2部・3部 大阪府立大学7-12佛教大学 ☆佛教大学は2部昇格、大阪府立大学は3部降格

【総評】 今回程、雨に悩まされたリーグ戦はないというくらい、幾度の雨天順延にたたられた秋季リーグであった。

試合の結果は、1部ではほとんどのチームが新チームによる始動で、来年度の前哨戦のような戦いであった。戦前の予想では投手が入れ替わっていない神戸学院、同志社、立命館が優位かと思われたが、終わってみれば、初戦で勝利して勢いに乗った関西大学があれよあれよで優勝に迫りつい

た。また、四天王寺大学は1季で復帰してきたものの、最下位となり再び2部降格となった。

一方、2部は投手力で安定していた大阪産業大学と神戸大学がそれぞれ全勝で、ブロック優勝を果たした。神戸大学は春季に続いて1部昇格のチャンス獲得であったが、今回はブロック決勝ですんなり勝利して自動昇格となった。数シーズンぶりに国公立のチームが1部に入るわけで、来季の1部での奮起に期待したい。

さらに、3部は新加盟の2チームを加えて12チームとなったため、3ブロック制となった。ブロック決勝は、全勝でブロック優勝した3大学（大阪市立大学、新加盟の大阪教育大学、2部から降格してきた兵庫教育大学）に加えて、得失点差により3ブロック通して2位の佛教大学の4チームによるトーナメントが実施された。その結果、兵庫教育大学が3部優勝となり、1季での2部返り咲きを果たした。さらに佛教大学も入れ替え戦を制して、2部に昇格を果たした。

今年は、春に兵庫県立大学が、そして秋には摂南大学と大阪教育大学が新加盟し、リーグに新風が吹き込まれた。来春には、大阪経済法科大学の復帰も予定されており、29チームという近年最大のチーム数となる。この裾野の拡大は大変うれしいことであるが、同時にトップのレベルの向上がここ数年の大きな課題でもある。すべてのチームがよい切磋琢磨をしながら互いに向上していったほしい。（理事長 森田啓之）

平成25年度 第45回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成25年9月21・22・23・28・10月5・6・12・13日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	立 命 館	武 庫 川	神戸親和	園田学園	大阪国際	大阪大谷	天 理	太成学院
立 命 館		○5-0	○7-0	○1-0	●1-3	○1-0	●1-3	○7-4
武 庫 川	●0-5		○8-0	●0-3	○4-2	○2-0	●4-5	○1-0
神戸親和	●0-7	●0-8		●0-7	●3-13	○2-1	○2-1	●3-4
園田学園	●0-1	○3-0	○7-0		○7-0	○8-0	○6-1	○7-0
大阪国際	○3-1	●2-4	○13-3	●0-7		△2-2	●0-1	△1-1
大阪大谷	●0-1	●0-2	●1-2	●0-8	△2-2		○5-1	○4-3
天 理	○3-1	○5-4	●1-2	●1-6	○1-0	●1-5		●0-2
太成学院	●4-7	●0-1	○4-3	●0-7	△1-1	●3-4	○2-0	

※5～8位は、勝ち点、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学（6勝0分1敗）

2位 立 命 館 大 学（5勝0分2敗）

3位 武庫川女子大学（4勝0分3敗）

4位 天 理 大 学（3勝0分4敗）

5位 大阪国際大学（2勝2分3敗）

6位 大阪大谷大学（2勝1分4敗）

7位 太成学院大学（2勝1分4敗）

8位 神戸親和女子大学（2勝0分5敗）

1部個人表彰

打撃成績

順位 氏 名 大 学 打 率

1位 清原 奈侑 園田学園女子大学 0.533

2位	松本 麻里	太成学院大学	0.467
3位	山田 夢子	神戸親和女子大学	0.455
4位	川口 藍	武庫川女子大学	0.444
5位	熊井 由実	立命館大学	0.420
6位	川村可奈子	園田学園女子大学	0.409
7位	山澤 葵	立命館大学	0.400
7位	中尾 萌	神戸親和女子大学	0.400
9位	井上 奈那	神戸親和女子大学	0.385
9位	呉屋 知紀	大阪国際大学	0.385

大 学	氏 名	守備位置
園田学園女子大学	清原 奈侑	捕 手
立命館大学	澤井 翠	内野手
武庫川女子大学	川口 藍	内野手
天理大学	石田ちひろ	外野手
大阪国際大学	石田紗也佳	投 手
大阪大谷大学	上片野麻衣	捕 手
太成学院大学	松本 まり	外野手
神戸親和女子大学	中屋のどか	外野手

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	泉 礼花	園田学園女子大学	0.00
2位	石田紗也佳	大阪国際大学	1.13
3位	加藤あずさ	立命館大学	1.26
4位	内海 花菜	武庫川女子大学	1.50
5位	酒井 夏葉	天理大学	2.04

盗塁賞：本岡 有里 園田学園女子大学

牧野 樹 立命館大学

中野 優菜 大阪国際大学

記録3

ホームラン賞：

清原 奈侑 園田学園女子大学

千葉ゆうき 天理大学

記録2

ベストプレイ賞

2部リーグ戦対戦成績

チーム	龍 谷	大阪体育	奈良文化	関 西	大阪青山	びわこ成蹊	勝	分	敗	順 位
龍 谷		○10-2	●1-2	●2-3	○1-0	○7-0	3	0	2	3位
大阪体育	●2-10		○2-1	●3-7	○2-0	○4-1	3	0	2	4位
奈良文化	○2-1	●1-2		○1-0	○5-1	○9-2	4	0	1	1位
関 西	○3-2	○7-3	●0-1		○8-1	○9-0	4	0	1	2位
大阪青山	●0-1	●0-2	●1-5	●1-8		●0-3	0	0	5	6位
びわこ成蹊	●0-7	●1-4	●2-9	●0-9	○3-0		1	0	4	5位

※1～2位、3～4位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	宮原 那奈	関西大学	0.538
2位	中村 綾花	奈良文化女子短期大学	0.533
3位	松本 早紀	奈良文化女子短期大学	0.467
4位	南 菜月	関西大学	0.462
4位	中村 理彩	関西大学	0.462

6位 橋口 夏織 龍谷大学 0.429

6位 城村 有香 大阪体育大学 0.429

8位 角山 瞳 奈良文化女子短期大学 0.411

9位 平井 えり びわこ成蹊スポーツ大学 0.385

10位 黒岩 美里 大阪青山大学 0.364

10位 田中 千晴 大阪体育大学 0.364

10位 羽田野千明 龍谷大学 0.364

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	大塚巳那子	奈良文化女子短期大学	0.74
2位	永橋美珠紀	奈良文化女子短期大学	0.93
3位	始澤 菜摘	龍谷大学	1.39

奈良文化女子短期大学	松本 早紀	内野手
関西大学	宮原 那奈	投手
龍谷大学	始澤 菜摘	投手
大阪体育大学	棚原 香	外野手
びわこ成蹊スポーツ大学	山崎 千穂	捕手
大阪青山大学	中島智奈都	投手

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
----	----	------

盗塁賞： 南 菜月 関西大学 記録 8

3部対戦成績表

チーム	同志社	兵庫教育	佛教	大阪産業	四天王寺	京都女子	摂南	大阪府立
同志社		○ 6 - 4	○ 14 - 0	○ 11 - 0	○ 12 - 0	○ 7 - 0	○ 18 - 0	○ 12 - 2
兵庫教育	● 4 - 6		○ 17 - 2	○ 7 - 6	○ 9 - 2	○ 13 - 1	○ 15 - 0	○ 15 - 3
佛教	● 0 - 14	● 2 - 17		● 10 - 19	● 2 - 19	● 6 - 17	○ 17 - 9	● 15 - 22
大阪産業	● 0 - 11	● 6 - 7	○ 19 - 10		● 8 - 15	● 5 - 12	○ 13 - 3	○ 15 - 14
四天王寺	● 0 - 12	● 2 - 9	○ 19 - 2	○ 15 - 8		○ 11 - 8	○ 21 - 3	○ 7 - 0
京都女子	● 0 - 7	● 1 - 13	○ 17 - 6	○ 12 - 5	● 8 - 11		○ 15 - 14	○ 18 - 11
摂南	● 0 - 18	● 0 - 15	● 9 - 17	● 3 - 13	● 3 - 21	● 14 - 15		○ 15 - 5
大阪府立	● 2 - 12	● 3 - 15	○ 22 - 15	● 14 - 15	● 0 - 7	● 11 - 18	● 5 - 15	

※6～8位は、当該チームの失点差の勝敗による。

3部最終成績

優勝	同志社大学	(7勝0分0敗)
2位	兵庫教育大学	(6勝0分1敗)
3位	四天王寺大学	(5勝0分2敗)
4位	京都女子大学	(4勝0分3敗)
5位	大阪産業大学	(3勝0分4敗)
6位	摂南大学	(1勝0分6敗)
7位	大阪府立大学	(1勝0分6敗)
8位	佛教大学	(1勝0分6敗)

2位	前田 琴美	京都女子大学	0.571
3位	堀 真弓	同志社大学	0.545
4位	荒木 舞	京都女子大学	0.533
5位	岡田 千夏	兵庫教育大学	0.473
6位	塩路みのり	四天王寺大学	0.416
7位	藤堂 有莉	兵庫教育大学	0.400
8位	大谷 桃子	京都女子大学	0.384
9位	田中 早苗	兵庫教育大学	0.375

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	林 友美	同志社大学	0.769

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	寺井 美咲	同志社大学	1.47
2位	田中 早苗	兵庫教育大学	1.90

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
同志社大学	寺井 美咲	捕 手
兵庫教育大学	藤堂 有莉	捕 手
四天王寺大学	塩路みのり	内野手
京都女子大学	中島 馨	外野手
大阪産業大学	石井 友理	投 手

摂南大学	松尾 有紀	外野手
大阪府立大学	浦口 真綾	内野手
佛教大学	堀内 佐起	内野手

盗塁賞：名古屋由貴 同志社大学
記録 6

【中国地区】

第48回全日本大学・第45回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成25年 5 月 18 日（土）・19 日（日）

会場：鳥取県湯梨浜町・北栄町／北条野球場・北条運動場

男子 A ゾーン

広島国際学院大学	3			
広島工業大学	1			
広島経済大学	8			
鳥 取 大 学	1			
環太平洋大学	9			
		18	4	広島経済大
			0	

全日本大学選手権大会第三代表決定戦
（A・Bゾーン決勝戦敗退チーム）

環太平洋大学	11	
広 島 大 学	2	環太平洋大

男子 B ゾーン

広 島 大 学	5			
広島修道大学	4			
岡 山 大 学	7			
近畿大学工学部	1			
岡山理科大学	1			
		8	5	岡山大
			10	

西日本大学選手権大会第 5 代表決定戦
（A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム）

広島国際学院大学	5		
鳥 取 大 学	22		
広島修道大学	17		
岡山理科大学	2		
		6	広島修道大
		12	

全日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島経済大学・岡山大学・環太平洋大学

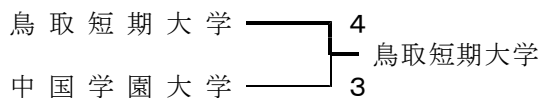
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島経済大学・岡山大学・環太平洋大学・広島大学・
広島修道大学

女子

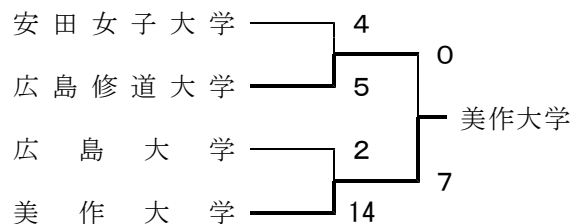
安田女子大学	4			
鳥 取 大 学	0			
鳥取短期大学	17			
IPU環太平洋大学	20			
広島修道大学	0			
		5	0	環太平洋大
			18	

山口福祉文化大学	12			
広 島 大 学	0			
中国学園大学	10			
美 作 大 学	3			
		4	3	山口福祉文化大

全日本大学選手権大会第三代表決定戦



西日本大学選手権大会第5代表決定戦



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・山口福祉文化大学・鳥取短期大学

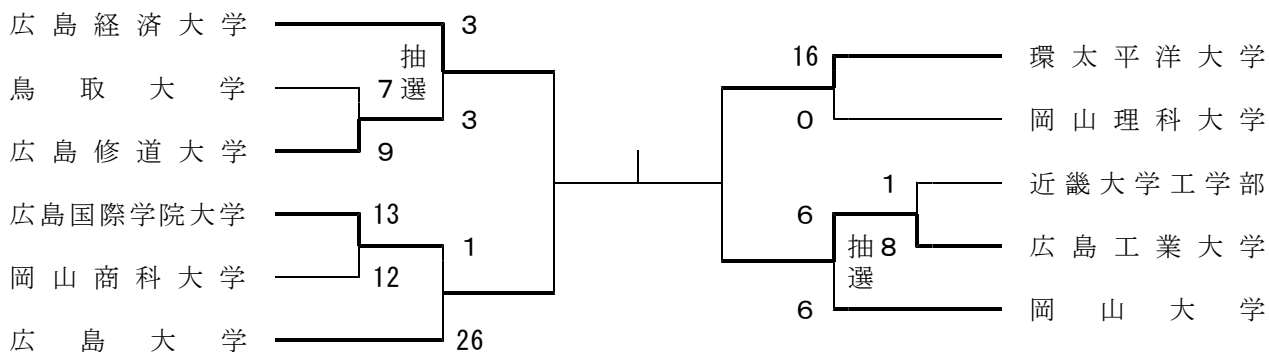
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・山口福祉文化大学・鳥取短期大学・
中国学園大学・美作大学

第13回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

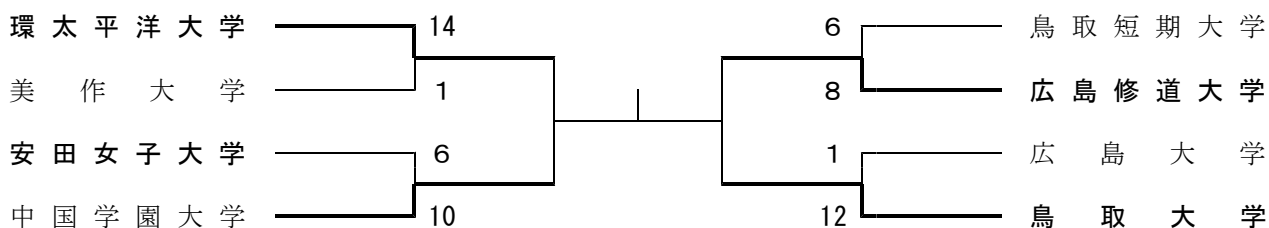
会期：平成25年11月9日(土)

会場：広島市／広島修道大学ソフトボール場A・B・野球場

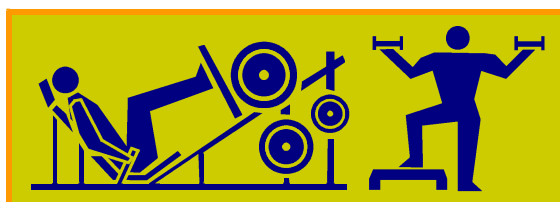
【男子】



【女子】



※2日目は雨天のためグラウンドコンディションが悪く中止



【四国地区】

平成25年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

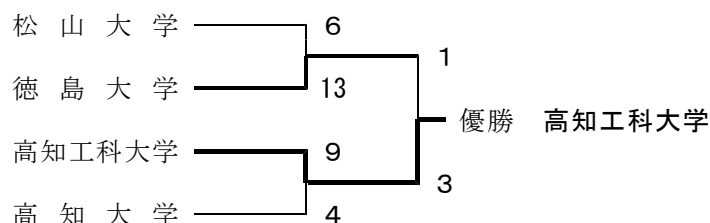
会期：平成25年 4 月 20 日（土）・21 日（日）

会場：愛媛県八幡浜市／市民スポーツパークランド

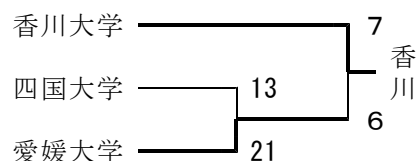
予選 A	高 工	香 川	松 山	四 国	順
高知工科		○ 5 - 2	* ○	○ 11 - 0	2
香 川	● 2 - 5		● 1 - 5	* ○	3
松 山		○ 5 - 1		○ 16 - 3	1
四 国	● 0 - 11	* ○	● 3 - 16		4

予選 B	徳 島	愛 媛	高知	順
徳 島		○ 9 - 1	● 10 - 11	2
愛 媛	● 1 - 9		● 5 - 6	3
高 知	○ 11 - 10	○ 6 - 5		1

決勝トーナメント



順位決定戦



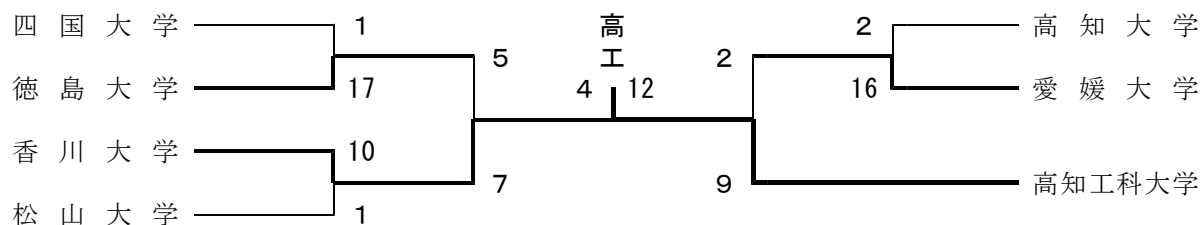
最終順位 優勝：高知工科大学 2位：徳島大学 3位：高知大学・松山大学
5位：香川大学 6位：愛媛大学 7位：四国大学

第48回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 一兼、第44回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成25年 5 月 25 日（土）・26 日（日）

会場：愛媛県八幡浜市／市民スポーツパークランド

【男子】



3位決定戦：愛媛大学13-12徳島大学

全日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学（2年連続2回目） 香川大学（2年連続12回目）
西日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学・香川大学・愛媛大学

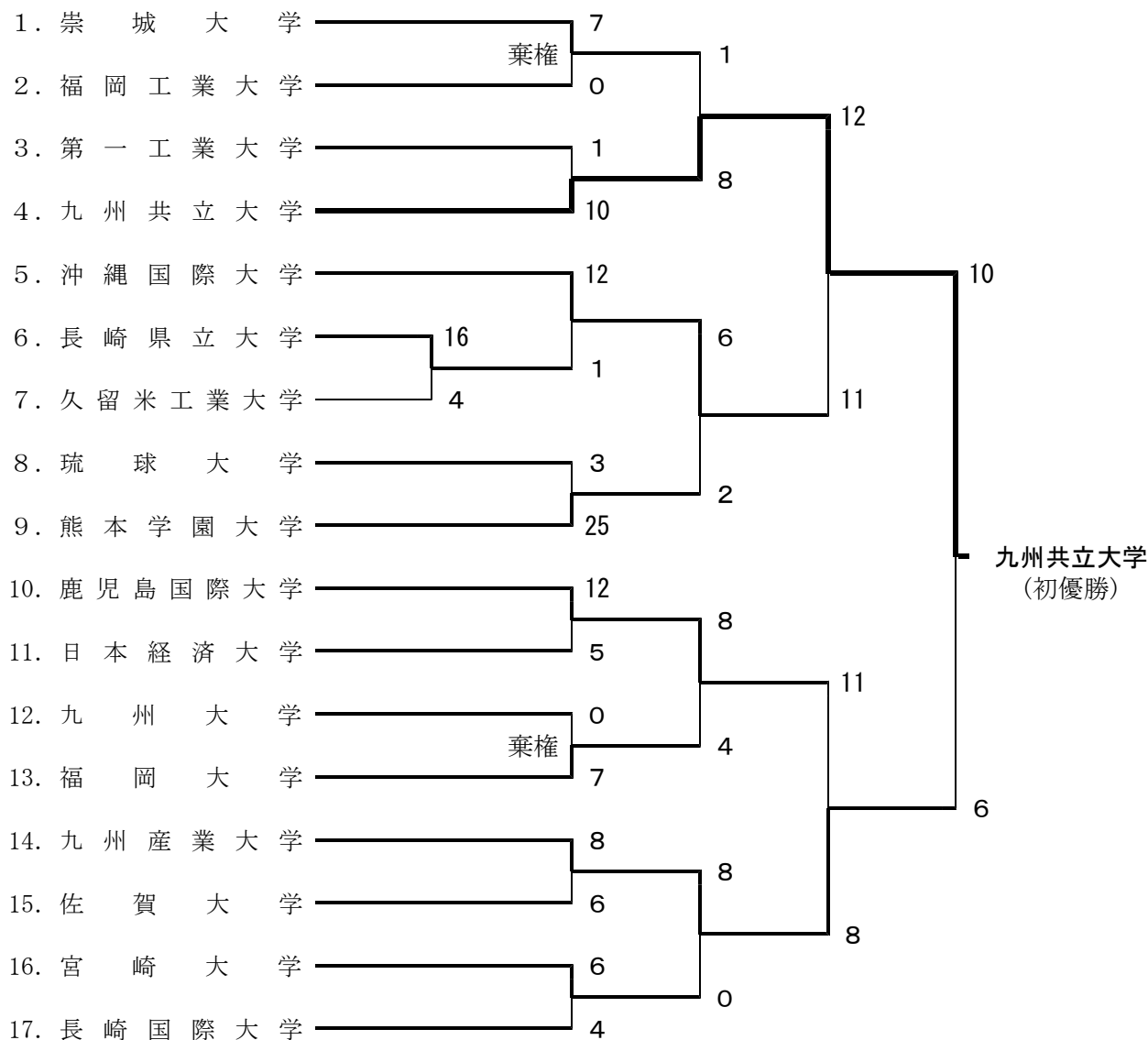
【九州地区】

第32回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会 （兼、第48回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

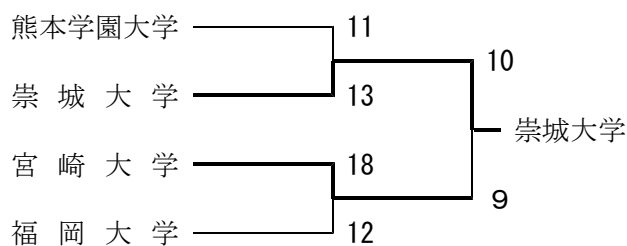
会期：平成25年 5月18日（土）～19日（日）

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



第5代表決定戦



※第48回全日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：
九州共立大学・鹿児島国際大学・沖縄国際大学・
九州産業大学・崇城大学

※第45回西日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：
九州共立大学・鹿児島国際大学・沖縄国際大学・
九州産業大学・崇城大学・宮崎大学・福岡大学・
熊本学園大学

【女子】

チーム	福岡	九州共立	熊本学園	日本文理	勝	分	敗	順位
福岡		○ 6 - 2	○ 3 - 0	○ 7 - 0	3	0	0	1位
九州共立	● 2 - 6		● 6 - 7	○ 2 - 0	1	0	2	3位
熊本学園	● 0 - 3	○ 7 - 6		○ 1 - 0	2	0	1	2位
日本文理	● 0 - 7	● 0 - 2	● 0 - 1		0	0	3	4位

※全日本大学選手権の出場権獲得校：福岡大学

※西日本大学選手権の出場権獲得校：福岡大学・熊本学園大学・九州共立大学

第13回 九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成25年11月9日・10日

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和運動公園多目的球場他

【男子】

[予選リンク戦]

Eリンク（3チーム、1位：熊本学園大学）

熊本学園大学 12-3 九州大学
九州大学 7-20 九州共立大学
九州共立大学 3-11 熊本学園大学

Cリンク（4チーム、1位：宮崎大学）

第一工業大学 1-9 宮崎大学
宮崎大学 9-2 長崎国際大学
長崎国際大学 1-4 九州産業大学
九州産業大学 8-4 九州大学

Bリンク（4チーム、1位：鹿児島国際大学）

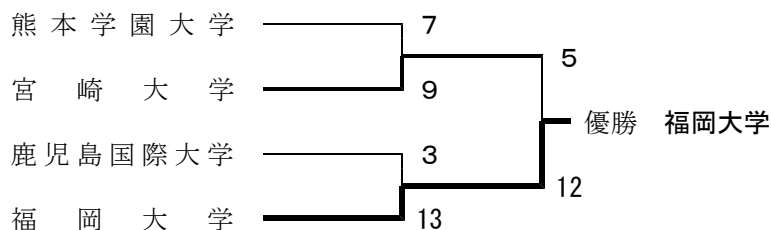
福岡工業大学 5-7 崇城大学
崇城大学 13-3 佐賀大学
佐賀大学 0-13 鹿児島国際大学
鹿児島国際大学 3-2 福岡工業大学

Dリンク（4チーム、1位：福岡大学）

長崎県立大学 0-7 福岡大学
福岡大学 7-0 日本経済大学
日本経済大学 0-19 沖縄国際大学
沖縄国際大学 18-1 長崎県立大学

※予選は1イニングの失点率で順位決定

[決勝トーナメント]



【女子】

チーム	福岡	日本文理	九州共立	熊本学園	勝	分	敗	順位
福岡		○11－4	●2－4	○3－1	2	0	1	2位
日本文理	●4－11		●2－10	○3－2	1	0	2	3位
九州共立	○4－2	○10－2		○6－1	3	0	0	優勝
熊本学園	●1－3	●2－3	●1－6		0	0	3	4位

【調査研究部会】

－平成25年度－

大学連盟加盟チームによるソフトボール普及活動の実績報告《新規のみ》

事務局長・森田啓之

大学連盟は、大学ソフトボールチームの競技力向上を図ることと同時に、競技種別を問わず地域社会にソフトボールを普及することも重要な役割であると位置付け、この機関誌ウインドミルにてその取り組みを掲載してまいりました。今年も例年同様、多くの大学においてソフトボールの普及活動が展開されていますが、今回は特に「新規で行った事業」を紹介します。

なお、以下に掲載しましたものは、年度内実施予定事業も含めて、今回各地区・チームより報告があったものです。また紙面の都合上、実施内容については「概要」として簡単にまとめています。

【東海】

◎鈴鹿国際大学（女子）

事業：小・中学生対象講習会（鈴鹿地区）

日程：平成26年2月7日8日

会場：鈴鹿国際大学

対象者：鈴鹿市小・中学生200人

内容：ウォームアップ、キャッチボール、守備の基本、打撃の基本、投球の基本

ミニソフトボール」振興事業（近畿地区）としても位置づけて支援を得た。

日程：平成25年11月4日

会場：加東市滝野総合運動公園多目的グラウンド（兵庫県）

対象：将来、教職を志す大学生・大学院生30名

講師：森田啓之（兵庫教育大学教員／兵庫県ソフトボール協会普及委員長）・宇津木妙子氏（日本ソフトボール協会国際委員長／元女子日本代表監督）

【近畿】

◎兵庫教育大学（男・女合同で）

事業：学校体育授業としての「ベースボール型種目の指導法」についての講習会
 （注）本事業は、大学が立案・主催した企画であるが、兵庫県ソフトボール協会が実施した「ソフトボールフェスティバル in HYOGO」の一部門として実施した。なお、日本ソフトボール協会普及研修会「

内容：①学校体育授業として実施する際のベースボール型教材の課題（講義）

②紙鉄砲を用いた初心者への、投げるの指導

③ティー台のボールを打つことによる、打つの指導

④「学校体育ソフトボール」の体験

⑤宇津木氏による、ノックの体験

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含：抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープ

要 項

ロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。



【広報記録部会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、連盟運営にご尽力を賜りました以下の方、並びに優秀な選手を平成25年3月10日の総合役員会において表彰しました。なお、2012年の第1回東アジアカップで優勝した選手を文部科学大臣杯第47回全日本大学ソフトボール選手権大会開会式で表彰しましたので、ここに記してその栄誉を称えます。

〈功労表彰〉

・浅野正和（龍谷大学監督：外部指導者）

関西リーグ女子の役員として、20余年にわたって運営等に携わった。

・岡本哲夫（香川県ソフトボール協会理事長）

長年にわたり、四国地区大学の大会開催に尽力し、大学チームの競技力、さらにはマナー向上に大きな貢献をした。

〈優秀表彰〉

・相馬満利（日本体育大学4年）

世界選手権大会において優勝。学生としてチームメンバーに唯一選ばれて活躍した。

・第1回東アジアカップ優勝選手（学年は当時）

No.	守 備 氏 名	所 属	UN	年 齢
1	投 手 泉 礼花	園田学園女子大学	16	3
2	〃 長谷川朋子	中京大学	19	3
3	〃 平原かすみ	東京女子体育大学	18	3
4	〃 三木 綾菜	日本体育大学	17	3
5	捕 手 澤井 美佑	日本体育大学	2	2
6	〃 妹山 玲奈	山梨学院大学	15	3
7	内野手 岩見 香枝	日本体育大学	4	2
8	〃 亀井 愛梨	園田学園女子大学	5	2
9	〃 相馬 満利	日本体育大学	6	4
10	〃 二階堂夏帆	日本体育大学	14	3
11	〃 古澤 春菜	園田学園女子大学	12	2
12	〃 山本絵梨奈	東京女子体育大学	13	2
13	〃 山本紗耶加	東北福祉大学	11	4
14	外野手 塚本 智名	中京大学	8	2
15	〃 永溝 早紀	環太平洋大学	7	4
16	〃 長谷川千尋	鈴鹿国際大学	9	3
17	〃 舩田妃美呼	山梨学院大学	1	4

早稲田大学吉村監督 N A F A殿堂入り

2013年8月23日、早稲田大学の吉村正監督（男女）は、N A F A（North American Fastpitch Association—北米ファストピッチソフトボール協会）の殿堂（Hall of Fame, COACH CATEGORY）入りされました。推薦された根拠は次の通りです。

1. 早稲田大学コーチ・監督として
 2. アメリカでの選手として
 3. 指導者・研究者として
 4. 日本式ティーボールを創り、ソフトボール界の底辺拡大に寄与しているとして
- のそれぞれの項目で非常に高い評価を得たことに

よります。例えば、ハワイ州の日系リーグで打者としての優れた成績を残していること、団長兼監督として17回の米国遠征を行いワールドシリーズ本大会に5回出場して2005年AA部で優勝し最優秀監督賞などを受賞していること、また、ソフトボールに関する著書が40冊以上あり中国・韓国・ブラジル等との国際交流を推進していることなどが上げられています。

これらは氏の60年以上にわたるソフトボールへの熱い情熱の成果であり、日本人として初の快挙をここにご紹介してお慶び申し上げます。

第13回 大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場の申し込みは、次の大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

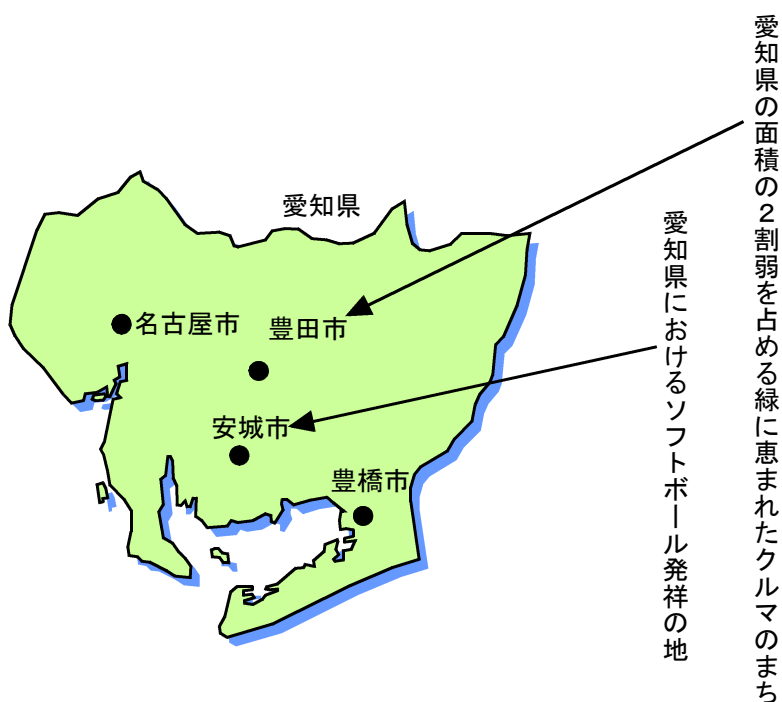
なお、出場の申し込みは学連HP <http://www9.ocn.ne.jp/~softball/index.html> 上からのE-mailのみで受け付けています。「大会要項」を熟読してからお願いいたします。申込mailに対して数日以内にその受信連絡がない場合は、別のPCから再度送信してください。

第13回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主 催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・豊田市ソフトボール協会・
安城市ソフトボール協会
3. 後 援 全日本大学ソフトボール連盟
4. 特別協賛 ダイワマルエス㈱
5. 大会期間 男子：平成26年3月25日(火)・26日(水)、予備日3月27日(木)
女子：平成26年3月19日(水)・20日(木)、予備日3月21日(金)
6. 大会会場 男子：豊田市運動公園ソフトボール場、多目的広場（3球場）
女子：安城市総合運動公園ソフトボール球場、野球場（3球場）
7. チーム数 男子12、女子12、計24チーム
8. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
なお、出場申し込み多数の場合は、各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に主催者が選抜する。
9. 出場資格 主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された選手に限る。
このうち試合ごとにベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名、主務1名の計32名以内とする。なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10. 参 加 料 1チーム20,000円
11. 申込方法 E-mailアドレス mztn@seagreen.ocn.ne.jp へmailの件名を「〇〇大学(男女)東海オープン参加申込」とし、2月10日(月)までに申込書を請求すること。また、出場が認められた後、申込書ファイルを返信し、参加料を次の口座へ2月21日(金)までに振り込むこと。
【振込口座】
銀行：三菱東京UFJ銀行大府支店 口座番号(普通) 00*****
名義：ミズタニヒロシ
12. 競技方法 男女各12チームを3チームずつ4グループに分けて予選リーグ戦を1日で実施し、翌日1位グループ・2位グループ・3位グループ各4チームによる順位決定トーナメント戦を行う。
13. 競技規則 2014年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。

なお、第一日の予選リーグ戦においては、90分を過ぎて次のイニングに入らない。また、サスペンデッドゲームを採用する。

14. 使用球 ダイワマルエス社製公認革ボールとし、試合毎に新球を2個提出すること。
15. 審判員 (公財)日本ソフトボール協会公認審判員
16. 表彰 優勝チームに対し賞状と優勝杯・優勝旗杯を、準優勝チームに対し賞状と盾を授与する。なお、優勝杯と優勝旗は持ち回りとする。
17. 組合抽選 2月26日(水)午後5時から安城市総合運動公園体育館会議室において公開代理抽選を行う。
18. 費用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
19. 傷病等 主催者・主管者は大会期間中における傷害・疾病並びに事故等について一切の責任を負わない。保険証を持参し、損害賠償保険にも加入していること。なお、プレイによって損害賠償が生じるような事故が発生した場合、保険の範囲内で主催者が対応する(対応できない場合は個人賠償となる。)
20. 宿泊弁当 主催者は斡旋しない。ただし、宿泊・弁当については関係機関を紹介する。
21. 備考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
22. 問合せ先 東海地区大学ソフトボール連盟事務局 水谷 博 E-mail:mztn@seagreen.ocn.ne.jp
23. その他 本大会は、開閉会式や監督会議など競技会の形式を極力省略し、限られた時間と会場において、最大の実質的な成果が得られるよう大会運営を行います。その点をご理解のうえ、ご参加ください。



第11回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会参加募集!!

今年も標記大会を下記の通り実施しますので、各大学チームの参加を募集いたします。ゲームでの勝敗はもちろんですが、「国公立大学チーム間の交流」を大切にしたい雰囲気で行える運営を心がけますので、ご参加・協力をお願いします。

記

1. 期 日

平成26年3月22日（土）・23日（日）※3/22の夕方に簡単な交流会を予定

※できるだけ両日参加下さい（両日参加できない場合も可能な限り対応します）

2. 大会会場

兵庫教育大学ソフトボール場、加東市グラウンド他（計6面を予定）

3. 募集チーム数

男子16チーム、女子8チーム（申込多数の場合はお断りする場合があります。）

4. 参加費（チーム参加料＋傷害保険料）

チーム参加料（1日の場合：3500円、2日の場合：6000円）

傷害保険料（1人につき200円） ☆交流会参加の場合は、1人300円を別途徴収。

5. 試合数

1大学1日1～2試合、1会場1日4～5試合を予定

※組み合わせに関しましては、参加チーム数等を勘案しながら決定します。

詳細については開催側にお任せいただけますようお願い申し上げます。

6. 試 合

全試合7回戦（コールドゲームあり。80分ゲーム）

7. ルール

2014年オフィシャルソフトボールルール

8. 審 判

公認審判員（主審のみ）、学生審判（塁審は参加チームで行いますのでご協力下さい。）

9. 宿 泊

原則として関西学生リーグ所属大学以外のチームに斡旋します（4,000～6,500円くらい）。

最も安いのが大学近くの宿泊研修センターで、料金は「宿泊のみ3700円程度、食事付き＋2500円（夕食1800円、朝食700円）」（若干の変更あり）です。遠距離のチームにはできる限り安い宿舎を！と考えていますが、原則、先着順ですのお早めにご連絡下さい。

10. 食 事（昼食）

食堂・弁当屋等は斡旋しますので、各大学でご判断ください（後日案内）

11. 参加申し込み

必要事項を入力して下記アドレスにメールを送って下さい。受付後、折り返し登録用紙等を添付ファイルで送信します。なお、添付ファイルのやり取りがあるので、PC端末から必ず申し込んで下さい。

【申し込みに際して必要な事項】

- 1) チーム名（男子or女子）、2) 参加希望日、3) 宿泊希望日と人数（男・女、及び監督等）、
- 4) 申込責任者の氏名、携帯電話番号とアドレス及びPCアドレス、5) その他要望など

12. 申込締め切り

平成26年2月10日（月）

13. 申し込み先（連絡・問い合わせ先）

総務（男子チーム）：野口祐樹 兵庫教育大学2年 u12105b@hyogo-u.ac.jp

総務（女子チーム）：田中優衣 兵庫教育大学2年 u12086b@hyogo-u.ac.jp

平成24・25年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	中 野 元	熊本学園大学	丸 山 悟	日本福祉大学
	小 嶋 高 良	八戸工業大学	—	
顧 問	坂 井 正 郎	国土舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授	中 野 紀 明	国土舘大学名誉教授
	末 井 健 作	兵庫県立大学名誉教授	武 藤 政 幸	城西大学名誉教授
	吉 野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授	—	
理 事 長	高 橋 伸 次	高崎経済大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	岩 間 英 明	松本大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大 塚 健 樹	盛岡大学	筒 井 崇 護	日本体育大学
	大 塚 隆	東海大学	矢 澤 久 史	東海学院大学
	久保田 豊 司	大阪国際大学	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学
	濱 貴 一	熊本学園大学	—	
理 事	舟 山 健 一	東北福祉大学	高 橋 和 美	富士大学
	森 田 一 雄	金沢学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	石 井 雅 章	城西大学
	清 水 正	山梨学院大学	藤 原 徹	東京富士大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	水 谷 博	至学舘大学名誉教授
	山 本 英 弘	朝日大学	二 瓶 雄 樹	中京大学

理 事	大 矢 隆 二	常葉学園大学	鈴 木 正 明	四天王寺大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	秋 澤 俊 史	摂南大学
	山 本 孔 一	環太平洋大学	新 垣 實	沖縄国際大学
	富 田 国 興	(広島修道大学)	吉 末 和 也	関 西 大 学
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	友 坂 敏 信	富山大学
	櫻 井 佳代子	新島学園短期大学	高 橋 光 平	城西国際大学
	佐 藤 理 恵	東京女子体育大学	谷 口 佳津宏	南山大学
	松 井 健	日本福祉大学	菅 野 貴 広	静岡大学
	川 崎 千 明	岐阜経済大学	大 島 新 司	大阪工業大学
	太 田 貴久男	佛教大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	児 玉 公 正	大阪大谷大学	河 内 満	広島修道大学
	伊 勢 幸 広	高知工科大学	山 中 卓	鹿児島国際大学
	嶋 田 奈々恵	日本文理大学	—	
監 事	平 野 義 明	関西大学	細 田 きみ子	東京女子体育大学
事 務 局	〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学 高橋伸次			
	F A X : (0 2 7) 3 4 3 - 4 8 4 0		E-mail : takahas@tcue.ac.jp	
学 生 委 員 長	首 藤 弘 樹	文教大学湘南	—	
学生副委員長	濱 野 弘 幹	関西大学	深 井 彩 代	日本大学
学 生 委 員	増 子 健太郎	高崎経済大学	利根川 瑛 子	東海大学
	沖 津 千 佳	松本大学	田 渕 雄 大	慶應義塾大学
	森 口 隆 弘	東京大学	水 島 早 紀	明治大学
	山 越 愛 子	岐阜聖徳学園大学	石 神 達 也	関西大学
	小 西 このみ	園田学園女子大学	豊 田 智 加	園田学園女子大学

平成25年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	19	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 獨協大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	6	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	21	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	16	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	13	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学	
九 州	17	沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 日本経済大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 琉球大学	

平成25年度 女子加盟大学一覧			
全日本大学ソフトボール連盟			
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	8	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学 盛岡大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 松本大学	
東 京	19	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 至学館大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿国際大学 中京大学 中京学院大学 東海学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学	
近 畿	22	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	10	川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学 山口福祉文化大学	
四 国	4	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学 松山東雲女子大学	
九 州	4	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学	
男 子	136大学	平成25年12月1日現在	
女 子	103大学		
合 計	239大学		

編 集 後 記

この1年の記録を整理して驚くことは、北信越オープンの中止をはじめとして、雨天中止や順延がいかに多かったかということです。過去の正確な記録がないので、比較することができませんが、たまたま土日祝日に雨が多かったというだけではないような気がします。大会事務局を引き受けて一番苦勞するのがこの日程確保です。各地区協会・連盟の役員の皆様に記して感謝申し上げます。選手・監督の皆さんもたまにはここに思いを馳せてください。

ところで、去年のビッグニュースは何といても2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定でした。野球・ソフトボールが正式種目になる可能性はまだ残されています。願いは叶うものではなく、叶えるものです。あらゆる機会を通してこの実現に向けて行動しなければなりません。「いいね！」のクリックでもかまいません。まずはできることから。

また、本号も「学校体育ソフトボール」に関する実践研究と卒論抄録を掲載しました。これは、大学に籍を置いてソフトボールを愛する者としての危機感からです。全力を挙げてその実施率の向上に努めなければなりません。岩間・二瓶論文には現場の先生方の悩みを解消する示唆と大学人の課題に富んでいます。さらなる名案と納得させる感動をお願いします。

お願いばかりで最後になってしまいましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（部長）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙デザイン：川北卓史（画家、長野県安曇野市）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第17号

2014年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail mztn@seagreen.ocn.ne.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学

F A X (027)343-4840

U R L <http://www9.ocn.ne.jp/~softball/index.html>

E-mail takahas@tcue.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

T E L (058)263-4101

I S S N 1343-439X

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

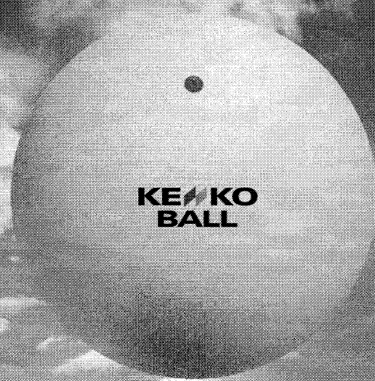
(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

GOLDSTAGE

限りない高みを目指す者たちへ。

最高のフィールドで、
最高のパフォーマンスを求める者たちが必要とするもの、
それは、心から信頼できるギア。

ASICS は最も厳しい戦いの場を多くのアスリートたちと、
共にくぐり抜けることによって、
信頼にこたえる確かな技術力を培ってきた。

その高い技術力を結集して生み出されたのが、
最上級モデル「GOLDSTAGE」。

最も厳しいステージは、
最も輝かしいステージへと続いている。
さあ、共に勝利の瞬間へ。


asics BASEBALL





ウインドミル NO. 17 (2013)

ISSN 1343-439X